

省別	炭礦名	大同二年	大同元年	民國二十年	民國十九年	民國十八年	民國十七年	民國十六年	民國十五年
黑龍江	鶴立崗	二八、〇〇五	九四、七六八	三〇〇、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
興安	甘河	三、〇〇〇		三〇、〇〇〇 (休坑)	二〇、〇〇〇	一六、〇〇〇	二六、〇〇〇	三九、〇〇〇	一、〇〇〇
熱河	北票	三、〇〇〇	三、〇〇〇	六、〇〇〇	五、〇〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇
熱河	新邱	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
熱河	孫家	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
熱河	南票	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
合計	合計	三六、〇〇五	一〇一、七六八	三三〇、〇〇〇	二二〇、〇〇〇	二二〇、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	二二〇、〇〇〇	二二、〇〇〇
省別	產地別	大同二年	大同元年	民國二十年	民國十九年	民國十八年	民國十七年	民國十六年	民國十五年
奉天	本湖	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
奉天	鞍山	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
奉天	撫順	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
奉天	西崗	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
奉天	杉松崗	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
計	計	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇

前述セルカ如ク政府ハ鑛業開發ノ方針ニ則リ、石炭鑛業ヲ統制シ、國內燃料資源ノ合理的開發ト其ノ低廉ナル供給トヲ圖リ、以テ諸般生産工業ノ發達ヲ助長シ、海外輸出ヲ増進センカ爲、大同三年二月二十七日滿洲炭鑛株式會社ヲ制定公布シ、同會社ヲシテ石炭ノ採掘及販賣ニ關スル事業ヲ營マシムルコトト爲セリ。

同會社ハ滿日合辦ニ依ル資本金一千六百萬圓ノ株式會社ニシテ、康徳元年四月三十日創立總會ヲ開催シ設立ノ手續ヲ了シ、本店ヲ新京ニ置キ其ノ業務ヲ開始セリ。同會社ノ創立ニ依リ國內石炭鑛業ハ其ノ開發上更ニ一段ノ進展ヲ加フヘシ。

二 油母頁岩鑛業

滿鐵ノ經營ニ係ル撫順炭鑛ノ炭層上ヲ蔽フ油母頁岩ハ層厚平均一二〇乃至一七〇米ヲ有シ其ノ埋藏量ハ無慮五四億噸ト稱セラル。鑛石ハ比重二乃至二・二、含油量四％ニシテ更ニ其ノ約六〇％ハ平均六％ノ採油率ヲ有シ、古城子露天掘計畫ニ依リ剝岩セラレル部分ノミニシテ推定可採量約二億噸ニ上リ、之カ全量ヲ處理スルトキハ粗油年額三三萬噸ヲ得ヘシ。而シテ同炭鑛ニ於ケル油母頁岩ハ其ノ礦量多キト、採掘費用ヲ要セサルト、殘滓ヲ坑内充填用ニ供スルコト等ノ爲、營業採算上有利ノ條件ヲ具フルヲ以テ、其ノ將來極メテ有望ナリ。

滿鐵會社ニ於テハ大正十年(民國十年)以來右油母頁岩ヲ原料トスル製油事業ニ關シ研究ノ結果、前後二個年ニ亘リ能力五十噸ノ試驗爐ヲ設ケテ試驗ヲ行ヒタルカ其ノ成績良好ナルニ鑑ミ、更ニ昭和三年(民國十七年)一月一千萬圓ヲ投シテ、月額四千噸ヲ處理シ得ル乾餾爐及粗油蒸餾工場竝抽蠟工場ノ建設ヲ企圖シ、昭和四年十二月竣工ト共ニ作業ヲ開始セリ。今撫順炭鑛ニ於ケル油母頁岩及原油產出高ヲ示セハ左ノ如シ。

年次	油母頁岩	頁岩油
大同二年	二、六八三、四四〇噸	八七、〇七六噸
大同元年	一、四二二、五五四	七〇、六三一
民國二十年	一、二四五、〇九四	六一、〇八一
民國十九年	九八一、〇〇四	四七、八一五

三 高礬土及菱苦土鑛業

高礬土及菱苦土鑛ハ共ニ輕金屬ノ原鑛トシテ、貴重ナルモノニシテ高礬土ハアルミニウム、後者ハマクネシウム製造ノ原料タリ。航空機自動車ノ發達ハ共ニ右兩金屬ノ需要益々多ク、其ノ工業化ハ極メテ緊要ノ事ニ屬ス。高礬土即硬質粘土ニハアルミナ七〇%ヲ含有スル優良鑛アリ。本溪湖、煙台、五湖嘴、關東州大魏家屯等ノ區域ニ亘リテ賦存シ、推定埋藏量一億五千萬噸ト稱セラル。未タ工業化セラルルニ至ラサル爲、アルミニウム原鑛トシテノ採掘ヲ見ルニ至ラサルモ、將來極メテ有望ナルモノアリ。

次ニ菱苦土鑛ハ奉天省營口縣大石橋、海城縣東方山地一帶ニ賦存シ、轉子山、牛心台、白虎山、官馬山、聖水寺、宋官堡子、大嶺等ヲ主要産地トス。推定埋藏量五十億噸ニシテ良質ナルモノハ苦土ノ含有率四五乃至四七%ニ及フ。

菱苦土鑛ハ目下製鋼用耐火爐材及耐火塗料トシテ年額約二萬噸ヲ日本ニ輸出スルニ過サレ共近キ將來ニ於テハ其ノ發達見ルヘキモノアルヘシ。

試ニ滿鐵地質調査所調査ニ依ル産額ヲ示セハ次ノ如シ、

年次	菱苦土鑛産出高 (單位噸)
大同二年	七一、三七六
大同元年	五五、三八六
民國二十年	三六、〇三四
民國十九年	二九、〇一六
民國十八年	三一、六八一
民國十七年	二五、四五四
民國十五年	一一、四〇〇
民國十六年	一一、〇〇〇

次ニ滿鐵中央試驗所ノ分析試驗結果ヲ掲ケ一般觀測ノ資料ニ供ス。

菱苦土鑛分析表

(滿鐵中央試驗所調査)

鑛區別	硅酸	礬土	第二酸化鐵	石灰	苦土	灼熱減量	計	比重
官馬山	1.7%	44.5%	0.3%	3.9%	44.5%	5.1%	100.0%	3.00
牛心台	1.8%	44.4%	0.7%	1.6%	44.4%	4.9%	100.0%	2.99
白虎山	2.2%	43.3%	1.0%	0.9%	43.3%	5.0%	99.9%	3.00
大嶺	0.6%	43.3%	0.5%	1.5%	43.3%	5.0%	99.9%	2.99
海城(南六十軒地點)	0.6%	44.4%	0.5%	0.0%	44.4%	5.0%	99.9%	3.00
聖水寺	2.4%	43.0%	0.3%	1.0%	43.0%	4.9%	99.9%	2.99
朱家堡	1.8%	43.5%	0.3%	0.4%	43.5%	5.1%	100.0%	2.99
平石	2.5%	43.0%	0.5%	0.7%	43.0%	4.9%	99.9%	2.99
花子山	3.3%	43.0%	0.4%	0.8%	43.0%	4.9%	99.9%	2.99
轉子山	2.6%	41.8%	1.1%	1.5%	41.8%	4.9%	99.9%	2.99

四 耐火粘土鑛業

製鐵業ノ確立ニ伴ヒ、鐵、石炭ニ亞ク必要原料ハ耐火粘土トス。我國ニ於ケル耐火粘土ノ產地ハ高礬土鑛ト同シク本溪湖、煙台、五湖嘴等ニシテ其ノ埋藏量極メテ豊富ナリ。其ノ耐火度ハ通常SK三四—三五ナルモ、稀ニ三七ニ達スル良質ノモノアリ。地質ハ古生代二疊石炭紀層ニ屬シ、粘土ハ炭田ヲ構成セル一岩層ナリ。

參考ノ爲滿鐵ノ調査ニ係ル產出高並分析表ヲ示セハ左ノ如シ。

耐火粘土產出高

年次	煙台	五湖嘴	本溪湖	計
大同二年	—	111,090	—	111,090
大同元年	—	51,704	—	51,704
民國二十年	3,420	3,420	—	6,840
十九年	4,810	4,810	—	9,620
十八年	4,810	4,810	—	9,620
十七年	10,310	10,310	—	20,620
十六年	4,121	4,121	—	8,242
十五年	4,923	4,923	—	9,846

耐火粘土分析表

鑛產地	硅酸礬土	第二酸化鐵	石灰	苦土	加里	曹達	灼熱減量
五湖嘴 第三層	45.4%	0.21%	0.3%	—	0.74%	—	14.6%
第四層	51.9%	0.3%	0.8%	—	0.7%	—	14.5%
選擇品	45.9%	0.7%	0.4%	—	0.7%	—	14.7%
普通品	43.7%	0.3%	0.5%	—	0.7%	—	14.6%
煙台	43.3%	0.7%	—	—	0.7%	—	14.6%
本溪湖	43.6%	1.0%	—	—	0.7%	—	13.6%

五 滑石鑛業

滑石ハ菱苦土鑛產地ヨリ隨伴鑛物トシテ產出スルモノニシテ、奉天省海城、蓋平兩縣地方ニ分布シ、產地トシテ大嶺、蕨耳峪、聖水寺、賈家堡子、楊家甸、宋家堡子等名アリ。地質ハ寒武利亞紀ニ屬ス。滑石ハ製紙、製絲工業用及化粧品原料トシテ日本ニ輸出セラレ、其ノ將來有望ナリ。產出高及分析表ハ次ノ如シ。

滑石產出高

大同二年	六二,四三〇
大同元年	四四,三二六
民國二十年	四〇,〇九二
十九年	二五,七二六

滑石分析表	十五年	十六年	十七年	十八年
	三四、九〇六	二二、〇〇〇	三五、〇〇〇	四〇、〇〇〇

鑛產地	硅酸	酸化鐵	礬	土	石	灰	酸化鐵
海城 大嶺	六三・一二	〇・四八	〇・四二	〇・五二	〇・五六	三一・四六	
宋家堡子	六二・五六	微量	〇・四二	〇・五二	〇・五六	三一・四六	
賈家堡子	六三・三四	〇・二五	〇・四二	〇・五二	〇・五六	三一・四六	
響子峪	六一・九六	〇・四四	〇・四二	〇・五二	〇・五六	三一・四六	
麻耳峪	六三・五〇	〇・三五	〇・四二	〇・五二	〇・五六	三一・四六	
楊家甸子	六三・二四	〇・三五	〇・四二	〇・五二	〇・五六	三一・四六	
滑石嶺	六二・六二	〇・五八	〇・四二	〇・五二	〇・五六	三一・四六	

六 其ノ他非金屬鑛業

前掲以外ノ非金屬鑛物トシテハ天然曹達、石綿、石灰石、方解石、硅石、長石、螢石、黑鉛等アリ。
 天然曹達ハ四洮及洮昂鐵道沿線方面ヨリ産出シ、特ニ大布蘇諾爾、龍江、海拉爾等著名ナリ。年産額 二五、二七五噸ト稱セラル。天然曹達ノ分析結果ハ次ノ如シ。

天然曹達分析表

鑛產地	城	食鹽	芒	硝	不溶物	水分
玻璃山城土	一〇乃至五〇	〇・五八	〇・五〇	八二・三六	一三・三〇	
大布蘇豐庫及千家屯	二・一八	一・六七	〇・三二	八五・五八	三・三一	
大布蘇大平川南城土	七・五五	〇・二一	〇・五一	〇・七一	五七・六七	
大布蘇盒城	四〇・八三	一九・三八	三・一〇	五・〇〇	二七・〇〇	
大布蘇磚城	四三・四四					

石綿ハ耐火、保温料トシテ用ヒラレ、奉天省寬甸縣大荒溝及海城縣地方ニ産出スルノ外、關東州内金州和尚屯ヨリ出ツルモ何レモ鑛床ノ規模小ナリ。
 石灰石ハ、セメント、硝子製造原料及製鐵用鎔煤劑トシテ用ヒラレ、本溪湖、煙台、五湖等ノ外關東州周水子附近ヨリ多量ニ採取サレツツアリ。
 方解石ハ硝子製造原料トシテ採掘セラレ、關東州内諸所ノ石灰岩中ヨリ脈狀ヲナシテ産出ス。
 硅石ハ耐火煉瓦原料、カッツグラス原料トシテ用ヒラレ、主トシテ關東州内旅順、金州、普蘭店等ヨリ豊富ニ産出ス。長石ハ窯業用原料トシテ用ヒラレ、奉天省海城縣地方及關東州普蘭店附近ヨリ産出ス。
 螢石ハ奉天省蓋平深蘆家屯、沙崗台附近ノ外關東州内普蘭店附近隨家屯ヨリ産出スルモ、近年何レモ採取ヲ休止セリ。石炭、油母頁岩、菱苦土、滑石、耐火粘土以外ノ非金屬鑛物ノ産出高ヲ示セハ次ノ如シ。

非金屬鑛種別累年産出額 (單位噸)

ス、未タ何等ノ方途ヲ講セラレシテ今日ニ及ヒタルモノト見ルヘシ。
 政府ハ如上ノ缺陷アルニ鑑ミ、先ツ原始産業ノ發展ニ努力スルト共ニ統制經濟ニ於ケル工業發展ノ分野ヲ明確ニシ、曩ニ發表セル經濟建設綱要ニ則リ滿日經濟プロツクノ主旨ニ添フヘク、且軍事上、國防上、公益上ノ重要性ヲ顧慮シ、工業ニ對シテ、統制企業ト自由企業トヲ分チ、又滿日工業ノ衝突及一部資本家ノ利益壟斷ヲ防止シ、以テ自由競争ニ依ル共倒ヲ防ク等大イニ意ヲ用ヒ充分ナル統制監督ノ下ニ疲弊セル諸工業ノ發展ニ主力ヲ注キツツアリ。
 從來我國ノ工場狀態ノ調査ハ從來關東廳竝ニ滿鐵ニ依リテ部分的ニ調査セラレタルニ止リ、未タ全般的ニ實施セラレタル例ヲ見ス、此期ニ政府ハ工業政策樹立上工場調査ノ實施ヲ企圖シ、大同三年一月滿鐵竝ニ關東廳ト協力ノ下ニ全國ニ亘リテ一齊ニ工廠調査ヲ實施セリ。然レ共未タ其ノ調査結果ヲ得ルニ至ラサルヲ以テ、以下參考ノ爲ニ滿鐵經濟調查會刊行ニ係ル「昭和七年滿洲產業統計」ニ據ル計數ヲ掲ケ以テ我國工業現勢ノ大觀ヲ示サントス。

工場數	四、〇七九
投資額	二四二、三二〇、一〇七
生産額	
大豆油	三一、六二八、三七二
大豆粕	七二、一二四、七六六
麥粉	二二、八三三、七七五
銑鐵	一一、〇八〇、六三六
其他	一八六、七二二、五九七
合計	三二四、三八九、一四六

原動機	二九一、三五五
職工數	一〇八、九〇六
發電所發電量	五五四、九一五
瓦斯製造量	一五、二四四、六三〇

馬力
KW
方呎

二 工業行政

世界經濟プロツク形式ノ銳角化セル渦中ニアリテ國民經濟ノ健全ナル發達ヲ圖ランカ爲、政府ハ工業政策樹立ヲ目途シテ曩ニ發表セル經濟建設綱要ノ根本方針ニ則リ著々之カ實行ノ歩ヲ進メツツアリ。蓋シ盟邦日本國トノ經濟的協調融合政策ハ刻下世界經濟ノ必然的一過程ナリト確信セララルカ故ナリ。故ニ我工業政策ノ目標ハ基礎的國防資源ノ開發竝ニ國民經濟ノ發達ニ在ルモノニシテ就中農畜産ヲ原料トスル化學工業ハ其ノ樞軸タルヘキモノトス。

工業行政機關 現在我國ノ工業行政機關ニ就テハ、中央ニ實業部工商司(工務科)、興安總署勸業處(工商科)アリ。地方ハ各省公署實業廳(工商科)、各特別市公署行政處、北滿特別區公署行政處、興安各分省公署民政廳(勸業科)更ニ各縣公署ノ實業局各旗公署ノ內務科アリ。中央ノ統制下ニ各所轄區域ニ於ケル工業行政ヲ掌ル。
工業ノ統制 建國以來工業ノ發達ニ關シテハ最モ國情ニ適シ妥當ナル助成方法ヲ考究シ來リタル結果、一定ノ企業ニ對シテハ國內ノ需要ニ伴ヒ所要ノ統制ヲ加ヘ以テ其ノ發達ヲ期セリ。今其ノ種類ヲ示セハ次ノ如シ。

金屬工業、機械工業、油脂工業、バルブ工業、曹達工業、酒精工業、柞蠶絲工業、紡績工業、製粉工業、セメント工業、

醸造工業、電氣工業。

而シテ前記以外ノ企業ニ對シテハ差當リ自然ノ發達ニ委ヌヘキモ將來必要ニ應シ所要ノ統制ヲ加フル方針ヲ樹立セリ。斯クテ之ニ應センカ爲現在統制ヲ加ヘラレシモノヲ舉クレハ即チ次ノ如シ。

石油工業 國內ニ於ケル石油資源ヲ確保シ、需要ノ調整ヲ圖ル爲大同三年二月二十一日滿洲石油株式會社法ヲ制定シ、官民ノ出資ヲ以テ滿洲石油株式會社ヲ設立シ、石油ノ採掘、精製及賣買ニ關スル業務ヲ營マシメタリ。

自動車工業 自動車工業ノ統制アル健全ナル發達ヲ圖ランカ爲、康徳元年三月二十二日同和自動車株式會社法ヲ制定シ、同和自動車株式會社ヲ設立セシメ、實業部大臣ノ監督ヲ受ケ自動車ノ組立、製造、修理及賣買ニ關スル業務ヲ營マシムルコトトセリ。

電氣工業 國內電氣事業ノ統一經營ヲ行ヒ低廉ナル電力ノ供給ヲ圖ランカ爲ニ先ツ電氣事業及電氣利用ノ進歩發達ヲ圖ルヲ目的トシテ、政府ハ補助金ヲ交付シテ電氣協會ノ指導ニ努メ、或ハ電氣統制上周波ヲ五十サイクルニ公定スル等著著カカ實施ヲ進メツツアルモ、尙電氣關係法規ヲ整備シ近キ將來ニ於テ特殊會社ノ設立ヲ見ントスルニ至レリ。

其ノ他株式會社組織ニ依リ企業ヲ許可シタルモノニ煙草、酒精、セメントノ各工業アリ。尙一般工業ノ統制ニ關シ其ノ根本方針ヲ明確ニスル爲、工業法ノ制定ヲ急キツツアリ。

工業ノ指導獎勵 工業行政上最モ顧慮スヘキハ中小工業ノ指導、監督、助成トス、國內ノ各種工場ヲ見ルニ薄資微力ニシテ製造加工ノ設備充分ナラサルハ勿論、製造販賣ニ至ル迄極メテ不合理ナル慣習ヲ固執スルモノ多シ。即チ之等ニ對シテハ須ラク指導獎勵ノ方途ヲ講スヘキ要アルヲ以テ、其ノ一方法トシテ吉林地方ニ於テハ、工藝ノ改善ヲ圖ランカ爲、同省立工藝廠、女工廠ヲ改組シテ工業講習所ト爲シ、工藝指導ノ改善ヲ圖リタル外、車輛工業改善ニ關シ滿蒙車輛研究委員會ヲ

設置シ、之ニ補助金ヲ交付シテ地方農村ニ於ケル運搬器ノ改善研究ヲ獎勵セリ。

尙工業者間ノ連絡提携ニ缺陷アリ、且從來工商同業公會ヲ以テシテハ能ク之等ノ缺陷ヲ矯正シ得サルニ鑑ミ、政府ハ新ニ工業組合法ヲ制定シテ同業團體ノ強化ニ依リ舊弊ヲ除去シ、長所ノ助長ヲ圖ルヘク攻究ヲ進メツツアリ。次ニ輸出工業產品殊ニ柞蠶糸ニ就テハ、從來砂糖ヲ使用シテ増量ヲ圖リタルモノ多ク、對外信用ヲ失墜スル虞アルモノアリ、斯クノ如ク重要輸出品ニ就キテハ品質検査ヲ嚴重ニ行フ必要アルヲ以テ、政府ハ重要工業產品ノ品質ノ向上ト之ニ伴フ信用ノ増進ヲ圖リ次テ該工業ノ振興ヲ圖ルヘク検査所ヲ設置シテ不正品取締ヲ實施スル方針ナリ。

各種調査ノ實施 各種工業ヲシテ眞ニ充分ナル發達ヲ圖ラシメンカ爲、叙上ノ如ク政府ハ漸次剴切ナル統制又ハ助長ノ方途ヲ講シ來レルモ、從來此等工業ノ實狀ニ關シテハ闡明セラレタル資料缺如セルヲ以テ、實業部ニ於テハ全國工場調査、油房調査、製粉工業調査、柞蠶糸工場調査、燒鍋業調査、紡績工業調査、洋襪製造工業調査等ヲ計畫シ既ニ實施中ナリ。

三 工場及職工數

大同元年度ニ於ケル全滿(關東州及滿鐵附屬地ヲ含ム)ニ於ケル工場數ハ四千七十九ニシテ、内國人ノ經營ニ係ル工場數三千二百五十ニシテ、總數ノ約八〇%ヲ占メ、日本系七百五十四ニシテ之ニ次キ、其ノ他各國側七十五ナリ。次ニ之ヲ滿鐵沿線及滿鐵以外ノ鐵道沿線ニ於ケル各主要都市ニ就テ見ルニ、前者ニ於ケル工場數ハ後者ノ夫レニ約二倍シ、然モ前者地域ニ所在スルモノノ數カ總計ノ五七%ヲ占ムル點ヨリ見テ我國工場ノ大半ハ滿鐵沿線主要都市ニ集中セラレ居ルモノト言ヒ得ヘシ。尙之ヲ各都市別ニ付テ見レハ奉天ノ八百三十三(二三%)ヲ最トシ、以下安東四百十三(一〇%)、哈爾濱三百五十六(八%)、新京二百八十八(七%)等ヲ主ナルモノトス。

又之ヲ各業種別ニ就テ見ルニ、紡績工業最モ多ク、化學工業之ニ次キ、食品工業、窯業、金屬工業、機械器具工業ノ

順ナリ。即チ次表ノ如シ。
(其ノ一) 工場數

地別	金屬工業		機械器具工業		窯業		紡織工業	
	滿洲側	日本側	滿洲側	日本側	滿洲側	日本側	滿洲側	日本側
新奉天	100	0	0	0	0	0	0	0
遼陽	0	0	0	0	0	0	0	0
安東	0	0	0	0	0	0	0	0
營口	0	0	0	0	0	0	0	0
其他	0	0	0	0	0	0	0	0
計	100	0	0	0	0	0	0	0
齊齊哈爾	0	0	0	0	0	0	0	0
吉林	0	0	0	0	0	0	0	0
洮南	0	0	0	0	0	0	0	0
鄭家屯	0	0	0	0	0	0	0	0
其他	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0
關東	0	0	0	0	0	0	0	0
大連	0	0	0	0	0	0	0	0
其他	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0
其他ノ地方	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	100	0	0	0	0	0	0	0

地別	化學工業		食料品工業		雜工業		合計	
	滿洲側	日本側	滿洲側	日本側	滿洲側	日本側	滿洲側	日本側
新奉天	100	0	0	0	0	0	100	0
遼陽	0	0	0	0	0	0	0	0
安東	0	0	0	0	0	0	0	0
營口	0	0	0	0	0	0	0	0
其他	0	0	0	0	0	0	0	0
計	100	0	0	0	0	0	100	0
齊齊哈爾	0	0	0	0	0	0	0	0
吉林	0	0	0	0	0	0	0	0
洮南	0	0	0	0	0	0	0	0
鄭家屯	0	0	0	0	0	0	0	0
其他	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0
關東	0	0	0	0	0	0	0	0
大連	0	0	0	0	0	0	0	0
其他	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0
其他ノ地方	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	100	0	0	0	0	0	100	0

地 別	化學工業		食品工業		雜工業		總計	
	滿洲側	日本側	滿洲側	日本側	滿洲側	日本側	滿洲側	日本側
關東	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
大連	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
其他	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
計	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
其他地方	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
合 計	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

備考 (一) ハ休業ヲ示ス滿鐵沿線都市ハ滿鐵附屬地及其ノ附近一帯ヲ含ム

次ニ職工數ハ關東州ヲ含ミテ十萬八千九百六名ニシテ、滿人其ノ九十四%ヲ占メ、日本人ハ其ノ大部分滿鐵沿線各都市並大連ニ在リ、其ノ數六千四十七名、(内朝鮮人約二千人)、蘇聯人僅カ四十五名ニ過キス。更ニ之ヲ各業種別ニ就テ見ルニ、常用職工數ハ工場數ト比例シ、其ノ最モ多數ヲ占ムルハ紡績工業ニシテ總數ノ三分ノ一ニ當リ、以下化學工業、窯業、機械工業、飲食品工業、金屬工業之ニ次ク。

(其一) 職工數及賃金

地 別	金屬工業		機械器具工業	
	滿人	日人	滿人	日人
滿洲側	三〇八	四	四五一	二九
日本側	四	六三、四九三	五、九五二	一九一、六八四
計	三一二	六三、四九七	四九六	二一〇、八七二

地 別	鐵沿線		鐵以外		其他地方	
	滿人	日人	滿人	日人	滿人	日人
奉天	〇	〇	〇	〇	〇	〇
遼陽	〇	〇	〇	〇	〇	〇
安東	〇	〇	〇	〇	〇	〇
營口	〇	〇	〇	〇	〇	〇
其他	〇	〇	〇	〇	〇	〇
計	〇	〇	〇	〇	〇	〇
關東	〇	〇	〇	〇	〇	〇
大連	〇	〇	〇	〇	〇	〇
其他	〇	〇	〇	〇	〇	〇
計	〇	〇	〇	〇	〇	〇
其他地方	〇	〇	〇	〇	〇	〇
合 計	〇	〇	〇	〇	〇	〇

地 別	化學工業		食品工業	
	滿 人	職 工 延 數	滿 人	職 工 延 數
滿 鐵 沿 滿				
齊 哈 齊	1,180	1,180	1,180	1,180
哈 爾 濱	1,180	1,180	1,180	1,180
計	2,360	2,360	2,360	2,360
其 他				
營 口	1,180	1,180	1,180	1,180
安 東	1,180	1,180	1,180	1,180
遼 陽	1,180	1,180	1,180	1,180
奉 天	1,180	1,180	1,180	1,180
新 京	1,180	1,180	1,180	1,180
計	5,720	5,720	5,720	5,720
總 計	8,080	8,080	8,080	8,080

(其 三)

地 別	關東州	
	其 他	大 連
合 計	10,000	10,000
其 他 地 方	10,000	10,000
大 連	10,000	10,000
計	20,000	20,000

地 別	滿 鐵 沿 線		滿 鐵 外 以	
	滿 人	職 工 延 數	滿 人	職 工 延 數
滿 鐵 沿 線				
齊 哈 齊	1,180	1,180	1,180	1,180
哈 爾 濱	1,180	1,180	1,180	1,180
計	2,360	2,360	2,360	2,360
滿 鐵 外 以				
吉 林	1,180	1,180	1,180	1,180
齊 齊 哈 爾	1,180	1,180	1,180	1,180
計	2,360	2,360	2,360	2,360
總 計	4,720	4,720	4,720	4,720

(其 二)

四 工業資本金

工業資本金ハ可及的實際ノ投資額ニ依リ計上セルモノニシテ、其ノ總額約二億四千餘萬圓ニ達ス。然レ共之ヲ各國別ニ見レハ我國ハ内六千七百九十餘萬圓ニシテ總額ノ約二八%ヲ占ムルニ過キス。其他各國ノ一千九百餘萬圓(總額ノ八%)ヲ除キタル一億五千四百餘萬圓ハ實ニ日本側ノ投資セルモノニシテ總額ノ約六三%ヲ占ム。尙日本以外ノ前記各國投資額中特ニ注意スヘキハ英國ニシテ、日本ヲ除ク各國ノ約四八%ヲ占メ、専ラ煙草工業ニ投下セラレタルモノナリ。投資額ヲ示セハ次ノ如シ。

工業資本金

(業種別及比率)

業種別	滿洲側		日本側		其他		計	
	總額	比率	總額	比率	總額	比率	總額	比率
金屬工業	三六、〇〇〇圓	〇・六%	三、六七、九五〇圓	〇・五%	二、五六、六〇三圓	〇・六%	四、〇〇、四〇三圓	一・六%
機械器具工業	五、七五、六三三圓	八・四%	三、〇、八八四圓	〇・四%	一、〇八、五三三圓	三・一%	三、七、六三〇圓	一・一%
窯業	二、九〇、三四四圓	四・四%	一、五、九五六圓	〇・二%	一、七、三四六圓	〇・五%	三、七、六三〇圓	一・一%
紡績工業	八、〇九、六九二圓	一二・八%	一、五、八七一圓	〇・二%	六、〇〇〇圓	〇・一%	一、四、六八三圓	〇・四%
化學工業	二、七、七三六圓	三・九%	三、七、九二五圓	〇・五%	五、〇〇〇圓	〇・一%	八、〇、〇六〇圓	二・五%
食品工業	二、〇五、六〇三圓	三・一%	三、〇、七二八圓	〇・四%	二、一八、八〇〇圓	〇・六%	四、八、一五〇圓	一・五%
雜工業	三、〇、〇七〇圓	〇・四%	一、三、七六〇圓	〇・二%	一、一、〇〇〇圓	〇・三%	五、五、八三〇圓	一・七%
計	三、七、七三六圓	一〇〇・〇%	一、三、七六〇圓	一〇〇・〇%	一、一、〇〇〇圓	一〇〇・〇%	一、三、七六〇圓	一〇〇・〇%

工業資本金ヲ業種別ニ見ルニ、其ノ順位ハ化學工業、食品工業、金屬工業等ニシテ、其ノ最モ代表的ナルモノヲ舉クレハ、化學工業ニ於テハ大豆油工業(二千九百餘萬圓)、食品工業ニ於テハ製粉工業(一千七百餘萬圓)、金屬工業ニ於テハ製鐵業(三千二百餘萬圓)等ナリ。

而シテ一工場ノ平均投資額ハ約六萬圓ナルモ、我國ニ於テハ平均僅カ二萬圓台ニ過キス。日本及其ノ他各國ノ平均ハ二十萬圓ヲ超ヘ、我國ノ平均投資額ノ十倍以上ニ當ル、之レ我國工業界ノ現勢ヲ示スモノニシテ注目スヘキ事實ナリ。

五 工業生産額

大同元年度現在ニ於ケル工業生産額總額ハ三億二千四百餘萬圓ニシテ、主ナル種業別ニ就テ見ルニ、化學工業ノ一億二千四百餘萬圓(三八%)、飲食料製造工業ノ六千餘萬圓(一九%)、紡績工業ノ四千餘萬圓(一二%)、機械器具工業ノ二千八百萬圓(九%)等ナリ。

而シテ更ニ之ヲ各業種別ニ就キ檢討スルニ、化學工業ニ於テハ大豆油工業ノ一億五百餘萬圓(三九%)、飲食料品製造工業ニ於テハ製粉業ノ二千四百餘萬圓(三九%)、紡績工業ニ於テハ綿絲綿織物業ノ二千三百餘萬圓(五七%)、機械器具製造工業ニ於テハ鐵道車輛工業ノ二千餘萬圓(七一%)、金屬工業ニ於テハ製鐵業ノ一千百餘萬圓(七八%)等ナリ。次ニ地方別ニ就キ之ヲ見レハ、滿鐵沿線各都市ト關東州トノ合計ハ二億五千餘萬圓ニシテ總額ノ約八〇%ヲ示シ、其ノ工業資本金ト比例シテ著シキ數額ヲ示セリ。

業種別生産額

地別	業種別生産額									
	金屬工業	機械器具工業	窯業	紡績工業	化學工業	飲食工場	雜工業	計	工場數	生産額
新奉天	1,611,717	5,968,613	3,733,733	1,262,070	1,335,749	3,733,733	1,010,776	3,733,733	16	1,335,749
遼陽	4,021,333	3,113,111	3,113,111	3,113,111	3,113,111	3,113,111	3,113,111	3	3,113,111	
安東	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3	3,000,000	
營口	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3	3,000,000	
其他	2,233,333	2,233,333	2,233,333	2,233,333	2,233,333	2,233,333	2,233,333	2	2,233,333	
計	13,868,083	18,223,057	15,770,077	12,681,504	12,681,504	12,681,504	12,681,504	12	12,681,504	
齊齊哈爾	4,913,000	3,275,000	3,275,000	3,275,000	3,275,000	3,275,000	3,275,000	3	3,275,000	
吉林	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1	1,611,717	
洮南	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1	1,611,717	
鄭家屯	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1	1,611,717	
其他	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1	1,611,717	
計	11,369,968	9,121,167	9,121,167	9,121,167	9,121,167	9,121,167	9,121,167	6	9,121,167	
大連	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1	1,611,717	
其他	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1	1,611,717	
計	3,223,434	3,223,434	3,223,434	3,223,434	3,223,434	3,223,434	3,223,434	2	3,223,434	
其他地方	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1	1,611,717	
計	3,223,434	3,223,434	3,223,434	3,223,434	3,223,434	3,223,434	3,223,434	2	3,223,434	
合計	24,060,564	31,567,681	28,793,911	24,904,074	24,904,074	24,904,074	24,904,074	20	24,904,074	

地別	業種別生産額									
	金屬工業	機械器具工業	窯業	紡績工業	化學工業	飲食工場	雜工業	計	工場數	生産額
新奉天	1,611,717	5,968,613	3,733,733	1,262,070	1,335,749	3,733,733	1,010,776	3,733,733	16	1,335,749
遼陽	4,021,333	3,113,111	3,113,111	3,113,111	3,113,111	3,113,111	3,113,111	3	3,113,111	
安東	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3	3,000,000	
營口	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3	3,000,000	
其他	2,233,333	2,233,333	2,233,333	2,233,333	2,233,333	2,233,333	2,233,333	2	2,233,333	
計	13,868,083	18,223,057	15,770,077	12,681,504	12,681,504	12,681,504	12,681,504	12	12,681,504	
齊齊哈爾	4,913,000	3,275,000	3,275,000	3,275,000	3,275,000	3,275,000	3,275,000	3	3,275,000	
吉林	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1	1,611,717	
洮南	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1	1,611,717	
鄭家屯	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1	1,611,717	
其他	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1	1,611,717	
計	11,369,968	9,121,167	9,121,167	9,121,167	9,121,167	9,121,167	9,121,167	6	9,121,167	
大連	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1	1,611,717	
其他	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1	1,611,717	
計	3,223,434	3,223,434	3,223,434	3,223,434	3,223,434	3,223,434	3,223,434	2	3,223,434	
其他地方	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1,611,717	1	1,611,717	
計	3,223,434	3,223,434	3,223,434	3,223,434	3,223,434	3,223,434	3,223,434	2	3,223,434	
合計	24,060,564	31,567,681	28,793,911	24,904,074	24,904,074	24,904,074	24,904,074	20	24,904,074	

備考 休業中ノ工場ヲ除ク

第二節 主要工業

一 窯業

セメント工業 滿洲ニ於ケルセメント工業ハ 明治四十一年 關東州周水子ニ小野田セメント會社大連支社工場ノ設置セラレタルヲ以テ其ノ初メトナス。即チ此時ヨリ以前ニ在リテハ日露兩國其ノ他ノ鐵道敷設及土木建築工事ノ増加ニ依リセメントノ需要亦少カラサリシモ專ラ之ヲ輸入ニ仰キ居タリ。

由來我國ハ石灰石、菱苦土礦、白雲石頁等ノセメント原料ニ富ミ且製鐵工業ニ伴フ鑛銻ノ產出アル外、本企業ニ對スル有利ナル條件ノ存在及需要ノ増加ハ特ニ歐洲大戰直後以來セメント工業ノ發達ヲ促スニ至レリ。其ノ主ナルモノ滿洲セメント會社、東洋セメント會社（ポートルランドセメント）等ノ如シ。然レトモ唐山セメント、沿海州スバスカセメント、日本其ノ他外國産セメントノ競争アリ、加フルニ一般經濟界ノ不況ト共ニ本工業亦自ラ不振ノ状態ニ陥レリ。尙鞍山製鐵所、本溪湖製鐵所、南滿鑛業株式會社、華中鑛業公司、滿洲微粉工業會社其ノ他ノ工場ニ於テ高爐セメント、マグネシヤセメント、ドロマツチクセメント等ノ生産ヲ行ヒタルモ事業好調ヲ迎ラス、此ノ間僅カニ小野田セメント會社工場ノミハ漸次其ノ規模ヲ擴張シ全滿需要量ニ相當スルポートルランドセメントヲ生産スルニ止マリタリ。

然ルニ我建國以來一般土木建築工事頓ニ激増シ、セメントノ需要亦巨額ニ及ヒタル爲、本工業ハ未曾有ノ好況ヲ呈スルニ至レリ。此ノ機運ニ乘シ新ニ興レルモノトシテハ大同洋灰股份有限公司（生産能力十一萬噸）ノ吉林ニ設立セラルルア

リ。更ニ滿洲セメント株式會社（十二萬噸）ヲ遼陽ニ設立計畫中ナリ。其ノ他鞍山製鐵所ノ鑛銻セメント作業復活ノ議アリ、撫順頁岩セメントノ產出亦遠カラサルカ如シ。

滿洲産業統計ニ據ル大同元年度ニ於ケルセメントノ生産額ハポートルランドセメント、生産額一〇八、四〇八噸、價額一、四〇八、〇五〇圓、其ノ他ノセメント、生産額三一、九八一噸、價額七〇八、五六二圓ナリ。更ニ其ノ輸出入額ヲ示セハ次ノ如シ。

大同二年	輸 入		輸 出	
	噸	圓	噸	圓
大同元年	三、四一八、九一五	六、三三八、一三三	二四〇、三三四	三七六、五九〇
	四一六、一九六	一、〇〇四、七六六	五九四、八八一	九三三、四三三

煉瓦製造業 我國ニ於ケル煉瓦ノ製造ハ極メテ古キ沿革ヲ有シ、古代ノ遺物トシテ現ハルルモノニハ其ノ質相當優秀ナルモノヲ見ルモ、現今使用セラレツツアル黒煉瓦ハ其ノ質脆弱粗惡ニシテ家内工業的ニ生産セララルルモノナリ。其ノ主産地ヲ奉天、新京、齊々哈爾、洮南等トス。一般ニ赤煉瓦ト稱スルモノハ前者ト異ナリ相當ノ工場ニ於テ生産セララルルモノニシテ一九一〇年頃ヨリ產出ヲ見ツツアリシカ、近時新興建設事業ノ増加ニ伴ヒ機械製赤煉瓦ノ需要亦増加シ業務ノ好況ヲ來セリ。

滿洲産業統計ニ依レハ大同元年度ニ於ケル煉瓦製造業ニ對スル投資額ハ普通煉瓦四百餘萬圓、特殊煉瓦六十餘萬圓合計四百六十餘萬圓ニシテ、其ノ生産額ハ普通煉瓦一九七、五八九、三四〇個、價額一、七四四、五七三圓、耐火煉瓦二三、七〇八噸、價額三〇〇、四一三圓、屋根瓦一、八九四、九〇〇個、價額四四、四二六圓ニシテ其ノ總價額二百餘萬圓ニ達ス。

二 製鐵工業

國內ニ於ケル製鐵原料ハ滿鐵鑛ヲ除ク外極メテ豊富ニシテ、現在迄ニ發見採掘セラレツツアル鐵鑛々區トシテハ鞍山附

近二十數個所、本溪湖附近二十二個所並ニ弓張嶺鐵山アリ、其ノ埋藏量十二億噸ヲ超ユト稱セラレ、其ノ他石灰、石炭、耐火材料共ニ豊富ニシテ勞賃ノ低廉等ト相俟チ製鐵事業ノ將來ヲ有望ナラシムルモノト謂フヘシ。只憾ムラクハ鐵鑛石ノ含鐵分低ク、富礦ニ乏シキモ、鞍山製鐵所ニ於ケル貧鑛處理法ノ完成ハ、國內ニ於ケル製鐵業ノ將來ニ多大ノ期待ヲ與ヘシメタルト共ニ、最近ニ至リ銑鋼一貫主義ノ實現セラレタルハ獨リ經濟建設途上ニアル我國ノ爲ノミナラス、滿日兩國ノ製鐵國策上慶賀ニ堪ヘサル所ナリ。

國內ニ於ケル製鐵事業トシテハ現在本溪湖煤鐵公司及昭和製鋼所ノ二者ヲ算スルノミナリ。本溪湖煤鐵公司ハ宣統三年日支合辦事業トシテ創立セラレタルモノニシテ、民國六年ニ至リ諸般ノ設備ヲ完成シタルモ、引續キ歐洲大戰後ノ經濟界ノ不況ニ禍セラレ縮小ヲ重ネ、一時事業ノ中止ヲ見タルモ、民國十二年ヨリ復活シ漸次好調ヲ辿リツツアリ。大同二年ニ於ケル銑鐵生産額ハ八一、〇五六噸、價額三、三七五、六二六圓ナリ。

昭和製鋼所ハ昭和二年以來滿鐵ヲ中心トシテ鞍山製鐵所トノ合理的經營ヲ企圖シテ計畫セラレタルモノニシテ、昭和四年五月日本政府ノ認可ヲ得タルモ、工場敷地共ノ他ノ問題ノ爲選延シツツアル間偶々滿洲事變ノ勃發ニ遭ヒ一時中絶ノ状態ニアリシカ、建國ト共ニ本問題亦解決ノ緒ニ就キ銑鋼一貫主義ニ基キ既存ノ鞍山製鐵所ヲ合併シテ工場ヲ鞍山ニ置クコトト定メ大同二年六月ヨリ新工事ニ着手シ、康徳二年竣工ノ豫定ナリ。

同製鋼所ハ資本金一億圓、生産能力年産四〇萬噸（鋼材一三〇、〇〇〇噸、銑鐵七九、六〇〇噸、鋼片二〇〇、〇〇〇噸）ニシテ、製品ハ銑鐵及鋼片ハ主トシテ之ヲ日本内地ニ供給スル外、中華民國、南洋方面ニ市場ヲ開拓セントス。大同二年ニ於ケル同製鋼所ノ生産額ハ銑鐵二八七、二二四噸、價額七、七〇五、〇一〇圓ナリ。

一方國內ニ於ケル鐵及鋼ノ需要ハ各般經濟建設ノ發表ニ伴ヒ益々増加シ、其ノ國內自給自足ノ途未タ遠キヲ感セシム。

今大同元年及二年ニ於ケル銑鐵輸出額並ニ鐵及鋼ノ輸出入額ヲ見ルニ左ノ如シ。

	輸 出		輸 入	
	數 量	金 額	數 量	金 額
大同二年	八、二四六千擔	一〇、四四六千圓	—	三九、九九六千圓
大同元年	六、一〇〇千擔	一五、〇六九千圓	—	二一、三〇八千圓

三 機械器具製造業

機械工業トシテハ從來大連其ノ他ニ滿鐵鐵道工場、大連機械製作所等約十工場アリタル外、建國以來多數ノ新計畫現ハレ逐次増加ノ趨勢ニアリ。其ノ主ナルモノヲ舉クレハ奉天ニ於ケル奉天造兵所、滿洲工廠、日滿鋼材工場、鞍山ニ於ケル日本レール會社軌條工場等アリ。

滿鐵鐵道工場ハ同社ニ使用スル車輛ノ製作、組立、修繕ヲ目的トシ明治四十一年（光緒三十四年）沙河口ニ設立セルモノニシテ大連機械製作所ハ大正七年（民國七年）ノ創立ニ係リ、主トシテ滿鐵鐵道工場ノ下請ヲ爲スモノニシテ、車輛、線路用品、機械類等ノ製作ヲ爲シツツアリ。

奉天造兵所ハ舊政權ノ設立セル奉天造兵廠ノ設備ヲ利用シ大同元年十月日本ノ出資ニ依リ株式會社奉天造兵所トシテ設立セラレタルモノナリ。各種兵器彈藥類、火藥類及其ノ原料品、諸器具機械類、金屬各種材料及其ノ製品ノ製造、修理、販賣ヲ爲スヲ目的トス。

尙自動車工業ニ關シテハ之ニ統制ヲ加ヘ以テ健全ナル發達ヲ圖ル要ヲ認メ、同和自動車工業株式會社ヲ設立シ、實業部

大臣監督ノ下ニ自動車ノ組立、製造、修理及賣買ニ關スル業務ヲ營マシムルコトナレリ。
 各般建設事業ノ進展ハ各種機械器具ノ需要ヲ激増スヘク、本工業ノ將來亦洋々タルモノアリ。今機械器具、鐵道及其ノ他車輛及造船工業生産額ヲ見ルニ左ノ如シ。

	工場數	生産額
機械器具	一〇五	五、七九二、七三八
鐵道車輛	六三	二〇、六三四、三七〇
其ノ他車輛	四八	四七六、八九〇
造船	七	一、三二七、四八〇
計	二三三	二八、二三一、四七八

又參考ノ爲大同元年及同二年度ニ於ケル、車輛類ノ輸入額ヲ示セハ大同元年五、二五〇千圓、大同二年二二、六九八千圓ナリ。

四 製油工業

油房業 油房業ノ初メテ現ハレシハ約六十年前ノコトニシテ、既ニ日清戰役ノ頃牛莊(現在ノ營口)ニハ油房三十餘ヲ算シタリ。而シテ此等ハ何レモ小規模ニ經營セラレタルモノナルカ、其ノ後水壓式壓搾機ノ利用普及ハ遂ニ今日ノ如キ大工業發達ノ礎地ヲ爲スニ至レリ。

油房ノ目的ハ初メ豆油ノ生産ニアリ、豆粕ハ其ノ副産物トシテ家畜ノ飼料ニ供セララルルニ過キサリシカ、逐年豆粕ノ肥

料トシテノ價值高マリ、日本其ノ他ニ於ケル需要ノ激増ハ延イテ油房ノ主目的ヲ逆轉シ、豆粕ノ製造ヲ主體トシ豆油ヲ副産物ト爲サシムルニ至リタリ。斯クテ歐洲大戰ヲ機トシ油房業ハ異常ナル發達ヲ來シタルモ、近年ニ至リ經濟界ノ世界的不景氣、輸出入貿易上ノ障礙、硫安ノ進出等ニ因リ多大ノ打撃ヲ蒙リ不振ノ状態ニ陥レリ。
 現在國內ニ散在スル油房工場ハ其ノ數三千ニ餘ルモ、内相當ノ能力設備ヲ有スルモノヲ示セハ次ノ如シ。

油房

(大連油房聯合會調査ニ據ル)

地方別	工場數	機械種類及台數		一日製造能力	
		水壓式	螺旋式	豆	粕
大連	五〇	二、三六八	一、二二七	一四八、八一四	七四四、〇七〇
營口	二〇	五二六	一八六	三三、一七六	一六五、八八〇
安東	二二	二三四	一〇九〇	三七、〇一〇	一八五、〇五〇
哈爾濱	四三	一、〇四一	一、〇三二	九三、五一〇	四六七、五五〇
南滿各地	二三八	三四四	三、二七八	八七、九二〇	四三九、六〇〇
北滿各地	二八	四一四	三五四	三八、一三〇	一九〇、六五〇
計	四〇二	四、九二七	七、〇五七	四三八、五六〇	二、一九二、八〇〇

又滿洲産業統計ニ從ヘハ大同元年ニ於ケル大豆油及豆粕ノ生産額次ノ如シ。

大豆油	工場數	數量	金額
大豆油	四七三	一五九、一五九	三一、六二八、三七二
豆粕	四七三	一、四五〇、六六八	七二、二二四、七六六

而シテ大同元年及同二年ニ於ケル此等豆油及豆粕ノ輸出ヲ見ルニ左ノ如シ。

大豆 數量 價額 數量 價額

大同二年 一七、七六八、四三九 五七、六四三、三三三 一、一〇一、七〇七 一七、九三三、五三三

大同元年 三、五八、四三三 一〇三、四四八、七六六 一、〇七三、九三三 七〇、三九三、五〇一

撫順炭礦ニ於テ油母頁岩ノ發見セラレタルハ 明治四十一年ノコトニシテ爾來之ヲ原料トスル採油事業ニ就キ研究中ナリシカ、昭和三年金一十萬圓ヲ投シ内熱式乾餾ニ依リ一日四千噸ヲ處理スヘキ撫順炭礦製油工場ヲ設置スルコトナリ、昭和五年一月工場ノ完成ト共ニ綠業ヲ開始シタリ。撫順炭礦々區内ニ埋藏セラレル油母頁岩ハ約五十四億噸ト稱セラレ、其ノ含油平均五・五%トスルトキハ原油ノ總額三億噸ニ達スヘシ。殆無盡藏ナル原料ノ包藏ト製油設備ノ擴張トハ相俟テ將來ノ滿日燃料國策上重要ナル貢獻ヲ爲スヘキモノト期待セラレ。

最近三箇年間ニ於ケル同製油工場ノ作業成績ハ次ノ如シ。

年次	油母頁岩		粗油		生油		高產	
	乾餾量	生産量	重油	粗蠟	廢炭	硫安	廢炭	硫安
昭和八年	一、三三四、二八六	六三、〇五九	四〇、六一	二二、六四〇	三、四四五	一五、八〇二		
昭和七年	一、四一七、六五八	七二、一〇八	四三、二七五	一三、八九七	三、五九七	一六、四一五		
大同元年	一、五八九、八八八	九〇、七四二	五四、七七二	一九、〇六六	四、六七〇	一九、八六三		
昭和六年								

硬化油工業 硬化油工業ハ比較的近年ニ於テ發達セル工業ニシテ、大連油脂工業株式會社(資本金一〇〇萬圓)現在五〇萬圓ニ減資ス(年産五七〇萬斤)ハ唯一ノ工場ニシテ、現在豆油一ヶ月五〇〇噸ヲ硬化シ得ル設備ヲ有シ、石鹼、人造ラード、マガリン等ノ製造ヲナス。將來豆油ノ中間加工トシテ又食料油脂ノ製造業トシテ斯業ノ發展ヲ期待サル。

五 其他化學工業

肥料工業 肥料製造工業トシテ骨粉及硫安ノ製造アリ。前者ハ大連滿蒙殖産株式會社之ヲ行ヒ、後者ハ撫順炭礦、昭和製鋼所、南滿瓦料會社等ニ於テ副産物トシテ生産セラル。硫安ノ工業ハ軍需工業ト密接ナル關係ヲ有スルノミナラス、滿日兩國共硫安ノ需要ハ益々増加スヘキ趨勢ニアルヲ以テ將來最モ矚目セラルル工業ノ一トナス。即チ之ニ鑑ミ、將來國內ニ於ケル需要ヲ考慮シ、滿日兩國ノ硫安ノ自給ヲ策スルト共ニ海外進出ヲ圖ル爲大同二年滿洲化學工業會社ヲ設立ヲ見タリ。會社ハ硫安其ノ他各種ノ窒素肥料、化學工業品及副産物ノ製造ヲ目的トスルモノニシテ、資本金二千五百萬圓ヲ以テ、本社ヲ大連ニ置キ工場ヲ甘井子ニ建設シ、差當リ年額十八萬噸ノ硫安ヲ製造スル計畫ナリ。

大同元年ニ於ケル動物質肥料並硫安ノ生産額ヲ示セハ次ノ如シ。

動物質肥料	數量	金額
硫安	六、五八四 噸	三八五、八三四 圓
	一三二、七四〇	八九四、四二五

酒精工業 酒精工業ハ約三十年前露人チャイコフスキカ舊哈爾濱ニ酒精製造工場ヲ設立セルヲ以テ其ノ濫觴トナス。現在我國ニ於ケル酒精製造業ハ殆ト北滿ニ限ラレ、同地方産ノ包米高粱ヲ主要原料トナシ、品質優秀ナリ。而シテ其ノ販路ハ之ヲ極東露西亞方面ニ求メタリシカ、一九二二年蘇聯邦ニ禁酒令布カレタル爲國內ノ生産亦自ラ過剩トナリ、業者舉リテ經營難ニ陥リタリ。仍テ翌一九二三年同業者間ニシンチケートヲ組織シ、生産販賣ノ統制ヲ圖ラントセルモ、加盟

者ハ、昭和酒精公司、廣記酒精廠以下六工場ニ止マリタリ。斯クテ大同二年ニ入り當事者間ニ本工業統制提唱セラレ、其ノ前提トシテ北滿ニ於ケル最大工場タル前記昭和酒精公司及廣記酒廠ヲ合併シ、國內ニ於ケル酒精事業ノ統制ニ順應シ、特産穀物ヲ原料トスル酒精、飲料及燃料ノ生産ヲ行フ爲、新ニ滿日合辦ニ依ル大同酒精公司ヲ起スコトトナリ、同年末創立ノ手續ヲ了セリ、

大同元年ニ於ケル全國酒精生産額ハ二八五、九七五噸、其ノ價額四、三五三、五〇〇圓ナリ。(滿洲産業統計ニ據ル)

燐寸工業 滿洲ニ於ケル燐寸工業ハ、光緒三十二年長春ニ廣仁津火柴公司設立セラレ、翌年同公司ヲ買收シテ日清燐寸株式會社ノ設立セラレタルヲ以テ濫觴トナス。其ノ後歐洲大戰ノ影響ニ依リ大連、安東、吉林、奉天、營口等ニ續々工場ノ設立セラレルアリ、相互ノ競争激甚ヲ極メシカ、後南滿北滿共ニ同業會ヲ組織シ、販賣區域ヲ定メ其ノ成績良好ナリシカ、民國十三年頃ヨリ瑞典燐寸會社ノ進出ニ依リ壓迫ヲ受クルコト甚シク、遂ニ之カ支配ニ歸シタルモノ尠カラズ。仍テ舊政權ハ民國二十年東北燐寸專賣制度ヲ定メ其ノ代行ヲ日支聯合會ニ一任セリ。斯クテ滿洲事變勃發後瑞典燐寸會社亦聯合會ニ加入ヲ申込ミタルヲ以テ、改メテ全滿ノ企業者ヲ網羅シテ東北火柴維持會ヲ組織シ、販賣機關トシテ公賣處ヲ設置シ、其ノ資本全額ヲ日本側同業者ニ於テ負擔セリ。

我國成立後大同元年七月前記公賣處ヲ財政部ノ直轄ト爲シ、同十一月滿洲火柴公賣承辦處ト改メ、東北火柴維持會亦滿洲火柴聯合會ト改稱、漸次販賣高ヲ増加セリ。一方瑞典燐寸系ハ漸次情勢不利トナリシ爲其ノ所有株ヲ賣渡シ、我國燐寸界ヨリ退クニ至リタリ。大同元年ニ於ケル國內燐寸工場數ハ一九ニシテ、其ノ生産數量一九三、四六三箱、價格一、一二七、二九一圓ナリ。(滿洲産業統計ニ據ル)

石鹼工業 石鹼製造ハ光緒三十二年頃日本人ニ依リ大連ニ創設セラレタル以來、滿日露人ノ工場漸次増加シ現在ニ於テ

ハ之ニ從事スル工場數國內ヲ通シテ四十九ニ及ヒ、大同元年ニ於ケル化粧石鹼ノ生産額一七〇、二三七打、價額一二九、四三五圓、其ノ他石鹼二、四七七、一〇八打、六〇八、六四六圓ナリ。(滿洲産業統計ニ據ル)

六 纖維工業

綿絲紡織業 滿洲ニ近代工業トシテ紡績業起リシハ民國十二、三年頃ノコトニシテ、多數ノ工場ノ設立ヲ見タルカ、其ノ業績概ネ不振ニシテ、僅カニ滿洲紡績會社、内外棉花會社、滿洲福紡會社、奏天紡紗廠、營口紡紗廠ノ活動ヲ見ルニ止マル。

而シテ右ノ内奉天紡紗廠ハ官商合辦ノ株式組織ニシテ、資本金四百五十萬圓、職工約千八百名ヲ擁シ、繰業鍾數三六、〇〇〇鍾、織機二百五十臺、一日ノ生産綿絲十六番手五十俵、十番手十俵、平番手十俵及細布百二十俵ナリ。又營口紡紗廠ハ資本金二百萬圓、半額拂込ニシテ、紡機二十八臺、織機三百四十臺ヲ有シ、其ノ原料ノ大部分ハ國內棉花ヲ使用シ居レリ。

要スルニ本工業ハ國內棉花増産計畫ノ實施ト製品需要ノ増加トニ伴ヒ、益々發展ノ餘地多大ナルトニ鑑ミ、其ノ將來極メテ有望ナルモノト爲スヘシ。大同元年ニ於ケル綿絲綿布生産額ヲ示セハ次ノ如シ。

	數 量	價 額
綿 絲	九〇、〇二四捆	一四、二〇六、四四〇圓
綿 布	二、五三七、六一七疋	八、八八四、五〇三圓

尙輸出入綿絲及綿布ノ金額ヲ示セハ次ノ如シ。

輸出 (單位千圓)
 大同二年 六、九九九
 大同元年 八、二〇一
 輸入
 二〇、九二七
 一一、三二九

製麻業 由來滿洲ハ麻袋ノ需要多キノミナラス、氣候風土麻ノ栽培ニ適セル爲製麻工業ハ夙ニ有望トセラレタル所ニシテ、民國六年大連ニ滿洲製麻會社、同八年ニハ奉天製麻會社設立セラレタリシカ、印度產麻袋ニ壓迫セラレ經營不振ニ陥リ後者ハ遂ニ工場ヲ閉鎖シタルモ、最近ニ至リ再ヒ復活ヲ迎リツツアリ。我國ノ麻袋輸入ハ毎年新麻袋大約三千萬枚、古麻袋同シク千五百萬枚ナルモ、國內ニ於ケル需要ハ毎年七千萬枚ヲ超ユト稱セラレ、從ツテ尙其ノ間多大ノ不足ヲ感シツツアルヲ以テ、本工業ノ前途ハ極メテ有望ナルモノトイフヘシ。大同元年ニ於ケル國內生産額ハ四、七五六、五一三枚、價額一、三三一、八二三圓ニ過キス。

毛織工業 由來我國ハ國內到ル處ニ羊毛ヲ產出スルヲ以テ、毛織工業亦當然發達スヘキニ拘ハラズ、然モ尙微々振ハサルハ畢竟羊毛ノ品質劣等ナルニ因ル。從ツテ現在ニ於テハ原毛ノ儘國外ニ輸出セラルルモノ多ク、毛織工業トシテノ發達亦見ルヘキモノナキ状態ニアリ。

我國ニ於ケル毛織工業トシテハ民國七年設立セラレタル滿蒙毛織會社ヲ以テ最初トシ、其ノ後民國十三年哈爾濱ニ裕慶德毛織工廠ノ設立セラレタルモ、共ニ事業振ハサリシカ、改良羊毛増產獎勵ニ伴ヒ漸次發達ニ到ルヘキヲ信ス。大同元年ニ於ケル毛織物毛布其ノ他毛織物ノ生産額ヲ示セハ次ノ如シ。(滿洲產業統計ニ據ル)

工場數	數量	價額
毛織物	八	六三四、〇六八 ^碼
毛布	二	一七一、一六七
		一、七三九、七九四圓
		二、八九〇、〇七四圓

其ノ他毛織物 一二二 一四八、三三三圓

尙毛織物類ノ輸入ヲ見ルニ、大同元年ニ於テ六、三二四千圓、大同二年ニ於テ七、八三一千圓ナリ。

柞蠶絲工業 柞蠶業ハ蓋平ヲ中心トスル各地ヨリ起リ、光緒三十年頃大柞絲ノ製造ヲ見タルカ爾來海城、安東、岫巖、鳳城、西豐等諸縣ニ擴マリ、多數ノ柞蠶絲製造工場ノ設置ヲ見ルニ至レリ。現在柞蠶絲ハ大豆、豆粕、石炭ニ次ク重要輸出品ノ一ニシテ柞蠶繭ノ年收約六〇—一〇〇億粒、平均八五—六億粒ト推定セラル。

柞蠶絲ノ輸出ハ日本ヲ主要得意先トシテ支那、米國ニモ相當輸出サレタルモ、現今殆ト日本方面ニ限ラル。製絲工場トシテハ大規模ナル工場組織ニ依ルモノト、農家ニ於ケル副業トシテ小規模ニ營ムモノトアリ、工場組織ニ依ルモノハ柞蠶ノ集散地ニ集中セラル、其ノ主ナルモノハ安東ヲ首トシテ西豐、海城、蓋平、岫巖、鳳城等ニ最モ多シ。柞蠶製絲工場及絹紬製絲工場ノ分布ヲ見ルニ左ノ如シ。

產地別	柞蠶製絲工場		絹紬製絲工場	
	工場數	機械台數	工場數	機械台數
安東	四三	九、二一五	一七	一八六
蓋平	一四	三、〇六〇	五	二〇〇
海城	一一	六、〇九〇	三	一〇〇
奉天	一	二、二四〇	一	二〇〇
西豐	四四	四、一四五	一	三〇、〇〇〇
				八一六
				三、七〇〇
				三、〇〇〇

尙柞蠶絲及同製品ノ輸出ヲ見ルニ次ノ如シ。

柞蠶繭及同輸移出額

品 種 別	大 同 二 年		大 同 元 年	
	數 量	價 額	數 量	價 額
野蠶繭及同層繭	八八、一三九斤	三〇〇、六四四圓	七、七〇〇斤	三、七七一圓
柞 蠶 繭	二、四四七、三三三	九、五五五、七七八	二、一七九、〇〇〇斤	一〇、四一〇、〇〇〇圓
層 繭	一、一六六、六三九	三、三〇八、一三六	一、〇〇〇、〇〇〇	一、四七九、一八一
絹 製 品	六二五	三、三三九、八八二	一、一八一	一、〇五九、一八一
合 計	四、七三三、九四四	一〇、三三三、九八二	四、九八六、七〇一	一四、〇五八、九一六

七 製紙及バルブ工業

製紙工業ハ其ノ發達極メテ遅々トシテ、民國六年吉林ニ日支合辦ノ富寧製紙公司設立セラレタルヲ初メトシ、年來多數ノ企業起リタルモ、其ノ大部分ハ業績舉ラス萎微ノ状態ニ在リ。此ノ間大正八年安東ニ創立セラレシ鴨綠江製紙會社及同十二年同地ニ設立セラレシ六合紙廠等二三會社ノ事業ヲ繼續スルノミナリ。

次ニ**バルブ**工業ハ從來前記鴨綠江製紙會社ニ於テ少量ノ生産ヲ爲シ來リタルモ、我國建國後ニ於ケル事情ノ變轉ニ伴ヒ、國內ノ木材ヲ材料トスル本工業ノ勃興ヲ見、康德二年ニ於テ**バルブ**工業ヲ目的トスル企業ノ成立ヲ見ントスル計畫ナリ。要之現在國內ニ於ケル紙類及**バルブ**ノ生産ハ到底需要ヲ充スニ足ラス、尙多クヲ國外ヨリノ輸入ニ俟ツ現狀ニアリ。次ニ大同元年ニ於ケル**バルブ**及紙類生産狀況及大同元年及二年ニ於ケル紙類輸入額ヲ示セハ次ノ如シ。

品 種 別	大 同 二 年		大 同 元 年	
	工 場 數	數 量	工 場 數	數 量
バルブ	一	三、三七九 噸	一	一八七、六二〇 圓
紙 類	一八	—	—	二、一三〇、六四七
紙類輸入額	—	—	—	—
大同二年	—	—	—	一〇、〇二一 千圓
大同元年	—	—	—	七、四六一

八 製材工業

我國ノ製材事業ハ古ク宣統二年以來大連、安東方面ニ起リタルヲ初メトシ、歐洲大戰後ニ於テハ時局ノ影響ニ依リ木材ノ海外輸出旺盛ヲ極メ、鴨綠江材ノ異常ナル活躍ヲ見、製材業ノ勃興ヲ促シタルモ其ノ後ニ襲來セル世界の不況ノ爲殆ト解散ノ悲運ニ陥レリ。斯クテ滿洲事變起リ我國建國成ルヤ各種土木建築材料トシテ木材ノ需要激増シ、爲ニ各地ニ製材工場ノ設置ヲ計畫スルモノ尠カラス。大同元年ニ於ケル製材生産額ハ三三〇、二二八立方、價格七、二二六、四七一圓ニ達シタルモ、尙需要ヲ充スニ足ラス。大同元年ニ於テ一百八十餘萬圓、大同二年ニ於テ約九百六十餘萬圓ヲ輸入セリ。

九 食料品類製造業

製粉工業 製粉業ハ磨房ト稱セラレ古クヨリ各地ニ發達シ、地方ノ需要ニ應シ國內工業上重要ノ地位ヲ占メ來リタリ。

滿洲ニ新式製粉工場ノ現ハレシハ光緒二十六年（一九〇〇年）哈爾濱ニ露人經營ノ滿洲製粉會社設立セラレタルヲ初メトシ、以來急速ナル發達ヲ遂ケ、民國七、八年頃ヲ以テ其ノ最盛期ヲ爲セシモ、其ノ後原料小麥ノ產出減少、關稅ノ障礙、運賃ノ高率等ニ基キ大半其ノ操業ヲ停止シ、全般ニ不振ノ狀態ニ陥リタリ。

小麥ノ產地トシテハ、北滿ヲ主トスル關係上、製粉業亦哈爾濱ヲ中心トシテ盛ナレ共、上述ノ諸原因ニヨリ外國產ニ壓迫サレ現狀スラ維持シ難キ狀況ニアリ。然レ共將來ハ政府ノ小麥増產獎勵ニ依ル原料安ト、消費ノ増加トニ伴ヒ本工業ノ前途ハ極メテ有望ナリト稱スヘク、既ニ康德元年三月ニハ日滿合辦ニ依ル日滿製粉會社ノ創立ヲ見タリ。滿洲産業統計ニ從ヘハ大同元年ニ於ケル製粉工場數ハ南北滿洲ヲ通シテ三〇七、生産額一八四、四一六種、價額二二、八三二、七七五圓ナリ。然レ共右ヲ以テシテハ到底國內ノ需要ヲ充スニ足ラス、年々外國品ノ輸入増加ノ傾向ニアリ。即チ大同元年ニ於テ四、〇八六、四六七擔、其ノ價額三二、二五九、四六八圓ナリシカ大同二年ニ入リテハ輸入更ニ増加シテ八、三六九、八七九擔、五八、六七八、九四六圓ニ達シタリ。

製糖業 我國ニ於ケル製糖業ハ氣候ノ關係ヨリ甘蔗ノ栽培ニ適セス、甜菜ヲ以テ原料トナス。甜菜ノ栽培ハ光緒三十二年（一九〇六、七年）ノ頃ヨリ試ミラレタルモノナルカ、之ヲ原料トスル製糖事業ハ宣統元年阿什河ニ製糖工場ノ創立セラレタル時ニ始マリ、爾來南北滿洲ニ工場ノ設立セラルルモノ尠カラサリシカ、經營思ハシカラス、南滿ニアリテハ南滿洲製糖會社ハ昭和二年（民國十六年）ニ至リ事業ヲ中止シ、北滿ノ各工場亦時々事業ヲ中止セル狀態ニアリタリ。斯クテ我國成立後ニ至リ北滿ノ糖業再ヒ有望視セラレ、康德元年ニ入リ新タニ北滿製糖株式會社、康德製糖公司等ノ設立ヲ計畫セラレツツアリ。

現在我國ニ輸入セラレツツアル砂糖ハ、大同元年ニ於テ一四、六〇八千圓、同二年ニ於テ一六、〇二八千圓ニ達ス。

高粱酒釀造業 高粱酒釀造業ハ燒鍋業ト稱シ、我國ニ於ケル重要工業ノ一タルコト周知ノ如クニシテ遼陽、奉天、新京等ヲ主產地ト爲スモ邊陲ノ地ト雖モ存セサル所ナシ。

高粱酒ハ安價ニシテ一種特有ノ香味ヲ有スル爲、一般ノ嗜好ニ適シ其ノ需要極メテ多ク、且本事業ハ其ノ經營ニ危險多カラサルヲ以テ、今後ハ人口増加ト原料増產トニ伴ヒ益々發達スヘキモノト思考ス。

現在ニ於ケル生産額ハ正確ナル數字ヲ得サルモ、大概年額一億八千萬斤ヲ生産シツツアルモノト見ルヘシ。

醬油釀造業 醬油釀造ハ隨所ニ見得ル所ナルモ、其ノ大半ハ在來方法ニ依リ釀造セラレ、且小資本ノ經營ニ過キス、新式醬油工場ノ萌芽ハ僅カニ最近十年間ノ事ニシテ舊式小形工場ノ壓迫ヲ受ケ未タ發達ノ域ニ至ラス。

滿洲産業統計ニ依レハ、大同元年ニ於ケル工場數七九ニシテ生産額一〇五、七七八噸、一、五九九、五四八圓ノ生産アリ。將來ハ人口ノ増加ニ伴フ需要ノ増加ニ伴ヒ、發達ノ餘地多分ニ存ス。

煙草製造業 本邦煙草製造業ハ古クヨリ哈爾濱ニ露西亞式口付煙草製造業者トシテロバート、チウリンノ二工場アリシカ、其ノ後南支那ヨリ英米煙草公司ノ進出スルアリ、更ニ光緒三十二年ニ至リ日本系東亞煙草株式會社營口ニ設立セラレタリ。斯クテ民國十四年頃露系煙草ノ進出ヲ見ルニ及ヒ激烈ナル競争ヲ見ルニ至レリ。爾來需要ノ増加ニ伴ヒ煙草製造工場續々出現シタルモ、價格ニ於ケル競争ノ結果下級品ノ生産多ク遂ニ英米トラストノ活動ニ依リ全國需要ニ對スル供給ノ大部分ハ同社ノ占ムル所トナレリ。斯クテ我國建國ト共ニ煙草工業ニ統制ヲ加フルノ必要ヲ認メ、本工業ニ對シテ許可主義ヲ採用スルニ至リタリ。

滿洲産業統計ニ從ヘハ大同元年ニ於ケル煙草生産額ハ卷煙草二五一、四三七捆、二九、五三九、四四二圓、刻煙草一一三捆、一一、二二七圓ナルモ尙自給ノ域ニ達セス、需要ノ大部ハ之ヲ海外ニ仰キツツアリ。即チ大同元年度ニ於ケル各種煙

草輸入額ハ九、七六七、三九二圓、同二年一一、四七六、一五一圓ノ多キニ達セリ。

10 電氣及瓦斯

電氣 我國内ニ於ケル電氣事業ハ創始以來日未タ淺ク、且關東州及滿鐵附屬地ヲ根幹トシテ發達セリ。即チ明治三十五年十月露國カ東清鐵道ノ附屬事業トシテ大連濱町發電所ヲ建設シタルヲ以テ嚆矢トス。日露戰後電氣事業ハ先ツ日本側ニ其ノ勃興ヲ見 明治三十八年ニ旅順ノ點燈ヲ開始シ、同年又營口水道電氣株式會社ノ創立アリ、明治四十三年ニハ安東電氣株式會社創設セラレタリ。同年南滿洲鐵道株式會社創業セラルルヤ同社ニ於テ直チニ大連ノ電氣供給事業ヲ始メ、次テ明治四十一年撫順、奉天ニ、明治四十二年長春ニ何レモ發電所ヲ新設開業シ、極メテ順調ナル發達ヲ辿リタリ。特ニ民國十年光緒三十四年撫順、奉天ニ、宣統二年長春ニ何レモ發電所ヲ新設開業シ、極メテ順調ナル發達ヲ辿リタリ。特ニ民國十年五年滿鐵ヨリ南滿洲電氣株式會社ノ分離獨立スルヤ、撫順ヲ除ク關東州及滿鐵附屬地ニ於ケル殆ト全部ニ對シ電氣供給事業ヲ營ミ、業績頓ニ盛大ヲ加ヘ來レリ。

本邦系電氣事業ノ沿革ヲ見ルニ 明治三十八年東清鐵道會社カ自家用トシテ哈爾濱ニ發電施設ヲ創始セルヲ初メトシ、翌年滿洲里ニ露人經營ノ電燈局創設セラレタルカ、上述日本側ノ事業ノ發展好調ト其ノ利便ニ刺戟セラレ電氣企業熱旺盛トナリ、即チ光緒三十三年ニハ吉林電燈廠、光緒三十五年ニハ奉天電燈廠、宣統三年ニハ長春電燈廠等官公營ノ事業開設セラレタリ。斯クテ自用又ハ一般供給ヲ目的トスル電氣事業ノ實現ハ逐次主要都市ニ躍進的增加ヲ見ルニ至リタリ。

然レトモ斯クシテ創設セラレタル企業モ前記大都市ニ於ケル官公營事業ヲ除ク外、悉ク需要ノ中心地ニ小規模ナル火力發電所ヲ建設シタルニ過キス、其ノ設備不良ニシテ經營法亦當ヲ得サリシノミナラス監督ノ不徹底ナルモノアリ、民衆ノ

利益ヲ度外視シタル爲萎微不振ノ境ニアリタリ。

然ルニ我國建國後ハ諸般ノ情勢一變シ在來電氣事業ヲ重壓セル不安一掃セラレタルヲ以テ概ネ頹勢ヲ挽回シ邊陲ノ地ニモ亦新事業勃興ノ氣運ヲ醸成セリ。而シテ斯業ノ將來ハ國內産業ノ開發、文化ノ普及其ノ他萬般施設ノ擴充ニ伴ヒ必然的ニ電力ノ需要急増スヘキコト明カナルヲ以テ、政府ニ於テハ銳意電氣事業ノ公共性ヲ強調シ、技術、資本ニ對スル監督ヲ加重シ其ノ發達ヲ期スルト共ニ統制ノ實ヲ舉ケント努力ヲ拂ヒツツアリ。即チ過去ニ於ケル滿日兩國間斯業對立ニヨル暗雲ヲ拂拭シテ兩者ノ連繫緊密ヲ加ヘ、事業ノ合理的進展ヲ容易ナラシメントシ、其ノ第一着手トシテ全滿ニ於ケル標準周波數ヲ統一シ、標準電壓ヲ制定シテ電氣方式ノ技術統制ヲ期シ、其ノ實現ニ邁進シツツアリ。又豐富低廉確實ナル電力供給ノ大目的ノ爲滿日主要電氣事業ノ大合同ヲ圖レリ。又更ニ滿日兩政府ニ於テハ事業ノ保護助長並指導統制上電氣事業法ノ創設ヲ急務トシテコレヲ審議シ次年度發布ノコトトナレリ。一方國內電氣事業ノ永續的發展ヲ確保センカ爲電力資源トシテ水力發電開拓ノ基本調査ニ着手シ、斯クテ我國經濟立國ノ基礎的的使命ヲ有スル電氣事業ノ將來ハ一段ノ多幸ナル光彩ヲ放チ其ノ寄與亦愈々大ナラントス。

我國ノ電氣事業ニ對スル投資額ハ公稱資本大略三千四百萬圓ニシテ他ニ日本側約五千三百萬圓ニ達ス、今之等ノ現勢ヲ示セハ次ノ如シ。

本邦側

省 別	企業形態別	事業數	發受電設備		電 燈		電 力	
			(K W 數)	需要家數	燈 數	裝置數	容量KW	
奉 天	官 營	三五	四、九五〇	一、五〇〇	三、七〇〇	一、〇〇〇	一、一〇〇	

省別	企業形態別	事業數	發受電設備 (KW數)	電需要家數	電燈數	電裝置數	電力容量KW
吉林省	官營	四	三九、七三六	五六、〇〇三	四、四〇〇	一、七七一	〇〇〇
黑龍江省	官營	四	三、四五〇	二、三三五	四、七〇〇	〇	三三
興安省	官營	三	六、六〇〇	二、一四五	四、七〇〇	〇	三三
熱河省	官營	一	〇、〇〇〇	一、八七八	一、〇三五	—	—
計	官營	一二	六六、三三六	一三三、六八五	一〇、七〇五	一、七七一	一〇、〇〇〇

備考 右ノ他家用數ハ奉天省一三、吉林省二四、黑龍江省一、興安省四、熱河省一アリ。

日本側

地方	企業形態	事業數	發受電設備 (KW數)	電需要家數	電燈數	電裝置數	電力容量KW
關東州及滿鐵附屬地	官廳及會社	一五	三〇、三三〇	一四、一八五	七、〇〇〇	—	六四、七九七

備考 右ノ他家用數三三、三算ヘ内、二四ハ滿鐵停車場用ノモノナリ

瓦斯 瓦斯事業ハ明治四三年滿鐵カ大連ニ營業ヲ開始セルニ初マリ、後撫順炭礦ニ起業セルアリ、爾來大正九年鞍山、大正十二年奉天、大正十三年安東、大正十四年長春(新京)等ノ主要都市ニ該企業ノ進出ヲ見タルカ、民國十四年滿鐵ハ撫順ヲ除ク各地ニ於ケル瓦斯事業ヲ分離シテ、新ニ資本金一千萬圓ノ南滿洲瓦斯會社ヲ設立シ、之ニ一切ノ業務ヲ營マシムルニ至リタリ。爾來各地ニ於ケル瓦斯供給ハ同社之ヲ行ヒ其ノ成績見ルヘキモノアリ、即チ其ノ現勢ヲ示セハ次ノ如シ。

種別	南滿洲瓦斯株式會社				滿鐵撫順炭礦瓦斯製造所	計
	大連	鞍山	奉天	新京		
需要家戶數	二五、三九一	—	八、八七三	四、三三五	—	三、一四五
瓦斯製造能力(立方米)	五九、五〇〇	—	一〇、〇〇〇	五、〇〇〇	—	〇〇、〇〇〇
瓦斯製造量(一ヶ年間)	一、三〇、二二五	—	一〇、〇〇〇	三、〇〇〇	—	一、三三、二二五
瓦斯販賣量(一ヶ年間)	一、一〇、一三七	—	二、八三三	三、〇〇〇	—	一、一三、一三七
石炭消費量(一ヶ年間)(噸)	三、四七六	—	〇、〇〇〇	三、一七三	—	六、六四九
石炭一適當生産量(立方米)	五六六	—	四、五三三	四、九	—	一、〇〇〇

註 瓦斯製造量ノ欄中ハ括弧ヲ施シタルモノハ他ノ瓦斯事業ヨリ供給ヲ受クルモノナリ

因ニ我國内ニハ未タ瓦斯供給ニ關スル事業現存セサルモ、將來各種産業文化ノ發達、都市施設ノ完備ニ伴ヒ必スヤ本事業亦長足ノ發達ヲ遂クヘキコト豫想ニ難カラズ。

第五編 商業、金融

總商貿易物度
及貨通
金及物
說業易融價衡

看
板
色
酒
屋

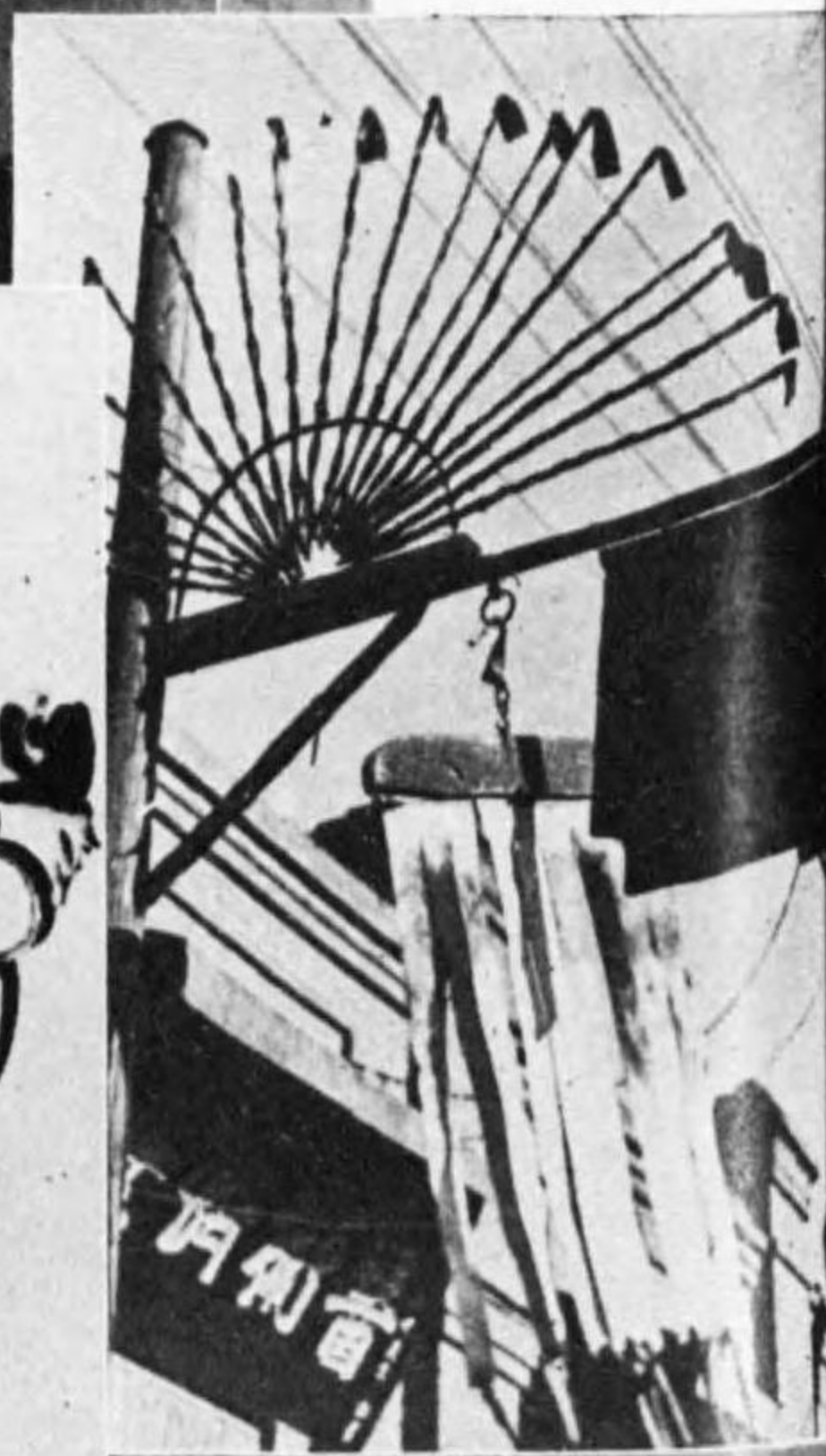
質
屋



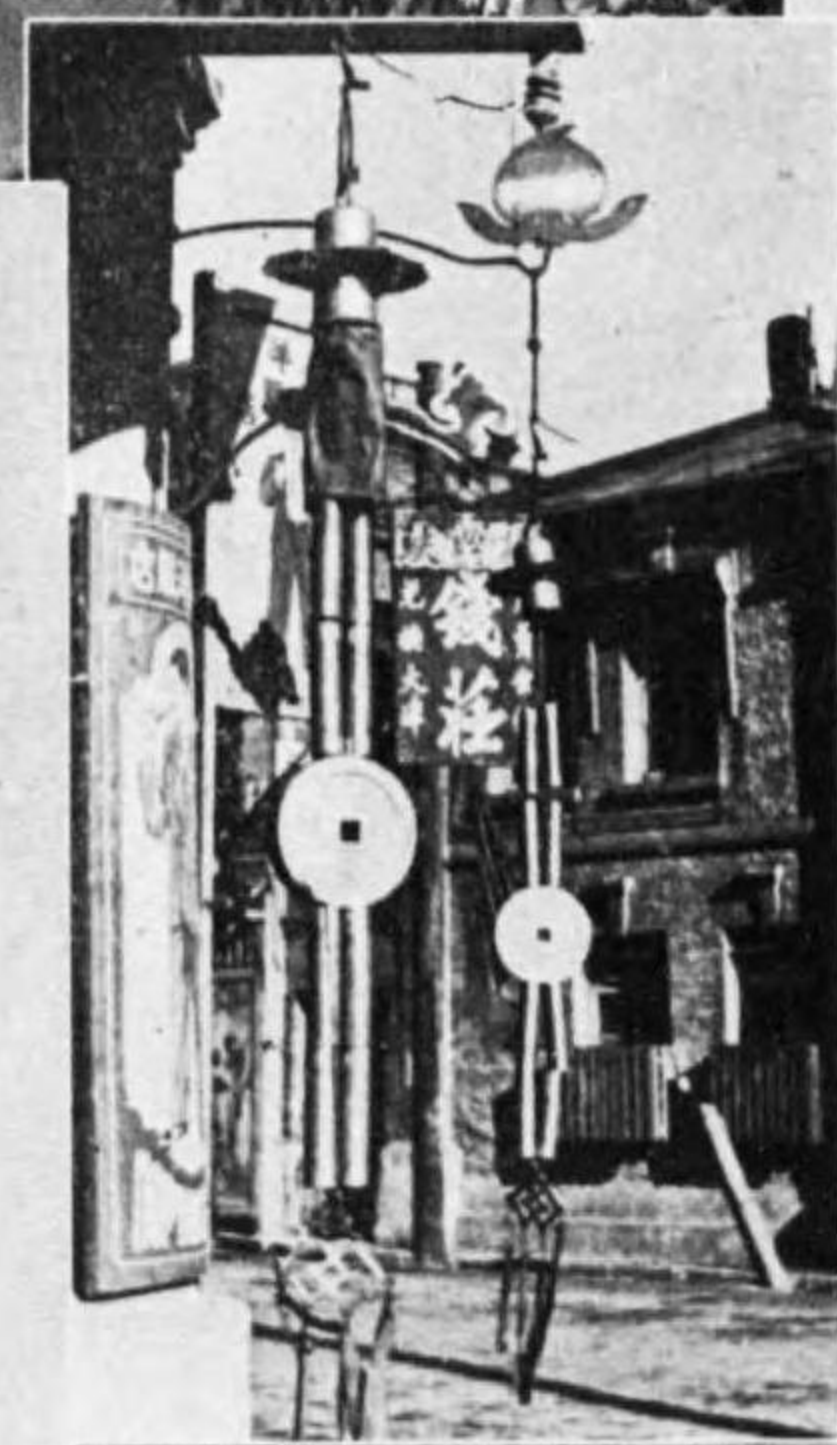
龍
招
牌

飯

店



風
呂
屋



錢
莊



ウ
ド
屋

馬
具
屋

回收消却シタル舊紙幣



↑ 新紙幣

鑄幣



(中 築 建) 行 總 行 銀 央 中 洲 滿

第五編 商業、金融 目次

第一章 總 說 一

(商業、貿易、通貨、金融、物價、計器)

第二章 商 業 六

第一節 概 說 六

(商業ノ開發助長)

第二節 商 業 機 關 七

(商會、工商同業公會、交易所、市場)

全國商會概況表 | 哈爾濱交易所定期取引各限月最高低値及取引高 | 新京城内交易所相場及出來高 | 市場一覽

附 日本側各種商業機關ニ關スル參考表 三

商工會議所一覽 | 諸同業組合 | 輸入組合 | 官民營取引所 | 日本側市場一覽

第三節 會 社 三五

(公 司)

公司一覽 | 股份有限公司 | 兩合公司

附 日本側會社ニ關スル參考表 三九

會社總數 | 會社資本金額別 | 會社營業種類別 | 新設會社一覽

第四節 商標法ノ制定 三六
商標登錄出願件數表

第三章 貿易 三九

第一節 概 說 三九

(過去ノ趨勢、税關、大同二年概況)
累年貿易額—現在税關一覽—大同二年輸出入貿易額表
圖表—輸出入貿易主要港別—輸出入貿易國別

第二節 國別 貿易 四七

(前年對比、日本、中華民國、蘇聯、香港、英領印度、獨逸、國別主要港)
主要國別貿易額—主要國別貿易額前年對比—對日本主要輸出入品—對中華民國主要輸出入品—對香港主要輸出入品—對獨逸主要輸出入品—對北米主要輸出入品—大同二年主要輸出入品仕向地別表—大同二年主要輸出入品仕出地別表—國別輸出額表—國別輸入額表—國別輸出入總額表
圖表—大同二年貿易月別—輸出入貿易品名別

第三節 主要輸 出 入 品 六三

一、輸 出 品 六三

(大豆、豆粕、石炭、粟、銑鐵)
大同二年主要輸出品—主要輸出品前年對比表—主要輸出品數量稅關別—主要輸出品價額稅關別—主要輸出品數量國別—主要輸出品價額國別

二、輸 入 品 七三

(棉織物、小麥粉、鐵及鋼、車輛類、綿織絲、麻袋、砂糖、棉花、紙、木材、機械及工具)
大同二年主要輸入品—主要輸入品前年對比—主要輸入品數量稅關別—主要輸入品價額稅關別—主要輸入品數量國別—主要輸入品價額國別

第四節 港別(税關別)貿易 八三

(大連、安東、營口、哈爾濱、龍井村)
税關別貿易額—其二

第五節 出 入 船 舶 八七

三港出入置籍國別船數

第四章 通貨及金融 八九

第一節 概 說 八九

第二節 通 貨 九〇

一 貨幣制度 九〇

(貨幣ノ單位及計算、貨幣ノ種類及鑄貨ノ品位、發行準備)
滿洲中央銀行正貨準備額並準備率表 整理セラレベキ舊紙幣及國幣ニ對スル換算率 舊紙幣幣種及券種別—滿洲中央銀行舊紙幣回收額表—幣種別舊紙幣回收額
(貨幣ノ製造及發行、貨幣發行高ノ公告及監督)

二 通貨ノ整理統一 九六

(通貨ノ整理、統一舊紙幣ノ整理、馬大洋票及熱河票整理、過爐銀ノ整理、鎮平銀ノ整理)

三 國幣ノ發行 九九

滿洲中央銀行紙幣發行額及流通額—紙幣發行回收額—紙幣發行額—新舊紙幣割合—紙幣發行額每月最高最低平均—鑄貨發行額

四 外國貨幣 一〇五

(橫濱正金銀行券、朝鮮銀行券、日本銀行券及日本補助貨、其ノ他ノ貨幣)
鈔票滿洲發行額—朝鮮銀行券在滿洲流通推定額

第三節 金 融

一、概 說.....一〇八

二、金融機關.....一一〇

(滿洲中央銀行)

中央銀行各行現狀—分支行增減一覽表—第一—四期決算

(一般金融機關、普通銀行、錢莊及錢舖、當舖、金融合作社、糧棧)

內國普通銀行表—內國普通銀行資產負債表—全滿錢莊錢舖業態概況表—全滿洲當舖—全國當舖業態概況表—金融合作社員數貸附金及預り金

(外國系金融機關、日本金融機關、中華民國系銀行、其他ノ外國銀行)

外國銀行一覽表—國內日本側銀行一覽表

三、金 利.....一六四

舊政權時代ニ於ケル金利率表

四、庶民金融.....一六六

(農村信用制度、春耕資金、農村復興貸款、附關東州及滿鐵附屬地)

春耕資金—各省資金各省貸出狀況表—吉林省復興貸款表—關東州及鐵道附屬地都市金融組合業務概況—村落金融組合概況表

五、外國爲替.....一七六

(對外爲替相場)

滿洲中央銀行爲替取組先—對外爲替相場表—各期取扱高表—滿日郵便爲替

六、內國爲替.....一八七

內國爲替期別取扱高表

七、郵便貯金.....一九〇

郵便儲金預拂概況表—各管理局局別表

第五章 物 價

第一節 概 說.....一九九

第二節 小 賣 物 價.....二〇〇

(小賣物價指數、地方別)

小賣物價指數表—新京—奉天—哈爾濱—吉林—齊々哈爾—營口—安東—平均—地方別總物價指數表

第三節 卸 賣 物 價.....二〇八

(卸賣物價指數)

中央銀行調查新京卸賣物價指數—金圓建新京卸賣物價指數表—關東廳調查、大連、奉天、安東—卸賣物價指數要覽

第六章 度 量 衡

第一節 概 況.....二二一

第二節 新制度度量衡.....二二三

(度量衡ノ基本、原器及單位)

尺斤法—メートル法—尺斤法及メートル法比較表

(度量衡器ノ種類、度量衡器ノ供器、度量衡器ノ檢定、度量衡器ノ取締、度量衡器使用ノ制限、猶豫期間ノ設定)

第三節 權度行政施設.....二四一

(一)權度局ノ設置、二)度量衡器供給機關ノ設置、三)新制度度量衡普及ニ關スル工作、四)慣用度量衡ノ實量調査)

第四節 慣用度量衡.....二四三

(一)概説、二)慣用度量衡ノ種類、三)慣用度量衡器調査結果)

慣用度量衡器メートル法比較表

第五編 商業、金融

第一章 總 說

營口ノ清朝末ニ開港セラレテ以來、遼河水運ニ依リ南下セシ大豆カ歐洲及日本へ輸出セラルル端緒トナリ、日本ニテハ鐵嶺大豆トシテ漸ク著聞スルニ至ル頃、帝政ロシヤハ滿洲交通ノ大動脈トシテ東清鐵道ヲ敷設セリ。東清鐵道ノ開通後幾許モナク日露戰爭勃發セルモ、其間早クモ其ノ大量輸送ト海港ノ活用ハ京奉線ニモ活力ヲ與へ、滿洲商業開發ノ重要ナル役割ヲ勤メタリ。東清南部線長春以南ヲ日本カ繼承スルニ及テ船車ノ連絡ハ一層圓滑トナリ、從來單ニ居住民食糧ノ域ヲ出ツルコト少カリシ農産物ハ茲ニ完全ニ世界的重要輸出品トナリ、他面輸入物資ノ増加トモナリ、自ラ工業其他ノ企業興リ商業貿易ノ滿洲トシテ輝カシキ歩ヲ進ミ出テタリ。然ルニ時ノ爲政者ノ政權濫用、金融ノ攪亂ハ商民ヲシテ困憊ニ陥ラシメ趨ク所ヲ知ラサリシカ、建國以來努メテ産業ノ開發、商業、貿易ノ振興ヲ圖ルト共ニ重點ヲ商取引ノ媒介タル通貨統一安定ニ置キ概ネコレヲ完成シタリ。

商業 由來我國民ハ農業ニ適スルト共ニ又商才ニ長ケ、商店組織モ同族其他ノ合資ニ依ルモノ、少數者出資シ且共同シテ經營スルモノ、又ハ手腕アル經理人ニ一切ヲ委ヌルノ方法ニ依ルモノ等多ク、其ノ資金モ自他ノ勞務者カ貯蓄預金ヨリ

寧ロ一步進ミタル投資トシテ出資、或ハ信託預金ノ如キ性質ヲ以テ預入レラルル事多ク爲ニ金融機關ノ發達充分ナラスシテ猶ヨク有無相融通スルトコロアリ、更ニ國民ハ一般的ニヨク私經濟ヲ緊縮シ餘剰ヲ多クシテコレヲ資金化スル等アリ、商業、貿易伸張ノ素質ナシトイフヘカラス。

政府ハ大同二年三月公布セル經濟建設綱要商業助長ノ項ニ於テ

一般商業ニ對シテハ努メテ之ヲ助長獎勵シ、取引ノ圓滑ヲ期シ、國內產物ノ販路ヲ廣ク世界ニ求メ、以テ商業ノ繁榮ヲ計ラントス
トノ建前ノ下ニ其ノ助長獎勵ヲナシツツアリ。

政府ハ工業所有權保護ノ目的ヲ以テ、大同二年九月商標法及同施行法ヲ公布シ、同月實業部ニ商標局ヲ置キテ出願登錄ノ事務ヲ取扱ハシムルコトナセリ。

各都邑ニ於ケル商會ハ從來何等統制ナカリシタメ之カ統制ニツキ研究ヲ進メツツアリ。商業ハ一般ニ專賣品代賣及警察取締ヲ要スルモノノ外ハ自由ナルモ、交易所ニツキテハ考慮ヲ要スルモノアリ、哈爾濱糧食交易所ヲ改組シテ滿日合辦ノ株式會社トナシタル外、今後經濟界ノ推移ニヨリ新設ノ必要ヲ生スルトキ迄ハ當分新設ヲ認メサルコトセリ。即チ之ハ拒否スルモノニアラスシテ取引所ノ性質上大市場ニ於テ機能ヲ發揮シ得ルモノノ活動ヲ充分ナラシムルト共ニ、濫設ニ陥リテ公定市價ヲシテ歸趨ナキニ至ラシムルコトヲ避ケ、商人ヲシテ不測ノ損害ヲ蒙ラシメサルヲ期スルニ外ナラス。

貿易 逐年高率ナル増加ノ一路ヲ辿レル貿易ハ滿洲事變後歐洲ノ不況ト日本ノ米價安等アリ、大豆モ稀ニ見ル低價トナリ、更ニ當然ノ事ナカラ對中華民國輸出入ヲ外國投トナセル爲、對民國貿易殊ニ輸出ノ一時不振ニ陥レル等アリ、世界經濟界ノ大勢ヲ知ラサル國民中ニハ時トシテ新國家建設力茲ニ至ラシメシヲ思ハシムルノ難アリシカ、大同三年ニ移ルト共ニ特產物需要モ起リ、マタ南方民國ヘノ仕向モ漸ヲ追ウテ復舊ノ途ニ入りタリ。他方輸入ハ建設材料ノ増加著シク結局大

同二年中ノ輸出ハ前年ヨリ少キコト一億六千七百餘萬圓、輸入ハ前年ヨリ多キコト二億一千四百餘萬圓ニテ總貿易額九億六千四百餘萬圓、前年ニ比シテ四千七百餘萬圓ヲ増加セルモ差引六千七百餘萬圓ノ入超ヲ見タリ、但之ハ建設物資當然ノ輸入トシテ却ツテ將來ノ輸出ニ期待セラルル所ナリ。

稅關ハ建國當時其接收後稅率ト共ニ暫行的ニコレヲ踏襲シ居タリシカ、適當ニコレヲ改廢新設スルトコロアリ。稅率ハ滿日經濟プロツクノ建前ヲ考慮シ、自主的見地ヨリシテ大同元年九月一部修正ヲナシ、更ニ商業、貿易ノ圓滑ヲ期シ大同二年七月及康德元年六月之ヲ修正シタリ、コノ新稅率制定ニ當リテハ

一、著シク排外的ナルモノ

二、生活必需品ニシテ高率不當ナルモノ

三、産業開發上必要ト認ムルモノ

四、都市計畫上必要ナル材料

等ニツキテハ考慮シ又國內產業ヲ顧テ適宜ニ加減セルモノナリ。

通貨 建國前ニ於ケル幣制ノ亂雜ハ世界ニ類ナシトモ云フヲ得ヘク、各省紙幣ハ額面ヲ考慮ニ入レスシテ熱河ヲ除ク三省ニテ十七種、券種百四十餘ニ及ヒ、更ニ黑龍江省ニ馬占山ノ軍用券通稱馬大洋、奉天省東邊ノ唐聚伍軍票、單ニ振替記入ノミヲ以テスル營口ノ過爐銀、安東ノ鎮平銀、其他地方錢莊及商人ノ發行スル帖子(私幣)、甚シキハ匪賊ノ私幣ナトアリ。コレニ補助貨トシテ紙幣ト同シク價值ノ變動常ナク、名目通り十進ノ實ナキ小洋銀及銅幣アリ、貨幣一切ヲ舉ケテ朝夕高低常ナク、然モ多種ノ紙幣ハ大勢漸落ノ一途ヲ辿ル如キハ幣制確立セル他國人ノ想像モ及ハサル混亂ナリ。サレハコレカ整理ハ匪賊討伐ニ次ク重要題目トシテ研究ヲ重ネ、大同元年六月貨幣法ヲ公布シ、國內ノ通貨ハ銀二三・九一グラム

ヲ以テ價額ノ單位トナシ、之ヲ一圓ト定メ、同時ニ滿洲中央銀行ヲ設立シテ同銀行ヲシテ本法ニヨリ貨幣及紙幣ヲ發行セシメ、以テ國內統一ノ幣制ヲ布キタリ。

此レニヨリ舊紙幣ハ大同元年七月一日ヨリ二箇年間ヲ限り流通ヲ認メ、中央銀行ハ其期間内ニ國幣ト交換スルコトトシ（哈爾濱ノ中國、交通兩行ノミハ自力回收、期間五年）其十五幣種ニ對シ引換公定率ヲ定メタリ。此ノ内額面ノモノハ僅ニ三種ニシテ中ニハ五十分ノ一、六十分ノ一ノモノスラアリ、以テ如何ニ過去ノ通貨力濫發ノ爲額面價值ヲ損スルノ大ナリシカヲ知ルヘシ。

右引換ハ康德元年六月法定ノ期末ニ於テ國幣換算一億四千二百餘萬圓、回收率九三・一%弱ニ達シタリ。而シテ引換未濟券ハ期間經過後ハ當然効力ヲ失フモノナルモ、國民中ニハ不用意ニ交換期間ヲ經過セシ者モアルヘキヲ考慮シ、更ニ康德二年六月末日迄從來ノ換算率ヲ以テ引換フルコトトシタリ。マタ馬占山、唐聚伍軍券ノ如キモ各適當ニ交換シテ善意ノ民衆ニ損失ナカラシメ、爐銀ハ營業ヲ停止セシメテ代ル金融機關組織等ノ別法ヲ講シ、鑄貨ハ圓ノ十分ノ一及二十分ノ一ノ白銅貨、圓ノ百分ノ一、二百分ノ一ノ青銅貨等ヲ發行セシメ茲ニ完全ニ統一セラルルニ至レリ。

金融 從來金融機關カ近代の發達ヲ充分ニ爲サリシ所以ハ一ニ幣制ノ不統一、且發券ノ自由ニ過キテ濫發セラレタルニヨルト云フヘク、サレハ近代銀行トシテハ僅カニ發券銀行ノミカ生命ヲ有シタルモノニシテ、普通銀行トシテハ其發達シ得ヘキ素地ナク、自ラ變態金融機關タル錢莊ノ如キカ異常ノ業績ヲ擧ゲ得タルモノナリ。

既ニ金融機關此状態ニアリ、コレヲ利用スル商工業者ニアリテモ日本籍其他外國籍ノ大銀行ヲ其取引銀行トスル者多カリシモマタ止ムナキ所ナリ。政府ハ先ツ中央銀行ニヨル通貨統一緒ニ就クヤ、中央銀行ノ内容ヲ整理シ基礎ヲ確立スルト共ニ國內一般銀行ヲシテ秩序アラシムヘク、大同二年十一月銀行法ヲ公布シテ充分ノ取締ヲナスト共ニ適當ニコレヲ指導援

助シテ健全ナル發達ヲ期シタリ。

又農村及庶民機關ニツキテモ充分考慮ヲ拂ヒ夫々施設スルトコロアリ、金融制度確立ニヨリ國內金融ハ著シク改善セラレ、其秩序アリ、圓滑トナレルコトヲ特記スヘシ。

物價 各地ノ物價如何ヲ知ルコトハ重要ノコトナルニヨリ、大同二年十月國務院訓令ヲモツテ物價調查規則及物價調查施行標準ヲ公布シ、以來統計處ハ全國主要地七箇處ニ於テ小賣物價調査ヲナシ毎月一回其成果ヲ發表セリ。

計器 度量衡計器カ從來極メテ不統一ナルハ其通貨ノ亂雜ヨリモ甚シキモノアリ、各地各様、其稱呼ハ一尺ト云ヒ、一升ト云フモ、基本ヲ異ニスル上、其製作ハ不完全ニシテ各計器毎ニ相當大ナル誤差アリ、サレハ一日地ヲ異ニセンカ一割二割ノ差ハ珍シカラス、量器ノ如キ其差一對ニテ超ユルモノスラアリ、政府ハコレカ統一ノ爲大同三年二年度量衡法規ヲ公布シテ國內ノ規格ヲ一ニシ、五箇年ノ猶豫期間ヲ以テ漸次新制ニヨルモノヲ普及セシメ、期後全國統一ノ成果ヲ得ントス。コレカ爲實業部内ニ權度局ヲ設ケ、各種計器ノ檢定其他ノ事務ヲ掌理セシメ、製作ノ爲ニハ滿洲計器股份有限公司ヲ設立セシメコレニ特許シタリ。

第二章 商業

第一節 概 說

我國ノ商業ヲ大觀スルニ、鐵道沿線ノ主要都市、即チ關東州及滿鐵沿線ノ諸都市竝ニ北滿哈爾濱等ニ於テハ、日本其他各國資本ノ流入ニ依リ科學的經營ヲ行フ新式ノ商業組織ヲ見得ルト雖モ、之ヲ除キテハ國內全般概ネ其ノ組織未タ舊態ヲ脱シ得ス、未開放地帯ニ在リテハ今猶隊商ニ依ル物々交換行ルルカ如キ狀態ナリ。

斯ノ如ク我國ノ商業カ其ノ發達ニ於テ未タ幼稚ナル段階ニ低迷シ居ルコトハ、畢竟未タ資本主義經濟ノ發展ニ於テ極メテ低度ノ狀態ニ在ルコトニ歸セシメ得ヘシト雖モ、更ニ此趨勢ヲ助長シタルハ建國前ノ經濟界カ舊軍閥竝ニ之トノ連繫濃厚ナル官商ノ手ニ委ネラレ、或ハ恣ニ不換紙幣ヲ濫發シテ特產物ノ買占ヲ敢行シ、或ハ重要ナル事業ヲ獨占經營シテ爲ニ民衆ノ生活ヲ壓迫シ、商民ノ利益ヲ無視シ、延イテハ全般ノ經濟的發展ヲ人爲的ニ阻害シタルコトヲ最大ノ原因ト爲スヘシ。

商業ノ開發助長 斯クノ如キ狀態ニ置カレタル我國ノ商業ニ澁滞ノ生氣ヲ與ヘ、以テ健全ナル發達ヲ遂ケシメンコトハ最モ急務トスル所ニシテ、此故ニ我國建國以來實業部ニ工商司ヲ設ケ、之ヲ中心トシテ一意カ達成ニ努力シ來リタル所ナリ。而シテ政府ノ商業助長ニ關スル方針トシテハ、大同二年三月一日ニ發シタル滿洲國經濟建設ニ關スル聲明書中ニ最能ク明示セラルル所ニシテ、今之ヲ採録スレハ

- 一、一般商業ニ對シテハ努メテ之ヲ助長獎勵シ取引ノ圓滑ヲ期シ、國內產業ノ販路ヲ廣ク世界ニ求メ以テソノ繁榮ヲ計ラントス、之カ爲我商民ノ特徴ハ益益之ヲ助長セシメ、舊慣ノ改ムヘキハ之ヲ矯正シ以テ取引ノ合理化ヲ期ス又生活ノ必要品其ノ他國民生活ニ重要ナル關係ヲ有スル商品ニツキテハ、適切ナル供給ト價格ノ調節トヲ以テス
- 二、新ニ特許法商標法等ヲ發布シ工業所有權ノ保護ヲ計リ、寄託保險等ニ關スル法制ヲ定メ、度量衡ノ制度ヲ統一シ、其ノ他取引所ノ制度ヲ改善スル等、商取引ニ關スル文明的施設ヲナサントス
- 三、關稅政策ハ貿易ノ振興ヲ旨トシ國際取引ノ增進ヲ期ス。

政府ハ右ノ方針ノ下ニ一般商業ノ助長獎勵ニ努メ、商民亦能ク之ト協力經營ニ從ヘルヲ以テ、着々成果ヲ收メツツアリ。即チ政府ハ取引組織ノ合理化ヲ圖ル爲交易所ニ關スル制度ヲ攻究中ニシテ、差當リ哈爾濱糧食交易所ノ改組ヲ行ヒ滿日合辦ノ株式會社トナシ、又國產品ノ市場開拓ノ爲大同二年ニ於テシカゴ博覽會並ニ大連滿洲博覽會ニ參加出品セル等不斷ノ努力ヲ怠ラス。商業機關トシテノ工商會ニ關シテハ之カ統制ノ合理化ニ就キ銳意攻究中ナルカ、更ニ商業發達上從來最大ノ缺陷タリシ度量衡ニ關シテハ之カ統一ヲ急務トシテ、大同三年二月新ニ度量衡法ヲ制定公布シ、同時ニ從來ノ商工司權科ヲ擴張シテ權度局ヲ設ケ之カ實施ニ當ラシメツツアリ。又商標ノ保護ニ關シテハ、大同二年九月商標法及同施行細則ヲ制定シ、新設セル商標局ヲシテ之カ登錄其ノ他ニ關スル事務ヲ執ラシメツツアリ。尙商業ノ登記ニ關シテ定ムル所アリ、又工業所有權ニ對スル保護ニ關シテハ法制ノ制定ヲ企圖研究中ナリ。

第二節 商業機關

商會 從來我國各地ニハ商工業ノ利益ヲ保護增進シ同業者ノ圓滑ナル連絡ヲ圖ルヲ目的トスル商會アリ。

吉林省

商會名	入會商號數	商會名	入會商號數	商會名	入會商號數
吉林省全省商會聯合會	?	延吉縣龍井村商會	三〇九	樺川縣商會	一九
永吉縣總商會	五二三	琿春縣商會	一三五	樺川縣佳木斯商會	二二
永吉縣烏拉鎮商會	?	汪清縣商會	五四	勃利縣商會	三一
永吉縣樺皮廠商會	六六	敦化縣商會	?	依蘭縣商會	一〇一
永吉縣誠信鎮商會	二二〇	額穆縣商會	一七	依蘭縣大平鎮商會	一八
下九台商會	一〇〇	額穆縣蛟河鎮商會	五八	方正縣商會	一六
舒蘭縣商會	三三九	寧安縣商會	二二三	延壽縣商會	二六
德惠縣老燒溝商會	二四	寧安縣東城商會	六七	延壽縣商會	三五
德惠縣張家灣商會	三〇	東寧縣商會	五〇	珠河縣商會	七四
農安縣商會	六五	東寧鎮商會	三三	珠河縣烏吉密商會	五六
長嶺縣商會	五二	穆稜縣商會	九一	珠河縣一面坡鎮商會	七三
長春縣卡倫商會	二八	穆稜縣利樹鎮商會	八七	賓縣商會	一〇九
雙陽縣商會	五四	穆稜縣興源鎮商會	六三	賓縣商會	二一
伊通縣商會	二九	寶清縣商會	三三	阿城縣商會	二一
盤石縣商會	二四九	寶清縣商會	一八	雙城縣商會	二九
濛江縣商會	二六	虎林縣商會	二九	雙城縣拉林鎮商會	二九
樺甸縣商會	四七	饒河縣商會	七五	五常縣商會	一四五
和龍縣商會	四一	撫遠縣商會	一一	榆樹縣商會	二六
延吉縣商會	三三	同江縣商會	四四	扶餘縣商會	一八
		富錦縣商會	八八	扶餘縣三岔河商會	七九
		計	五九	計	二〇八

北滿特別區

商會名	入會商號數	商會名	入會商號數	商會名	入會商號數
北滿特別區商會聯合會	九九	海拉爾商會	?	石頭河子商會	?
一面坡商會	九九	富拉爾商會	?	山頭河子商會	?
綏芬河商會	四九	宋賴昭商會	?	葦沙河商會	六五
海林商會	二三	長春二道溝商會	?	都爾其哈商會	?
昂溪商會	?	穆稜商會	?	牙不力商會	?
滿洲里商會	六〇	磨刀石商會	?	對青山商會	?
小高子商會	八六	橫道河子商會	?	寬城子商會	?
博克圖商會	八五	鐵嶺商會	?	計	二七處
滿洲里商會	二〇二	牡丹江商會	?		
安達站商會	?	牡丹江商會	?		
計	九九	計	二七處		

興安各省

商會名	入會商號數	商會名	入會商號數	商會名	入會商號數
興安商會	?	豐寧商會	?	綏東商會	?
承德商會	?	平泉商會	?	計	一六處
赤峰商會	?	凌南商會	?		
建平商會	?	凌南商會	?		
建平商會	?	計	一六處		

新京特別市

商會名	入會商號數	商會名	入會商號數	商會名	入會商號數
布魯西商會	?	索倫商會	?	吉拉林商會	?
雅魯縣商會	五四	呼倫縣商會	二五四	計	五處
計	五四	計	二五四		

哈爾濱特別市

商會名	入會商號數	商會名	入會商號數	商會名	入會商號數
新京市商會	一、二九一	計	一處	計	二二九一
哈爾濱道外商會	?	哈爾濱道裡商會	?	計	二處
計	一、二九一	計	一處	計	二二九一

工商同業公會 工商同業公會ハ工商同業者ノ公共ノ利益ヲ維持シ、營業上ノ弊害ヲ矯正スルヲ目的トスル一種ノ同業組合ナリ。同業公會ニ關スル法令ハ目下政府ニ於テ立案中ナルモ、現在ハ暫行法規トシテ民國七年四月二十七日公布ノ修正工商同業公會規則及工商同業公會規則施行辦法ヲ援用ス。同業公會ハ商會ト緊密ナル關係ヲ有シ、各業公會ノ代表即チ商會ノ構成分子タル商會員ニシテ事實上商會長ノ監督下ニ在リ。

而シテ從來各地ニ於テハ公會類似ノ團體存在シ、之等ハ法規ニ準據セサルモノ多ク、其ノ組織名稱等モ區々タル状態ニ

シテ早急ニ之カ劃一ヲ期スルコト困難ナルモ、政府ハ銳意之カ整備統一ヲ期シ居レリ。
交易所 我國ニ於ケル取引所ハ鐵道沿線主要都市ニアル日本側ノ取引所ヲ除ケハ未タ十分發達ノ域ニ至ラサルモ、錢鈔糧食ノ交易所竝ニ交易所類似ノモノ各地ニ存在ス。

交易所ノ健全ナル發達ハ地方ノ經濟金融ニ貢獻スル所多大ナリト雖モ、其ノ組織不良ニシテ専ラ投機事業ニ轉化センカ其ノ惡影響ハ恐ルヘキモノアリ。政府ハ交易所ニ對スル根本政策ヲ樹立センカ爲大同元年ニ全國交易所ノ情況ヲ詳細ニ調査シタルカ、其ノ結果現在己ニ休業中ノモノノ再開及交易所類似ノ施設ヲ有スルモノノ營業ヲ禁止シ、且新ニ設立セントスルモノノ申請ハ實業部ノ許可ヲ要スルモノト爲シ、實業部ハ右ノ申請アル場合ニハ情勢ヲ考慮シ統制ノ方策ヲ調査研究シタル上更メテ其ノ可否ヲ決定スルコトトセリ。

現在暫行援用法規タル民國十八年公布ノ交易所法ニ準據シテ認可セラレタルモノハ哈爾濱交易所一個處ナリ。哈爾濱交易所ノ前身ハ濱江糧食交易所ニシテ之ヲ改組シ滿日合辦ノ株式會社トシテ組織セラレタルモノナリ。其ノ取引物件ハ大豆、豆粕、豆油、小麥、雜穀等ナリ。

哈爾濱交易所定期取引

(自大同二年十月至康德元年九月)

月別	限月別立會數	大豆			小麥		
		出來	受渡	高	出來	受渡	高
10月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
11月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
12月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
1月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
2月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
3月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
4月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
5月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
6月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
7月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
8月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
9月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
10月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
11月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
12月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
1月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
2月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
3月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
4月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
5月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
6月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
7月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
8月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
9月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
10月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
11月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
12月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
1月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
2月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
3月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
4月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
5月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
6月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
7月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
8月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
9月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
10月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
11月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
12月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
1月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
2月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
3月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
4月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
5月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
6月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
7月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
8月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
9月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
10月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
11月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
12月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
1月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
2月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
3月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
4月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
5月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
6月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
7月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
8月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
9月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
10月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
11月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
12月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
1月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
2月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
3月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
4月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
5月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
6月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
7月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
8月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
9月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
10月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
11月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
12月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
1月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
2月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
3月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
4月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
5月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
6月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
7月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
8月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
9月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
10月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
11月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
12月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
1月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
2月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
3月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
4月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
5月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
6月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
7月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
8月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
9月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
10月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
11月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
12月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
1月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
2月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
3月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
4月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
5月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
6月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
7月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
8月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
9月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
10月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
11月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
12月	10,114	100,000	100,000	11,000	100,000	100,000	100,000
1月	10,114	100,000	100,000				

第五編 商業、金融 第二章 商業

備考

一、建值ハ鈔票又ハ金票
二、呼值單位ハ一、〇〇〇圓

大同二年	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	大正十一年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
國幣對金票	國幣對金票	國幣對金票	國幣對金票	國幣對金票	國幣對金票	國幣對金票	國幣對金票	國幣對金票	國幣對金票	國幣對金票	國幣對金票	國幣對金票	國幣對金票	國幣對金票	國幣對金票	國幣對金票	國幣對金票	國幣對金票	國幣對金票
九六五、〇〇〇圓	一、〇七四、七〇〇	九五三、〇〇〇	一、〇四四、〇〇〇	九五四、〇〇〇	一、一三八、〇〇〇	九五二、五〇〇	一、一三〇、〇〇〇	九八四、〇〇〇	一、一三一、〇〇〇	九八三、五〇〇	一、一四四、〇〇〇	九五二、〇〇〇	一、一九七、〇〇〇	九四八、八〇〇	一二二、一五〇	九四〇、〇〇〇	一二二、四、五〇〇	九三六、〇〇〇	一、一九五、五〇〇
九四七、五〇〇	一、〇二九、五〇〇	九三九、〇〇〇	一、〇四七、三〇〇	九〇〇、〇〇〇	一、〇九七、三〇〇	九三六、五〇〇	一、〇九〇、五〇〇	九四八、八〇〇	一、〇七〇、〇〇〇	九六〇、五〇〇	一、一〇一、五〇〇	九四六、〇〇〇	一、一五六、〇〇〇	九三六、五〇〇	一、一六三、〇〇〇	九三五、五〇〇	一、一八三、五〇〇	九〇八、〇〇〇	一、一〇一、〇〇〇
二、〇九八、〇〇〇	八、八五八、〇〇〇	二、七一八、〇〇〇	六、六一九、〇〇〇	三、〇八九、〇〇〇	一、九〇七、八〇〇	三、九四二、〇〇〇	二、七九三、〇〇〇	四、〇〇三、〇〇〇	四、〇五二、〇〇〇	四、〇二二、〇〇〇	三、二七一、〇〇〇	五、六七九、〇〇〇	八、四五九、〇〇〇	二、一四二、〇〇〇	二、七九三、〇〇〇	三、六九二、〇〇〇	七、一七八、〇〇〇	四、九九六、〇〇〇	六、二四二、〇〇〇

備考
一、呼值單位、一布度
二、取引單位 千布度

新京城內交易所相場及出來高

(自大同二年四月至康德元年七月)

年月別	種別	最當	月高	中	最相	場低	當月中出來高	豆		麥	
								出來高	受渡高	出來高	受渡高
八月	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
一日平均	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
九	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
一日平均	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

三、取引單位ハ一、〇〇〇圓

市場 從來我國ニ於ケル市場ノ發達ハ自然ニ放任セラレ、然モ其ノ多クハ組織統制無ク、國民生活上及産業開發上却ツテ不利益ナル點尠カラス。政府ハ目下各重要都市ニ於テ制定ヲ急キツツアル市場規則ノ完備ト相俟テ組織統制アル近代的市场ノ發達ヲ策シツツアリ。尙日本側ノ市場ハ近代的市场ノ設備ヲ有スルモノ多ク、市民ノ需要ニ多大ノ利益ヲ與ヘ居レリ。因ニ中央卸賣市場法ハ近々公布ノ見込ナリ。

全國市場ノ概況左ノ如シ。

市場一覽

(大同二年十二月末調査)

都市別	名稱及所在地	市場種類	販賣品及店舗數	備考
新 京	西四馬路菜市場	小賣市場	肉野菜二 雜貨二八	
"	西五馬路市場	"		
"	東三道街野菜市	露店市		
"	小東門外魚菜肉市場	卸賣市場		
"	小東門內果實市場	"		
"	大西關平康里市場	小賣市場	鶏菜五五、鹽魚三三、鮮魚二二、猪行一六五、牛 羊一五〇、果品一六四	
"	大西邊門外平康里南市場	"		
"	小西邊門外皇寺市場	"	鳥肉ヲ主トシ牛羊豚野菜兼營二一	
奉 天	北 區 市 場	小賣市場	菜果一一、兼營一三	
"	西 北 區 市 場	露賣市		

"	工業區平康里市場	小賣市場	兼營二六	
"	大南門外市場	"	魚類一七二萬斤、鳥獸肉二九二萬斤、野菜一、〇三 五萬斤	撫順市場會社經營 商務會所有家屋
撫 順	千 金 市 場	卸小賣市場	野菜、果實、魚類、小賣店舖貸付七六、内未貸付 一〇、社用一四	
本 溪	本溪湖新市場(河東街)	小賣市場	魚菜肉一八	
安 東	六 通 什 魚 菜 市	卸小賣市場	魚商一二、肉商一〇、野菜商一四、雜貨商五	總商會所有 縣公署指定
營 口	東 市 場	露店小市場		
"	中 市 場	"		
"	西 市 場	露店小市場	魚 肉	
吉 林	菜 樓 (牛馬行大街)	小賣市場	豚肉、魚類、野菜、乾物	
"	肉 市 (牛馬行大街)	"	牛肉、羊肉	
"	菜 市 場	"	野菜	
"	菜 市 (菜 街)	"	川魚、鶏	
"	菜 市 (東 門)	"	野菜、肉類	
"	不 明 (菜市街合當胡同)	"	豚肉、魚類、野菜、乾物	
齊 齊 哈 爾	南 大 街 菜 市 場	"	野菜商六、鴨鴨商四、牛肉商五、猪肉商七、魚店八	哈爾濱市營
"	南 崗 東 市 場	"		
"	南 崗 西 市 場	"		
"	道 裡 南 市 場	"		
"	道 裡 北 市 場	"		

附 日本側各種商業機關ニ關スル參考表
一、商工會議所一覽

(昭和七年度)

名稱	職員數		選舉權者數		收入		支出	
	議員	役員	賦課金	補助金	其他	給與	其他	
大連商工會議所	5	5	430	2,100	4,400	3,200	3,800	
奉天商工會議所	4	4	300	1,600	3,400	2,100	1,900	
鐵嶺商工會議所	3	3	200	1,000	2,000	1,500	1,700	
新京商工會議所	2	2	100	500	1,000	800	800	
安東商工會議所	2	2	100	500	1,000	800	800	
營口商工會議所	2	2	100	500	1,000	800	800	
哈爾濱商工會議所	2	2	100	500	1,000	800	800	
計	20	20	1,300	6,600	13,000	9,200	10,700	

(昭和七年度)

二、諸同業組合

都市別	組合數	組合員數		計數	經費
		日本國人	滿洲人		
大連	153	38,333	54,089	92,421	22,265
奉天	36	1,744	145	1,889	95,705
新京	30	2,703	633	3,336	89,784
其他	209	11,189	1,061,999	1,183,388	799,079
計	428	54,958	1,610,666	2,266,044	3,211,069

三、輸入組合

(昭和八年未現在)

組合名	員數	組合員數	出口數	出資拂込金	
				昭和八年	新規定付高
大連順橋	355	1,263	1,456	4,675,800	4,675,800
旅順	59	1,456	1,456	3,619,900	3,619,900
大橋	54	1,101	1,101	2,913,300	2,913,300
營口	51	1,000	1,000	2,637,300	2,637,300
鞍山	47	1,000	1,000	2,637,300	2,637,300
遼陽	47	1,000	1,000	2,637,300	2,637,300
撫順	37	1,000	1,000	2,637,300	2,637,300
本溪	37	1,000	1,000	2,637,300	2,637,300
安東	30	1,000	1,000	2,637,300	2,637,300
鐵嶺	28	1,000	1,000	2,637,300	2,637,300
開原	28	1,000	1,000	2,637,300	2,637,300
四平街	26	1,000	1,000	2,637,300	2,637,300
公主嶺	24	1,000	1,000	2,637,300	2,637,300
新賓	24	1,000	1,000	2,637,300	2,637,300
吉林	24	1,000	1,000	2,637,300	2,637,300
哈爾濱	24	1,000	1,000	2,637,300	2,637,300
計	1,001	11,623	11,623	31,999,800	31,999,800

四、官、民經營取引所

(昭和八年末現在)

名稱	營業保證金	取引人		官營取引所附屬信託會社又ハ民營取引所	一ヶ年總收支		株主數
		人數	身元保證金		收入	支出	
(官營) 大通取引所	600,000圓	七名	3,200,000圓	5,115,000圓	6,451,000圓	3,105,000圓	一、二八六
大連取引所	1,500,000圓	六名	3,200,000圓	1,130,000圓	5,667,000圓	3,927,000圓	三九三
錢鈔信託會社	700,000圓	三名	3,000,000圓	3,000,000圓	1,294,000圓	1,621,000圓	一一四
新取會社	700,000圓	三名	1,200,000圓	3,700,000圓	1,770,000圓	1,740,000圓	七五
四平街取引所	700,000圓	三名	1,200,000圓	3,700,000圓	1,770,000圓	1,740,000圓	七五
信託會社	700,000圓	三名	1,200,000圓	3,700,000圓	1,770,000圓	1,740,000圓	七五
公主嶺取引所	700,000圓	三名	1,200,000圓	3,700,000圓	1,770,000圓	1,740,000圓	七五
信託會社	700,000圓	三名	1,200,000圓	3,700,000圓	1,770,000圓	1,740,000圓	七五
開原取引所	700,000圓	三名	1,200,000圓	3,700,000圓	1,770,000圓	1,740,000圓	七五
信託會社	700,000圓	三名	1,200,000圓	3,700,000圓	1,770,000圓	1,740,000圓	七五
奉天取引所	700,000圓	三名	1,200,000圓	3,700,000圓	1,770,000圓	1,740,000圓	七五
(民營) 大通株式 商品取引所	1,000,000圓	三名	1,000,000圓	1,000,000圓	2,110,000圓	5,510,000圓	三五
安東取引所	1,000,000圓	三名	1,000,000圓	1,000,000圓	2,110,000圓	5,510,000圓	三五
滿洲取引所	1,000,000圓	三名	1,000,000圓	1,000,000圓	2,110,000圓	5,510,000圓	三五

五、日本側市場一覽

(關東廳調查
昭和八年末)

地方	市場數	出店數	賣場金額	地方	市場數	出店數	賣場金額
(關東州)	一	二四	1,070,000圓	奉天	二	六	1,970,000圓
旅順	一	二四	1,070,000圓	安東	一	六	1,970,000圓
大連	一	二四	1,070,000圓	撫順	一	六	1,970,000圓
普蘭店	一	二四	1,070,000圓	開原	一	六	1,970,000圓
金州	一	二四	1,070,000圓	新開	一	六	1,970,000圓
鏡子窩	一	二四	1,070,000圓	計	八	一六	四,160,000圓
計	一〇	四〇	4,160,000圓	昭和七年	八	一六	4,160,000圓
昭和七年	一〇	四〇	4,160,000圓	合	一八	三六	10,130,000圓
(鐵道附屬地)	一	二	1,000,000圓	昭和七年	一八	三六	10,130,000圓
營口	一	二	1,000,000圓				
鞍山	一	二	1,000,000圓				

尙本表ノ外、家畜市場八、賣場金額一、三〇、七八二圓、糶市場一〇、賣場金額八、九七八、〇九四圓及薪炭市場一、賣場金額五、三八五圓アリ。

第三節 會社

公司 次ニ掲クル公司一覽表ハ建國以後援用法規タル民國二十一年七月一日施行公司法、公司法施行法及登記規則ニ依リ實業部ニ於テ設立ヲ認可シ。又ハ登記シタル公司ニシテ、大同元年度一件、資本金三百八十五萬圓、大同二年度十五件、資本金六千七百五十萬九千圓、康德元年度(六月末現在迄)二十件、五千三百一萬一千五百圓ニシテ、其内兩合公司

大同二年度一件、康德元年度二件アリ。尙特殊會社トシテ滿日兩國間ノ條約ニ依ルモノ一件、教令ニ依ルモノ二件、勅令ニ依ルモノ二件ヲ含ム。

大同元年三月一日以前ニ設立セラレタル公司ハソノ數尠カラサルモ之カ整備統一ハ緊急ノ問題ナリ。政府ニ於テハ右ニ關スル法令ノ草案ニ付着手中ナリ。

公 司 一 覽 (實業部調査)

年 度 別	件 數	資 本 金 總 額
大同元年度	一	三、八五〇、〇〇〇圓
大同二年度	一五	六七、八二〇、〇〇〇圓
康德元年度	二〇	五三、〇一五、五〇〇圓
計	三六	一三四、六八五、五〇〇圓

(註) 金、銀資本ハ同一ニ取扱ヒテ合計セリ。

一、股 份 有 限 公 司

(自大同元年十二月至康德元年六月)

公 司 名 稱	設 立 年 月 日	資 本 額	本 店 所 在 地	事 業 目 的	出 資 狀 況
滿洲航空株式會社	大同元年一二、一六	三、八五〇千圓	奉天商埠地三經路	航空運輸事業及附帶事業	滿日 員數 二人 出資 五、四〇〇株 株式 數 三、三〇〇

敦化電業股份有限公司	大同二年 三、一八	一〇〇	吉林省敦化縣城	電燈、電力ノ供給並ニ其ノ附帶事業	滿日 員數 一人 出資 一、六五〇株 株式 數 三、六
營口紡織股份有限公司	〃 三、二四	一、〇〇〇	營口青堆子街々大街	紡織及染色	滿日 員數 二人 出資 五、四〇〇株 株式 數 三、三〇〇
延吉電業股份有限公司	〃 四、八	二〇〇	吉林省延吉縣城	電燈、電力ノ供給並ニ其ノ附帶事業	滿日 員數 一人 出資 三、四〇〇株 株式 數 六、〇〇〇
大興股份有限公司	〃 七、一	六、〇〇〇	新京特別市西四道街	實業、酒、製油、有價證券ノ募集及引受並ニ前各項ニ附帶スル一切ノ業務	滿日 員數 六人 出資 六、〇〇〇株 株式 數 六、〇〇〇
安東電業股份有限公司	〃 七、二八	一、〇〇〇	奉天省安東商埠地	電燈、電力ノ供給並ニ其ノ附帶事業	滿日 員數 五人 出資 一〇、〇〇〇株 株式 數 一〇、〇〇〇
滿洲電信電話株式會社	〃 八、三一	五〇、〇〇〇	新京大和通	電信、電話、無線電信無線電話、及其他電氣通信事業	滿日 員數 七人 出資 七〇、〇〇〇株 株式 數 三〇、〇〇〇
西豐電業股份有限公司	〃 九、二三	五〇	奉天省西豐縣城	電燈、電力ノ供給並ニ其ノ附帶事業	滿日 員數 一人 出資 四〇〇株 株式 數 四〇〇
大同酒精股份有限公司	〃 一、二四	一、六七〇	哈爾濱市道裡地段街	酒精及其ノ加工品ノ製造並ニ販賣及ヒ前項ノ附帶事業	滿日 員數 六人 出資 一、六五〇株 株式 數 一、六五〇
營口商業銀行	〃 一、二一	一、〇〇〇	營口西大街	一般銀行業及倉庫業	滿日 員數 五人 出資 五〇、〇〇〇株 株式 數 五〇、〇〇〇
北票煤礦股份有限公司	〃 一、二四	一、五〇〇	新 京 市	石炭ノ採掘、販賣及其ノ附帶事業、前項事業ニ必要ナル不動産及有價證券ノ取得	滿日 員數 九人 出資 一〇、〇〇〇株 株式 數 一〇、〇〇〇
營口水道電氣株式會社	〃 一、二四	二、〇〇〇	營口南大街	電氣、電力ノ供給並ニ其ノ附帶事業	滿日 員數 一人 出資 九、九七〇株 株式 數 九、九七〇
鐵法長途汽車股份有限公司	〃 一、二五	五〇	奉天省鐵嶺西關	旅客及貨物ノ輸送並ニ其ノ附帶事業	滿日 員數 一人 出資 五〇〇株 株式 數 五〇〇
大同洋灰股份有限公司	〃 一、二二	三、〇〇〇	吉林省商埠地大馬路	セメント及セメント材料ノ製造及販賣、其他セメント工業ニ關スル必要事業	滿日 員數 八人 出資 八、〇〇〇株 株式 數 八、〇〇〇
滿洲自動車交通股份有限公司	〃 一、二五	二五〇	新京西五馬路	旅客、貨物ノ運輸並ニ一切ノ附帶事業及前項事業ヘノ投資	滿日 員數 二人 出資 四、九〇〇株 株式 數 四、九〇〇
哈爾濱交通有限公司	大同三年 一、二二	二、〇〇〇	哈爾濱傅家甸	大豆、豆粕、豆油、小麥、麥粉、麻袋、棉絲布、雜穀ノ取引	滿日 員數 三人 出資 八、〇〇〇株 株式 數 八、〇〇〇
蓋平電業股份有限公司	〃 一、卅	七〇	奉天省蓋平縣城	電燈、電力ノ供給並ニ其ノ附帶事業	滿日 員數 三人 出資 六〇〇株 株式 數 六〇〇

公司名稱	設立年月日	資本額	本店所在地	事業目的	出資狀況
滿洲滑石股份有限公司	大同三年 二、九	二千圓	海城昌平街	滑石採掘、賣買、滑石粉製造、並其一切附帶事業	滿日 五七人 二、七〇〇株
滿洲石油株式會社	" 二、二四	五、〇〇〇	新京日本橋通	石油採掘、精製、賣買及前項附帶事業	滿日 六二 二〇,〇〇〇株
昌圖電業股份有限公司	" 二、二七	六〇	奉天省昌圖縣城	電燈、電力供給並其附帶事業	滿日 七七 六〇〇株
同和自動車工業株式會社	康德元年 三、三一	六、二〇〇	奉天市工業區一馬路	自動車製造、修繕及其附屬品販賣及前項附帶事業	滿日 一三 一〇,〇〇〇株
滿洲棉花股份有限公司	" 四、一九	二、〇〇〇	奉天市加茂町	棉花採掘、加工、棉花及種子販賣、棉花耕作資金融通、棉花栽培用品供給、棉花栽培及前項各項附帶事業	滿日 一六 三〇,〇〇〇株
滿洲計器股份有限公司	" 五、七	一、五〇〇	新京永樂町	度量衡器及計量器製造、修理、賣買及投資、前各項附帶事業	滿日 一〇 一五,〇〇〇株
滿洲炭鑛株式會社	" 五、七	一、六〇〇	新京日本橋通	石炭採掘、販賣、炭鑛業投資及前各項附帶事業	滿日 八六 二〇,〇〇〇株
吉菊自動車股份有限公司	" 五、八	一〇〇	吉林省城船營街	自動車購買、道路修理、旅客、貨物輸送、其他自動車運搬事業	滿日 九 一,〇〇〇株
吉菊自動車股份有限公司	" 五、八	一〇〇	吉林省城第四區	洋灰製造、販賣並附帶業務	滿日 九 一,〇〇〇株
滿日合辦滿洲洋灰股份有限公司	" 五、一	二、〇〇〇	奉天千代田通	砂金及金鑛採掘、並精鍊、採金業者對砂金供給及採金事業、經營委託及受託各項附帶事業	滿日 二二 二七,〇〇〇株
滿洲探金株式會社	" 五、一六	二、〇〇〇	新京朝日通	輕便鐵路運輸營業並附帶一切事業	滿日 二二 二七,〇〇〇株
琿春鐵路股份有限公司	" 六、一	一、二〇〇	吉林省琿春城外	倉庫並倉庫關一切附帶事業	滿日 元四 五,〇〇〇株
大德不動產股份有限公司	" 六、四	一、〇〇〇	新京北道大街	貸貸及賣却目的のトスル家屋ノ建築、土地購入又ハ借入金ノ貸付、土地建物賣買、借貸借受託管理及其仲介、以上附帶一切業務	滿日 二九 一七,〇〇〇株

公司名稱	設立年月日	資本額	本店所在地	事業目的	出資狀況
滿日亞麻紡織股份有限公司	康德元年 六、一五	三、〇〇〇	奉天西區南一路	亞麻栽培、亞麻纖維製造及之原料トスル紡織事業並亞麻種子栽培、賣買	滿日 二二 五、〇〇〇株
益發銀行股份有限公司	" 六、一八	一、〇〇〇	新京西三道街	一般銀行業務、外國貨幣、代理及保險	滿日 九 五,〇〇〇株
切成玉銀行股份有限公司	" 六、二六	五〇〇	吉林省永吉縣城	一般銀行業務	滿日 一〇 五,〇〇〇株

(自大同元年十二月至康德元年六月)

附 日本側會社ニ關スル參考表

一、會社總數	二、兩合公司																																																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>地方</th> <th>年 度 別</th> <th>本 店</th> <th>支 店</th> <th>出 張 所</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>關 東</td> <td>昭和八年末</td> <td>九三三</td> <td>九二</td> <td>五三</td> <td>一、〇七八</td> </tr> <tr> <td>東 部</td> <td>同 七 年 末</td> <td>八九六</td> <td>八二</td> <td>五一</td> <td>一、〇二九</td> </tr> <tr> <td>同 六 年 末</td> <td>八二七</td> <td>七五</td> <td>五三</td> <td>九五</td> <td>九五五</td> </tr> <tr> <td>同 五 年 末</td> <td>七八三</td> <td>六一</td> <td>五〇</td> <td>八九</td> <td>八九四</td> </tr> </tbody> </table>	地方	年 度 別	本 店	支 店	出 張 所	計	關 東	昭和八年末	九三三	九二	五三	一、〇七八	東 部	同 七 年 末	八九六	八二	五一	一、〇二九	同 六 年 末	八二七	七五	五三	九五	九五五	同 五 年 末	七八三	六一	五〇	八九	八九四	<table border="1"> <thead> <tr> <th>公司名稱</th> <th>設立年月日</th> <th>資本額</th> <th>本店所在地</th> <th>事業目的</th> <th>出資狀況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>啓明兩合汽車公司</td> <td>大同二年 一、一八</td> <td>千圓</td> <td>新京市東三馬路</td> <td>貨物ノ運送、自動車修理及材料販賣</td> <td>滿日 滿日 滿日</td> </tr> <tr> <td>兩合公司通開汽車公司</td> <td>大同三年 二、一九</td> <td>四〇</td> <td>奉天省通遼縣</td> <td>自動車ニヨル、旅客、貨物ノ輸送</td> <td>滿日 滿日 滿日</td> </tr> <tr> <td>大洋兩合公司</td> <td>康德元年 五、二二</td> <td>七一・五</td> <td></td> <td>建築材料ノ製造、販賣及器械其他ノ輸移出賃</td> <td>滿日 滿日 滿日</td> </tr> </tbody> </table>	公司名稱	設立年月日	資本額	本店所在地	事業目的	出資狀況	啓明兩合汽車公司	大同二年 一、一八	千圓	新京市東三馬路	貨物ノ運送、自動車修理及材料販賣	滿日 滿日 滿日	兩合公司通開汽車公司	大同三年 二、一九	四〇	奉天省通遼縣	自動車ニヨル、旅客、貨物ノ輸送	滿日 滿日 滿日	大洋兩合公司	康德元年 五、二二	七一・五		建築材料ノ製造、販賣及器械其他ノ輸移出賃	滿日 滿日 滿日
地方	年 度 別	本 店	支 店	出 張 所	計																																																		
關 東	昭和八年末	九三三	九二	五三	一、〇七八																																																		
東 部	同 七 年 末	八九六	八二	五一	一、〇二九																																																		
同 六 年 末	八二七	七五	五三	九五	九五五																																																		
同 五 年 末	七八三	六一	五〇	八九	八九四																																																		
公司名稱	設立年月日	資本額	本店所在地	事業目的	出資狀況																																																		
啓明兩合汽車公司	大同二年 一、一八	千圓	新京市東三馬路	貨物ノ運送、自動車修理及材料販賣	滿日 滿日 滿日																																																		
兩合公司通開汽車公司	大同三年 二、一九	四〇	奉天省通遼縣	自動車ニヨル、旅客、貨物ノ輸送	滿日 滿日 滿日																																																		
大洋兩合公司	康德元年 五、二二	七一・五		建築材料ノ製造、販賣及器械其他ノ輸移出賃	滿日 滿日 滿日																																																		

地方	昭和七年末	昭和六年末	昭和五年末	計	新主	公平	開原	鐵嶺	撫順	安東	本湖	奉天	蘇家屯	遼陽	鞍山	營口	大石橋	瓦房店	(鐵道附屬地)	昭和七年末	昭和六年末	昭和五年末				
五萬圓未満	110,000	110,000	110,000	330,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000				
十萬圓未満	110,000	110,000	110,000	330,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000			
五十萬圓未満	110,000	110,000	110,000	330,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000		
百萬圓未満	110,000	110,000	110,000	330,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	
百萬圓以上	110,000	110,000	110,000	330,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000
計	550,000	550,000	550,000	1,650,000	550,000	550,000	550,000	550,000	550,000	550,000	550,000	550,000	550,000	550,000	550,000	550,000	550,000	550,000	550,000	550,000	550,000	550,000	550,000	550,000	550,000	

更ニ之ヲ地方別ニ會社數及拂込資本金(又ハ出資額)ヲ見ルニ次表ノ如シ。

二、會社資本金額別 (昭和八年調查)

地方	會社數	拂込資本金	又ハ出資額	會社數	拂込資本金	又ハ出資額	會社數	拂込資本金	又ハ出資額	會社數	拂込資本金	又ハ出資額	會社數	拂込資本金	又ハ出資額	計
旅順	4	1,117,000圓	1,117,000圓	4	1,117,000圓	1,117,000圓	4	1,117,000圓	1,117,000圓	4	1,117,000圓	1,117,000圓	4	1,117,000圓	1,117,000圓	4,117,000圓
大連	3	6,237,171圓	6,237,171圓	3	6,237,171圓	6,237,171圓	3	6,237,171圓	6,237,171圓	3	6,237,171圓	6,237,171圓	3	6,237,171圓	6,237,171圓	18,711,513圓
普蘭店	4	3,000,000圓	3,000,000圓	4	3,000,000圓	3,000,000圓	4	3,000,000圓	3,000,000圓	4	3,000,000圓	3,000,000圓	4	3,000,000圓	3,000,000圓	12,000,000圓
繞子窩	3	3,000,000圓	3,000,000圓	3	3,000,000圓	3,000,000圓	3	3,000,000圓	3,000,000圓	3	3,000,000圓	3,000,000圓	3	3,000,000圓	3,000,000圓	9,000,000圓
計	14	13,354,171圓	13,354,171圓	14	13,354,171圓	13,354,171圓	14	13,354,171圓	13,354,171圓	14	13,354,171圓	13,354,171圓	14	13,354,171圓	13,354,171圓	45,888,174圓

地方	年度別	本店	支店	出張所	計
鐵道附屬地	昭和八年末	436	120	46	602
	昭和七年末	404	98	38	540
	昭和六年末	415	81	33	529
	昭和五年末	397	90	30	517
	計	1,369	412	147	1,928
合	昭和八年末	1,369	412	147	1,928
	昭和七年末	1,300	380	138	1,818
	昭和六年末	1,242	356	136	1,734
	昭和五年末	1,180	351	130	1,661
	計	5,191	1,515	581	7,287

地方	五萬圓未満		十萬圓未満		五十萬圓未満		百萬圓未満		百萬圓以上		計
	會社數	拂込資本金 又ハ出資額	會社數	拂込資本金 又ハ出資額	會社數	拂込資本金 又ハ出資額	會社數	拂込資本金 又ハ出資額	會社數	拂込資本金 又ハ出資額	
(合計)	八三	10,100,000	三三	6,400,000	三三	7,700,000	三三	3,000,000	一三	1,100,000	160,000,000
昭和八年末	七二	9,200,000	二二	6,400,000	二二	7,700,000	二二	3,000,000	一三	1,100,000	140,000,000
同七年末	七二	9,200,000	二二	6,400,000	二二	7,700,000	二二	3,000,000	一三	1,100,000	140,000,000
同六年末	七二	9,200,000	二二	6,400,000	二二	7,700,000	二二	3,000,000	一三	1,100,000	140,000,000
同五年末	六九	9,200,000	二一	6,400,000	二一	7,700,000	二一	3,000,000	一三	1,100,000	140,000,000

(備考) 本表ハ本店ノミニシテ支店出張所ヲ含まス。

尙營業種類別ニ之ヲ見レハ別表ノ如シ。

三、會社營業種類別 (關東八年調査)

地方	農業		鑛業		工業		商業		運輸業		其他		計
	會社數	拂込資本金 又ハ出資額	會社數	拂込資本金 又ハ出資額	會社數	拂込資本金 又ハ出資額	會社數	拂込資本金 又ハ出資額	會社數	拂込資本金 又ハ出資額	會社數	拂込資本金 又ハ出資額	
(關東州)	八	3,000,000	一	500,000	二	2,000,000	二	3,000,000	二	3,000,000	一	1,000,000	1,500,000
旅順	一	1,000,000	一	500,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	1,000,000
大連	一	1,000,000	一	500,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	1,000,000
普蘭店	一	1,000,000	一	500,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	1,000,000
貔子窩	一	1,000,000	一	500,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	1,000,000
同七年末	三	6,000,000	一	500,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	1,000,000
同六年末	三	6,000,000	一	500,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	1,000,000

地方	農業		鑛業		工業		商業		運輸業		其他		計
	會社數	拂込資本金 又ハ出資額	會社數	拂込資本金 又ハ出資額	會社數	拂込資本金 又ハ出資額	會社數	拂込資本金 又ハ出資額	會社數	拂込資本金 又ハ出資額	會社數	拂込資本金 又ハ出資額	
昭五年末	三	6,000,000	一	500,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	1,000,000
(鐵道附屬地)	一	1,000,000	一	500,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	1,000,000
瓦房店	一	1,000,000	一	500,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	1,000,000
大石橋	一	1,000,000	一	500,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	1,000,000
營口	一	1,000,000	一	500,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	1,000,000
鞍山	一	1,000,000	一	500,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	1,000,000
遼陽	一	1,000,000	一	500,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	1,000,000
蘇屯	一	1,000,000	一	500,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	1,000,000
奉天	一	1,000,000	一	500,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	1,000,000
本湖	一	1,000,000	一	500,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	1,000,000
安東	一	1,000,000	一	500,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	1,000,000
撫順	一	1,000,000	一	500,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	1,000,000
鐵嶺	一	1,000,000	一	500,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	1,000,000
開原	一	1,000,000	一	500,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	1,000,000
四平街	一	1,000,000	一	500,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	1,000,000
公主嶺	一	1,000,000	一	500,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	1,000,000
新京	一	1,000,000	一	500,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	1,000,000
計	八	10,000,000	一	500,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	1,000,000
昭和七年末	八	10,000,000	一	500,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	1,000,000
同六年末	八	10,000,000	一	500,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	1,000,000
同五年末	八	10,000,000	一	500,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	1,000,000
(合計)	三	6,000,000	一	500,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	1,000,000
昭八年末	三	6,000,000	一	500,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	一	1,000,000	1,000,000

年次	農業		鑛業		工業		商業		運輸業		其他		計
	會社	又ハ出資額	會社	又ハ出資額	會社	又ハ出資額	會社	又ハ出資額	會社	又ハ出資額	會社	又ハ出資額	
昭和七年末	三	九,五三六,五〇〇	三	一四,〇五六,三三三	四〇	八,二〇八,九〇〇	七六	一〇〇,七三三,八八三	八五	四,八八三,三〇〇	七	四,八八三,三〇〇	六,五七二,一九四
同 六年末	三	九,五九九,〇〇〇	三	一五,〇五四,三〇五	四三	九,五五七,七五〇	六三	九六,四六〇,五〇〇	八六	四,〇〇〇,〇〇〇	七	四,〇〇〇,〇〇〇	六,七〇八,〇〇〇
同 五年末	三	九,八七〇,〇〇〇	三	一四,四九九,六六四	三六	九,四三三,九〇〇	六〇	一〇五,四三三,七〇〇	八四	四,〇九六,一八〇	七	四,〇九六,一八〇	六,四七〇,八五六

備考 本表ハ本店ノミニシテ、支店、出張所ハ含まズ。

以上ニ示スカ如ク事變後日本側會社ノ設立セラルルモノ多ク、昭和八年（大同二年）度ハ諸事業ノ躍進ニ伴ヒ大小六十餘ノ設立ヲ見、昭和九年（康德元年）度ニ入りテモ既ニ設立或ハ設立計畫中ノモノ亦尠カラス。

試ニ昭和八年（大同二年）以降新設セラレタル會社ノ中主ナルモノ（資本金五十萬圓以上）ヲ舉クレハ次ノ如シ。

四、新設會社一覽

（自昭和八年一月至同 九年五月）

會社名	設立年月	公稱資本	本店所在地	營業種目
新京建物助成株式會社	昭和八年 二月	五〇〇千圓	新京 三笠町	建築施工ニ關スル業務並ニ設計、監督及金融
日滿塗料株式會社	昭和八年 二月	一〇〇〇	奉天 千代田通	一、塗料、顏料、油脂其他一般化學工業品ノ製造販賣 二、前項ニ關聯スル一切ノ事業
滿洲亞鉛鍍株式會社	昭和八年 五月	一〇〇〇	鞍山 大和町	一、亞鉛鍍板、鐵線、鐵釘ノ製造販賣 二、一般金屬ノ製造販賣 三、前項ニ關聯シ、他ノ事業ニ出資シ又ハ他人ト共同スルコトヲ得
株式會社滿洲モーターズ	昭和八年 五月	一〇〇〇	大連市 入船町	一、自動車及附屬品、部分品ノ販賣 二、自動車及附屬品ノ修理 三、鐵油類ノ販賣 四、自動車運輸業ニ對スル投資

株式會社昭和製鋼所	昭和八年 三月	一〇〇,〇〇〇	鞍山	鐵礦ノ採掘販賣及鐵鑄、鋼ノ製造販賣
興亞電業株式會社	昭和八年 四月	五〇〇	奉天 大西邊門外	電氣工事請負業
大同電氣株式會社	昭和八年 四月	八五〇	四平街 日進街	電氣事業及之ニ附帶スル事業ノ經營
滿洲化學工業株式會社	昭和八年 五月	二五,〇〇〇	大連市 常磐町	一、硫酸アムモニア、其他各種要素肥料ノ製造並ニ販賣 二、各種化學工業品ノ製造並ニ販賣 三、副産物ノ製造加工並ニ販賣
新興起業株式會社	昭和八年 七月	五〇〇	奉天 加茂町	一、土地建物ノ賃借、賣買、仲介並ニ金融 二、舞踏場ノ經營
合資會社福興公司	昭和八年 九月	五〇〇	新京 入船町	一、硬質及耐火煉瓦並ニ人造大理石ノ製造、販賣 二、陶磁器及金具其他建築材料ノ販賣 三、化學工業ニ關スル分析鑑定及調査 四、雜貨食料品其他一般輸出入貿易業
滿洲水產販賣株式會社	昭和八年一〇月	五〇〇	大連市 加賀町	一、水產物ノ賣買並ニ委託賣買及賣買ノ仲介 二、水產物ノ賣買代金ノ立替並ニ其支拂及爲替保証 三、水產物ノ保管關
乾汽船合資會社	昭和八年十一月	一,五〇〇	大連市 山縣通	關東州沿岸、日本、支那又ハ諸外國間ニ於ケル運送業
奉天工業土地株式會社	昭和八年十一月	二,〇〇〇	奉天 平安廣場	工業地區ノ經營
日滿木材株式會社	昭和八年十二月	五〇〇	大連 北大山通	木材賣買及製材、土木建築材料賣買、其他會社ノ株式引受及所有
石原産業海運株式會社	昭和九年 三月	二,四〇〇	大連市 須磨町	一、鑛山業並ニ製鍊業 二、海運業並ニ倉庫業 三、他社株式ヲ所有、又ハ投資ヲナス事 四、前各項ニ關聯スル事業
極東生藥株式會社	昭和九年 三月	一,五〇〇	奉天 平安通	一、藥品ノ原料タル植物及天產品ノ栽培、採取及加工販賣 二、醫藥工業藥品ノ製造、取次販賣 三、農藥ノ經營
滿洲製藥株式會社	昭和九年 三月	五,〇〇〇	新京 西七馬路	一、藥品、毒藥、劇藥ノ製造販賣 二、賣藥ノ製造販賣 三、醫療機械、衛生材料ノ製造、賣買 四、藥草栽培、藥種原料礦物ノ採取、藥品ノ化學的研究分析

會社名	設立年月	公稱資本	本店所在地	營業種目
北滿製糖株式會社	昭和九年三月	二、〇〇〇	哈爾濱市石頭道街	一、甜菜糖業ノ製造販賣並ニ其ノ副業タル酒精肥料等製造販賣 二、甜菜糖業ノ副業タル酒精肥料等製造販賣 三、家畜飼料ノ製造並ニ富買 四、大豆油ノ精製並賣買 五、前四項ニ附帶スル一切ノ業務
敦化金融株式會社	昭和九年三月	五、〇〇〇	吉林省敦化縣城東門外	一、不動產、商品及有價証券擔保貸付、並ニ附帶事業 二、信用貸付 三、代理業
南滿ドロマイト工業株式會社	昭和九年四月	一、〇〇〇	大連市榮町	一、南滿アラストノ製造、販賣 二、苦灰石、方解石、大理石類ノ採掘、販賣 三、鑛、鋪床並ニ屋上ノ鑛工事業 四、人造石、其他石造品類ノ製造 五、炭酸ノ製造販賣
大同酒精株式會社	昭和九年四月	一、七六〇	哈爾濱市地段街	酒精製造並ニ販賣
滿洲洋灰股份有限公司	昭和九年四月	一、〇〇〇	奉天城内商務會内	セメント製造並ニ販賣

第四節 商標法ノ制定

從來滿洲ニ於ケル商標ニ關シテハ、曩ニ民國十九年十一月二十五日國民政府訓令ヲ以テ翌年一月一日ヨリ商標法ヲ施行スヘキ旨ヲ公布シタルニ基キ、遼寧、黑龍江、吉林ノ各省及東省特別區各々之カ施行ニ關シテ定ムル所アリシカ、南京政府ノ政令ノ完全ニ行ハレサリシ東北ノ地域ニ於テハ其ノ發布ニ係ル商標法モ亦其ノ效果ノ見ルヘキモノナカリキ。遼寧省政府實業廳カ民國二十年八月一日更ニ商標保護令ヲ發布スルノ要ヲ見タルカ如キハ其ノ間ノ事情ヲ知ルニ足ルモノアルヘシ。

斯カル狀況ノ下ニ於テ民國二十年九月滿洲事變勃發スルヤ商標登錄制定ハ姑ク無秩序ノ狀態トナリシカ、大同元年三月

一日我國建國成リテ治安其ノ緒ニ就クヤ、産業ノ振興、商工業ノ勃興ト共ニ必然的ニ市場ニ於ケル當業者間ノ競争ハ愈々激加セントスルノ情勢ヲ呈シ、爲ニ商標ノ使用ヲ保護シ以テ不正競争ヲ防止スルノ要アリトスル聲漸ク高クナレリ。政府ハ此等ノ情勢ニ鑑ミ大同二年九月二十一日商標法及同施行細則ヲ公布シ、同年十一月二十日之ヲ施行、同日商標登錄令及同施行細則ヲ公布施行スルニ至リ、實業部ニ商標局ヲ置キテ商標ノ登錄及評定ニ關スル事務ヲ管掌セシムルコトト爲シタリ。

而シテ商標法施行後ノ狀態ヲ見ルニ、商標局設置以來、康德元年七月末日迄九個月間ニ於ケル商標登錄出願ハ一四、九八九件ノ多キニ上リ、之カ出願者國籍別ヲ見ルトキハ、日、獨、英、米等各國人ノ出願ニ係ルモノ尠カラズ（別表參照）。此ノ事實ハ諸外國人ノ我國市場ニ多大ノ關心ヲ有スルコトヲ明示スルモノト稱スヘク、又此等登錄出願ノ商品類別亦極メテ多岐ニ亘リ、之ニ依リ我國ニ於テ需要セララルル商品ノ傾向ヲ推知スルヲ得ヘシ。惟フニ本登錄ノ實施ハ從來無秩序ニ近キ狀態ニ在リシ我國市場ニ於ケル内外國商品ノ混亂ヲ統制スルニ止マラス、産業ノ發達ヲ助成スル所尠カラサルヘキモノト信ス。商標法施行以來最近迄ニ於ケル商標登錄出願數ノ國籍別左ノ如シ。

國籍別	商標登錄出願件數							計
	大同二年十一月	大同二年十二月	大同三年一月	大同三年二月	康德元年三月	大同四年四月	大同五年五月	
日本	三	一八	六	一	九	一六	二二	124
德國	三	一八	六	一	九	一六	二二	124
其他	九四七	五九六	三三三	二五三	二六五	三三三	一七二	11010

(自大同三年十一月至康德元年七月 商標局調)

國籍別	大同二年十月	大同二年十一月	大同二年十二月	大同三年一月	康德元年二月	康德元年三月	康德元年四月	康德元年五月	康德元年六月	康德元年七月	計
英國	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
米國	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
佛國	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
中佛華民	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
加太	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
伊太	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
波蘭	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
瑞西	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
瑞典	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
諾威	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
和蘭	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
地吉	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
丁抹	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
ソウエツト聯邦	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
チエツコ、スロバキヤ	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
希臘	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
リトワニヤ	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
キエウバ	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
エストニア	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
無國籍	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

第三章 貿易

第一節 概說

過去ノ趨勢 西紀一八六四年牛莊（營口）ノ開港ニ依リ初メテ國際貿易場裡ニ進出セシ滿洲ノ貿易ハ、其後露國ノ極東經營、特ニ日本ノ滿蒙ニ對スル經濟的寄與ニ依リ逐年躍進ヲ續ケテ今日ノ盛大ヲ見ルニ至レリ。即チ南滿鐵道ヲ中心トスル諸鐵道ノ完成、諸港灣ノ設備ハ移住民ノ増加ニ伴フ奧地產業開發ト相俟チ、逐年其ノ貿易額ヲ激増スル素因ヲ爲セシモノニシテ、最近三十餘年間ニ於ケル滿洲貿易ノ趨勢ハ、眞ニ驚異ニ値スルモノアルヘシ。

累年貿易額

年次	輸出	輸入	總貿易額	輸出(入)超過額
一九三三(大同二年)	四八、四七、六〇五	五二、五、八三三	九六、〇三、四三八	(一) 六七、三五、八三三
一九三二(大同元年)	六一、一、五七、七四九	三〇、一、〇七、七六四	九一、二、六五、五一三	二五、〇、八四、三九五
一九三一	海關兩 四七、八、五五、七三七	海關兩 二二、三、四三、二一八	七〇、一、九八、九〇五	三五、一、二二、六六九
一九三〇	三九、六、七二、四、〇五六	三〇、六、九九、九、四三七	七〇、三、七二、三、四七三	八九、七、一五、六一九
一九二九	四一、八、一、三六、〇九四	三三、九、八、八五、一八五	七五、八、〇、二、二七九	九六、四、七、五、〇九〇
一九二八	四三、四、〇、三、五、四四四	三三、〇、九、九、五、九〇四	七六、五、〇、三、四、四四八	三三、一、〇、九、五、五三〇

年次	輸出	輸入	總貿易額	輸出(入)超過額
一九二七	四〇八、〇三六、七九	三六、九三三、五六	海關南 六六、九四九、七五	海關南 一三九、二三三、五九三
一九二六	三七〇、〇九六、九五	三三、七〇三、五三	六四、七五〇、四九	九三、七三三、四二七
一九二五	三二、五六八、一九	三〇、四七三、五〇	五七、〇九〇、六九	六、六四六、六八九
一九二四	三六九、〇八〇、八三	三〇、九四八、四七	四〇、九六六、五五	六八、三九九、六二二
一九二三	三九、九八八、九四	三〇、三三五、三三	五〇、九九四、一六	八、八七三、七二二
一九二二	三七、六一、〇六	二九、四三三、〇七	四七、〇九三、九八	七、二九九、八三四
一九二一	三三、四七〇、八三	二八、八七三、七四	四三、三五四、五八	一六、三〇三、二八
一九二〇	三三、九三六、四三	二〇、二九、四五	四三、〇五八、八〇	三、七九六、九七八
一九一九	三二、〇〇八、七三	三三、〇三三、五九	四四、三三、三五	(一) 一九、二九四、八三二
一九一八	一六、八六一、六六	一七、二九、一五	三四、〇七五、三三	(一) 一〇、三三三、九九〇
一九一七	一六、一〇〇、〇〇	一五、五三三、〇〇	三九、六三三、〇〇	二、五六、四九一

即チ一九〇七年ニ於ケル貿易總額ハ僅ニ五千九百九十三萬海關兩ナリシカ、爾來增加一九一〇年ニ於テハ一躍約三倍ニシテ一億八千二百四十一萬海關兩トナリ、一九二〇年ニハ右表ニ示スカ如ク七倍ヲ超エテ四億三千五百萬海關兩トナリ、更ニ一九三〇年ニ於テハ約十二倍七億四百萬海關兩ノ巨額ヲ示スニ至レリ。次テ一九三一年ニ入りテハ、前年來銀價ノ暴落、世界ノ一般經濟界ノ混亂等ニ因リ貿易亦減退ノ趨勢ニアリシニ加ヘテ、同年九月勃發セシ滿洲事變ハ甚大ナル影響ヲ對外貿易ニ及ホシ、前年ニ比シ總額ニ於テ約二百萬海關兩ノ減少ヲ來シタルカ、翌年三月一日滿洲國生誕シ、治安維持ノ回復、諸產業ノ開發、新鐵道其他交通路ノ建設、各地都市ノ建設等ニ依リ舊態ヲ脱シタル新生面開カルルニ及ヒ、各海關ノ接收、新稅關ノ整備充實ト相俟チ我國ノ貿易ハ異常ナル發展ヲ示スニ至リタリ。

稅關 由來滿洲ニ於ケル稅關ハ一八六四年牛莊(營口)ニ開設セラレタルヲ初メトシテ、日露戰後急激ナル貿易ノ發達ニ伴ヒ一九〇七年二月滿洲里ニ開設シタル外、全滿各地ニ亘リテ設置セララルモノ十指ヲ算フルニ及ヒタルカ、大同元年建國ト共ニ當然此等ヲ我國ニ接收スヘキモノトシテ同年六月二十七日關稅接收ニ關スル聲明ヲ發シ、大連海關以下各稅關ヲ接收シテ茲ニ關稅徵收機關ヲ整備シ、以テ對外貿易ノ發展ニ資スル所アラシメタリ。

今建國以前ニ於ケル國內所在ノ各港及現在開設ヲ了シタル稅關ヲ示セハ左ノ如シ。

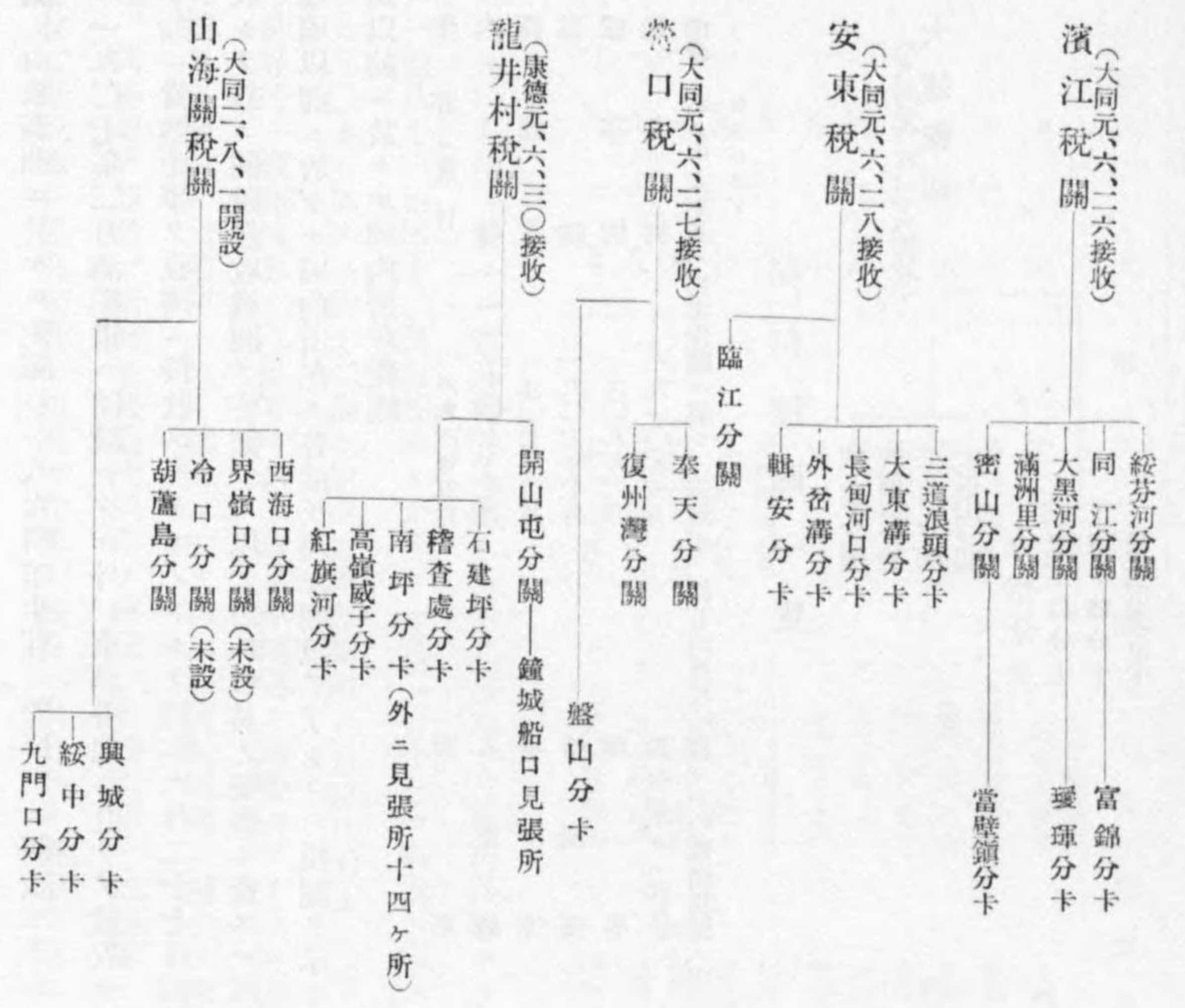
建國以前ニ於ケル國內所在稅關

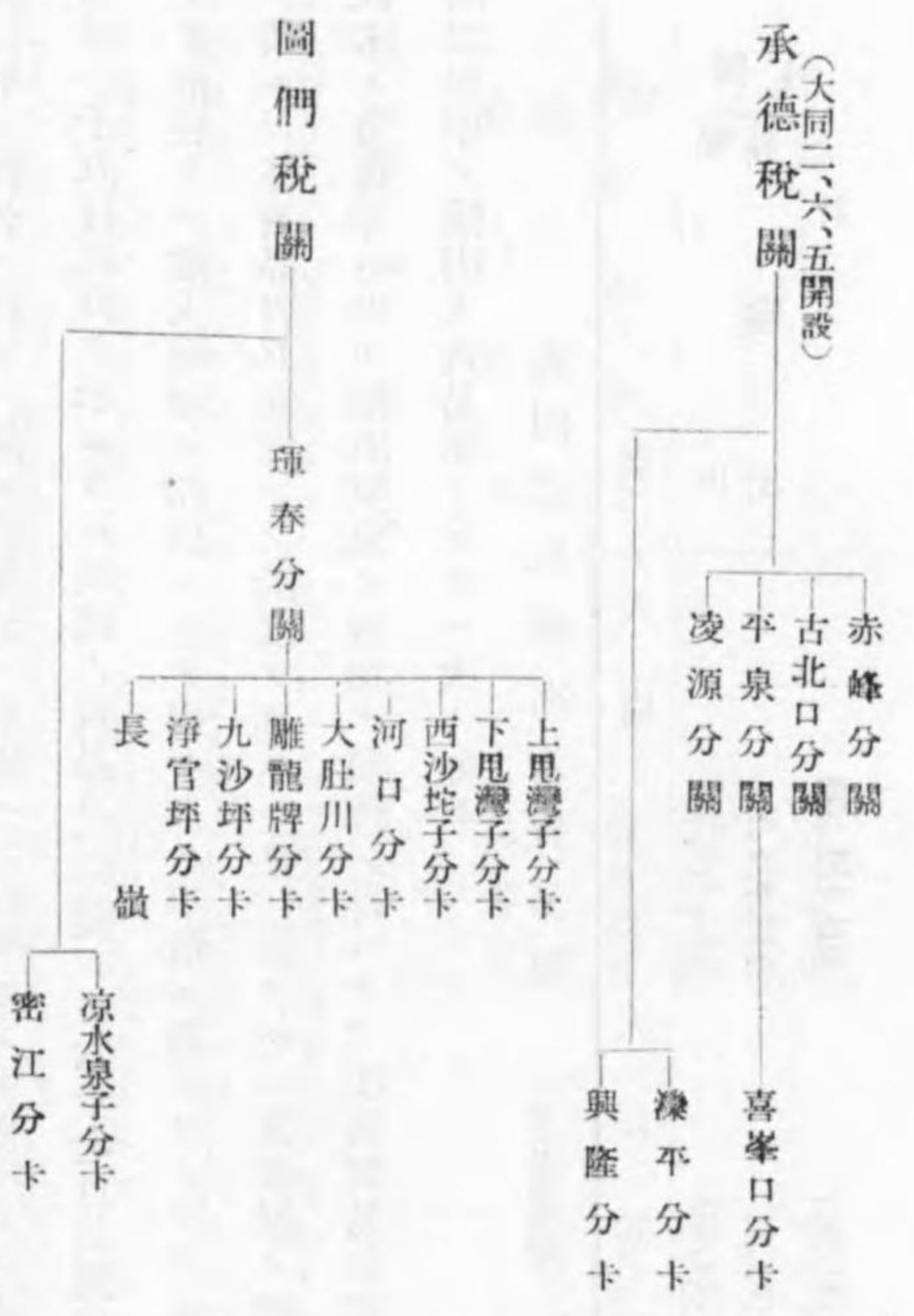
牛莊(營口)	安東	東	東
一八六四年五月	一九〇七年三月	一九〇七年七月	一九〇七年七月
一九〇七年七月	一九〇七年七月	一九〇七年七月	一九〇七年七月
一九〇七年七月	一九〇七年七月	一九〇七年七月	一九〇七年七月
一九〇七年七月	一九〇七年七月	一九〇七年七月	一九〇七年七月
一九〇八年二月	一九〇八年五月	一九〇九年七月	一九〇九年七月
一九〇八年五月	一九〇九年七月		

備考 右ノ中大東溝、安東稅關ニ屬シ、滿洲里、綏芬河及拉哈蘇々ハ哈爾濱稅關ノ管下ニ置カレタリ。尙三姓ハ元哈爾濱稅關ニ屬セシガ其ノ後廢止セラレタリ

現在稅關一覽







而シテ關稅制度ノ是非ハ、貿易ノ消長ニ關係スルハ固ヨリ國內産業ノ發達、國民生活ノ實際ニ影響スル所甚大ナルモノアルヲ以テ、速ニ之カ確立ヲ圖ラサルヘカラサルモノアリ。此故ニ財政上幾多ノ困難アルニ拘ラス幣制ノ確立ニ伴ヒ大同二年四月十六日稅關ニ於ケル舊來ノ課稅單位海關兩及金單位ヲ廢シテ國幣圓ニ改メタルカ、更ニ同年七月ニハ關稅率ノ暫定的一部改正、國境方面稅關ノ新設改廢ヲ行ヒタルヲ首メトシ、國ノ情勢ニ適合スヘキ幾多ノ改正ヲ加ヘタリ。然リト雖モ、此等ハ畢竟暫行的の改正ノ範圍ニ止マルモノニシテ、我國ノ文化産業ノ發達ト貿易ノ伸張ヲ期センカ爲ニハ須ク貿易ニ關スル諸制度其ノ他ニ根本的の改正ヲ加フヘキ要アルヲ以テ、政府ハ銳意之カ實現ヲ急キツツアリ。

大同二年概況 今大同二年ニ於ケル全國貿易ノ概況ヲ觀ルニ、輸出四億四千八百萬圓、輸入五億一千五百萬圓、合計九億

六千四百萬圓ニシテ、前年ニ比シ輸出ニ於テ約一億六千八百萬圓ノ減少ヲ見タルニ反シ、輸入ニ於テ約二億一千五百萬圓、總額ニ於テ約四千七百萬圓ヲ増加セリ。

註 課稅單位ノ改定ニ因リ大同元年トノ正確ナル對照不可能ナレトモ、便宜上大同二年四月十六日定メラレタル固定換算率海關兩一〇〇ニ付國幣圓一五六ヲ基準トシテ比較スルコトトセリ。以下前年ト比較スルトキ皆同ジ。

而シテ大同二年ニ於テ著シク輸出ヲ減少セルハ、其ノ原因種々アリト雖モ、主トシテ、特産出廻期ニ於テ農産物ノ價格下落シ、從テ其ノ出廻順調ナラサリシニ基クモノニシテ、輸入ノ激増ハ治安回復ニ伴フ經濟力ノ復活、銀高、ニ依ル購買力ノ増大、各般ノ建設事業ノ進展等ニ因ルモノトス。

大同二年ニ於ケル貿易ノ最モ顯著ナル現象ハ、從來殆ント例外ナク累年輸出超過ヲ繼續セルニ、大同元年ニ於テハ出超實ニ三億一千五百萬圓ヲ示タル我國ノ貿易力、一變シテ六千七百萬圓以上ノ輸入超過トナルニ至レルコトナリ。此現象ハ主トシテ前述セル輸入増加ノ原因トシテ掲ケタル事情ニ基クモノナルモ、今後治安ノ維持、運輸機關ノ整備、各種資源ノ開發ト共ニ、經濟界自ラ安定シテ活氣ヲ呈スヘク、加フルニ京圖線ノ開通ニ因ル北鮮貿易ノ増進、滿支國交整調ニ伴フ經濟的往來ノ復舊等ニ因ル輸出貿易ノ増加ヲ期待シ得ヘク、我國貿易將來ノ隆盛當ニ刮目シテ待ツヘキモノアリト信ス。

大同二年中ノ輸出入貿易額ヲ示セハ次ノ如シ。

大同二年輸出入貿易額 (單位國幣圓)

區別	大同二年	大同元年	比較(増減)
輸出	四三、六九、一四三	五九、七〇、九九八	△ 一七、九一、八五五
輸入	三三、六八、四六三	一、三九〇、七五二	△ 一、〇五四、〇八九
再輸出	四、四七、七六五	六、六二、二五九	△ 二、一四四、四九四
再輸入			
輸出計			
輸入計			

輸出入	合計	再輸出入	合計
輸出	四八、一六、九〇六	四三、六九、一四三	五九、七〇、九九八
輸入	三三、六八、四六三	一、三九〇、七五二	一、〇五四、〇八九
再輸出	四、四七、七六五	六、六二、二五九	二、一四四、四九四
再輸入			

註 △ 印 減

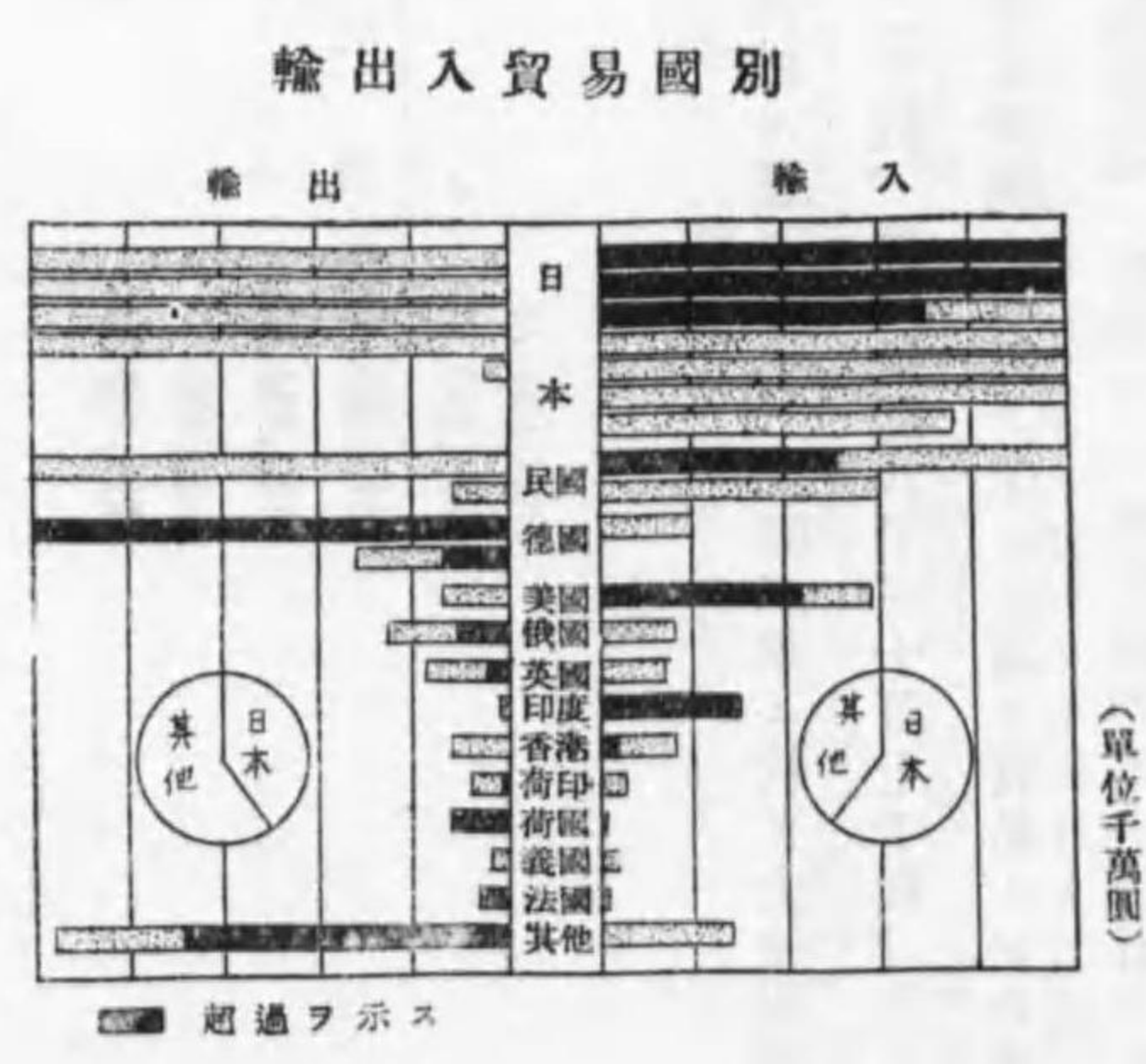
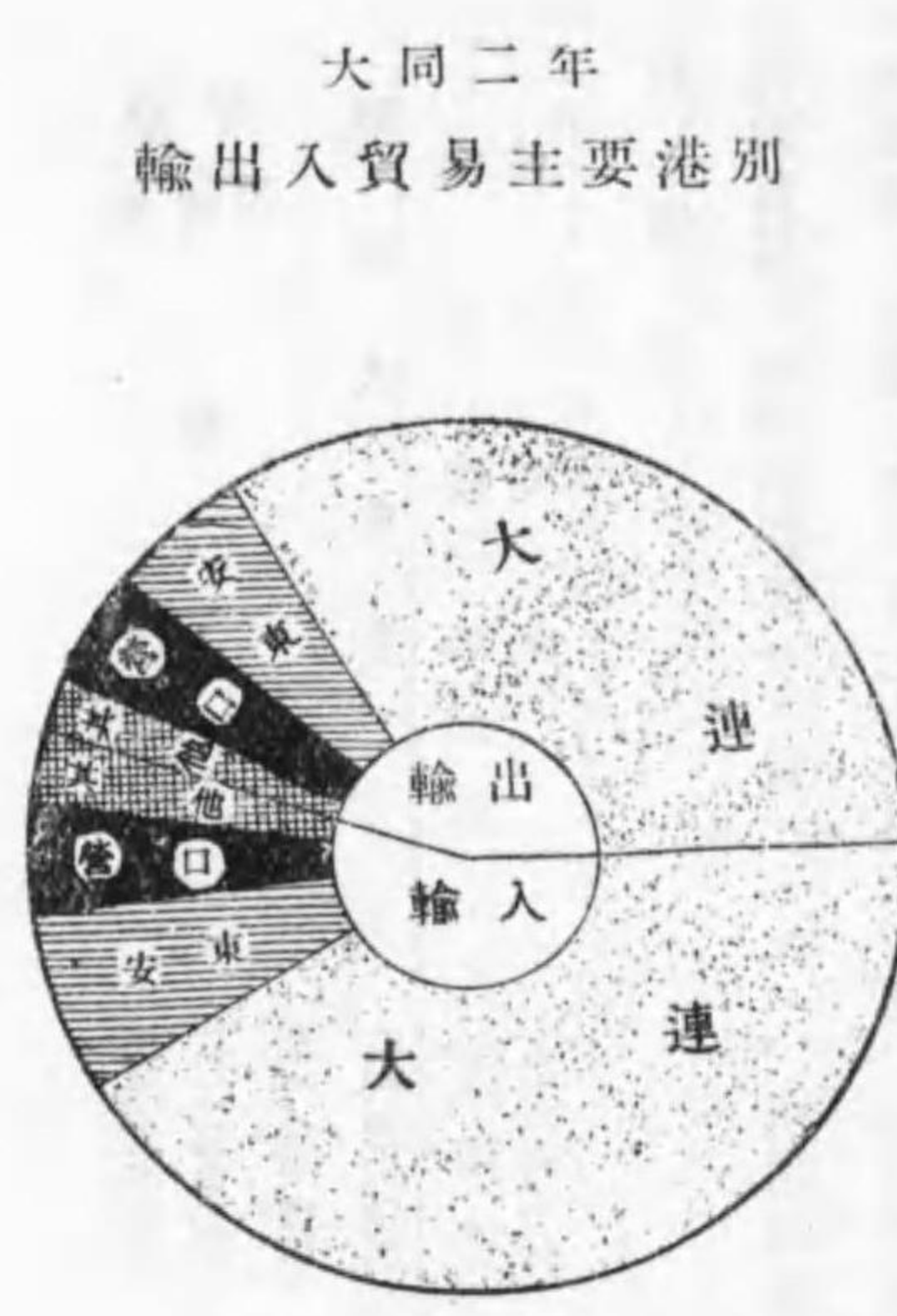
次ニ我國貿易ヲ地理的關係ヨリ見ルトキハ、所謂南滿三港ヲ擁スル南滿洲最モ盛ニシテ、大同二年ニ於テ大連稅關ノ取扱ヘル貿易額ハ七億二千六百七十七萬六千圓、安東稅關一億七百八十四萬二千圓、營口稅關八千三百萬七千圓、其ノ合計九億一千四百九十二萬五千圓ニシテ、全國貿易額ノ九六%ヲ占メ、次ハ哈爾濱稅關ノ取扱ニ係ル北滿ノ貿易ニシテ其ノ額二千二百二十萬三千圓、全國總貿易額ノ二・二%ニ當リ、以下龍井村及圖們兩稅關ノ管轄スル東部滿洲ノ一千五百九十一萬六千圓(內龍井村稅關九百六十二萬圓、圖們稅關六百二十九萬六千圓)、承德及山海關係ノ北支那ニ接スル西部地方ノ一千二百二十六萬六千圓(內山海關九百九十二萬圓、承德三百十四萬六千圓)ノ順位ナリ。

次ニ康德元年一月以降ノ狀況ヲ見ルニ、輸出入共ニ益膨脹ノ一途ヲ辿リ、既ニ六月迄ノ累計ニ於テ前年同月累計ニ比シ八・二%、六千三百八十萬圓ノ著シキ増加ヲ示スニ至レリ。

康德元年一月以降ノ輸出入貿易額ヲ示セハ次ノ如シ。

總額	輸出	輸入
一 月	八四、四四、〇九〇圓	一〇、六三三、三六五圓

月	二	三	四	五	六	七	八	九	十	計
總額	七二,七九,九二	七〇,七五,八三	七六,七六,三五	八六,七五,〇三	八五,八四,一三	八六,〇四,七〇	八二,二九,三三	九一,三六,三九	八四,四六,七三	八四〇,六八〇
輸出	三四,九〇,四九	三三,六四,一四	三七,七五,三六	三九,一九,六六	三九,三三,〇一	三六,六八,三六	三二,一七,四九	三三,九〇,四二	三五,九四,八五	三四〇,〇三〇
輸入	三六,五九,五三	三六,三六,七〇	三八,四〇,〇三	四七,五九,三三	四六,一六,七六	四九,三六,三四	五〇,一四,九〇	五七,四五,九〇	四八,五一,八八	四九〇,六五〇
再輸出	三六,五九,五三	三六,三六,七〇	三八,四〇,〇三	四七,五九,三三	四六,一六,七六	四九,三六,三四	五〇,一四,九〇	五七,四五,九〇	四八,五一,八八	四九〇,六五〇
再輸入	三六,五九,五三	三六,三六,七〇	三八,四〇,〇三	四七,五九,三三	四六,一六,七六	四九,三六,三四	五〇,一四,九〇	五七,四五,九〇	四八,五一,八八	四九〇,六五〇



第二節 國別貿易

大同二年ノ貿易ヲ相手國別ニ見ルニ、日本首位ヲ占メ、中華民國之ニ亞キ、以下獨逸、北米合衆國、蘇聯、英吉利、英領印度等ノ順序ナリ。

即チ大同二年我國貿易ノ内日本ハ輸出入共第一位ニシテ、其ノ割合ハ輸出ニ於テ四八%、輸入ニ於テ六五・九%、總額ニ於テ五七・八%ヲ占メ、第二位タル中華民國ノ輸出一三%、輸入一五・五%、總額一四・四%ニ比シ遙カニ懸絶シ、我國貿易ニ於ケル日本ノ支配的勢力ヲ知ルヘシ。獨逸ハ我國特産物殊ニ大豆ノ重要仕向國ニシテ、輸出ニ於テ一五・七%ヲ占メ、中華民國ヲ凌駕シテ第二位ニ位スルモ、輸入ハ僅少ニシテ總額ニ於テ八・二%第三位ナリ、北米合衆國、蘇聯、英吉利、英領印度等之ニ續クモ、日本、中華民國及獨逸ニ比シテハ極メテ少額ナリ。

前年對比 今之ヲ前年ト對比スルニ、大同二年ニ於ケル特ニ顯著ナル傾向ハ滿日關係ノ強化ニ依ル滿日貿易ノ増進及對中華民國貿易ノ減退ナリ。即チ大同元年ニ於テ總輸出入額中日本ヨリノ輸入品ノ占メタル割合ハ五八・二%ナリシカ、大同二年ニハ六五・九%ニ増加シタルニ反シ、中華民國ヨリノ輸入額ハ一八・三%ヨリ一五・五%ニ減シ、又日本ヘノ輸出額ハ大同元年ノ三八・一%ヨリ四八%ニ著シク増加シタルニ反シ、中華民國ヘノ輸出額ハ二八・三%ヨリ一三%ニ激減シ、一ハ極メテ顯著ナル躍進ヲ、他ハ極メテ顯著ナル減退ノ跡ヲ示セリ。右對日本貿易ノ躍進及對中華民國貿易ノ凋落ハ、其ノ原因種々アリト雖モ、主トシテ滿洲建國ニ因ル滿日經濟關係ノ強化、中華民國ヲ外國ト認ムル課稅制度ノ改正竝ニ中華民國海關ニ於ケル不當課稅等ニ基因スルモノナリト謂フコトヲ得ヘシ。

國中最高位ヲ占ム。我國總貿易額ニ對スル割合ハ輸出四八・〇％、輸入六五・九％、合計五七・八％ナリ。而シテ輸出入品ニ就キテ之ヲ觀ルニ次ノ如シ。

品別	輸出		輸入	
	日本内地	朝鮮	日本内地	朝鮮
大豆	三三、五九八	三、六八二	五七、九二五	五八四
石炭	三九、〇五九	一、八八九	三三、五七一	一、二九九
粟	二九、六六二	五、一五九	三〇、七八三	一、〇〇六
鉄	六八七	一三、四六六	一七、六〇九	五五七
生絲	九、七四五	一一七	七、五九九	三九一
落花生	九、三五七	二〇	三、五五七	二六六
高麗	五、一〇	一	一〇、一七三	三、七九三
綿	三、二三七	一六六	四、八六七	二八
胡麻	五、四四三	四六〇	六、二九七	二九七
鹽	二、七四三	一、二九三	四、一二四	三、六八二
玉蜀黍	二、八一八	五四二	七、六四七	二六七
大蘇子	一、二二三	六八七	一、一〇五	九四
蘇子	四四六	八	六八五	六〇
木蘇子	二、九七五	八	四、二六二	四三
硫酸	六二	一五〇	五、七九一	五五
アンモニア	一、〇〇〇	〇	九四八	一〇一
シエール	一、二九四	〇	六二九	一、七三八
オイル	九六三	〇	五四六	四
紙	二、二五	三〇	一四〇	二
紙卷	二、一九九	〇	〇	〇
皮	〇	〇	〇	〇

中華民國 中華民國ハ日本ニ亞キ總貿易額一億三千五百八萬圓、輸出五千五百二十六萬圓、輸入七千九百八十二萬圓ニシテ、各國中第二ニ位ス。今之ヲ輸出入主要品ニ就キテ示セハ次ノ如シ。

品別	輸出		輸入	
	日本内地	朝鮮	日本内地	朝鮮
大豆	七、八〇七	〇	一〇、〇九一	〇
石炭	一一、九七六	〇	一八、〇二四	〇
粟	七、三三二	〇	三四〇	〇
鉄	一〇、五一九	〇	一一、九三八	〇
生絲	四九八	〇	三九五	〇
落花生	四七六	〇	九一二	〇
高麗	一八八	〇	二、九六〇	〇
胡麻	三、八一二	〇	五五一	〇
鹽	五四	〇	二、一九九	〇
玉蜀黍	一、四〇九	〇	三、七三一	〇
蘇子	一、四〇九	〇	九九	〇
木蘇子	二、二二六	〇	一五七	〇
蘇子	七八一	〇	六四八	〇
人參	七八一	〇	二、六八一	〇
皮	二四〇	〇	七四一	〇

蘇聯 トノ總貿易額ハ二千四十九萬圓ニシテ我國總貿易額ノ二・二％ニ當リ、内輸出一千二百九十二萬圓、輸入七百五十七萬圓ナリ。輸出品中ノ主ナルモノハ大豆ノ一千八百八十三萬圓、豆粕六十四萬圓等ニシテ輸入主要品ハ燈油百四十八萬圓、木材九十二萬圓、揮發油八十三萬圓、綿織物五十七萬圓等ナリ。

仕出地	葉煙草	揮發油	絹織物	毛織物	燈油	米及穀	茶	紙卷煙草
日本	九,四三,八〇〇	九,九〇〇,四〇〇	八,三六,四〇〇	七,三三,四〇〇	七,三三,四〇〇	四,〇〇,九〇〇	三,三三,四〇〇	一,七三,七〇〇
朝鮮	一,〇五,四九五	六四,八五三	四,三二,〇六八	五,七九,三三〇	九四八,三六〇	六二八,八〇〇	五,四〇,九五〇	一,〇〇,〇〇〇
中國	九四,一〇〇	五九,六九九	四,四三,四五五	五,五〇,五六八	一〇〇,六三五	一,七三,七六六	四,〇〇,三三〇	二,〇〇,〇〇〇
蘇聯	二,一九六,七〇〇	三六〇,〇〇〇	三,七〇〇,八〇〇	九,八,五三三	一五六,五九九	六四七,八七四	二,六二,一六六	七四,一五二
香港	三三,四三三	八三,一〇六	五三三	四,九七四	一四,八三二	五四,五八八	二,六二,一六六	七三,三九九
英領印度	八,〇〇〇	一,五八,六九九	四四八	九六〇	三七,六四九	二五,五九五	七七,六〇〇	一八,一〇〇
英領北婆羅洲		一,四五六,三六六			一九,一〇〇	五三,四七六		
暹羅								
英領西貢	三七,三六五			三,七三三				五三三,九四一
佛領西貢				一,九三六				
佛領印度支那				一,五,七四六				
暹羅				三,七三三				
比領西貢				一,一八二				
白蘭地				一,五,七四六				
獨逸				一,〇三,八二四				
波蘭				一,一八二				
瑞典				一,〇三,八二四				
伊太利				一,五,六四〇				

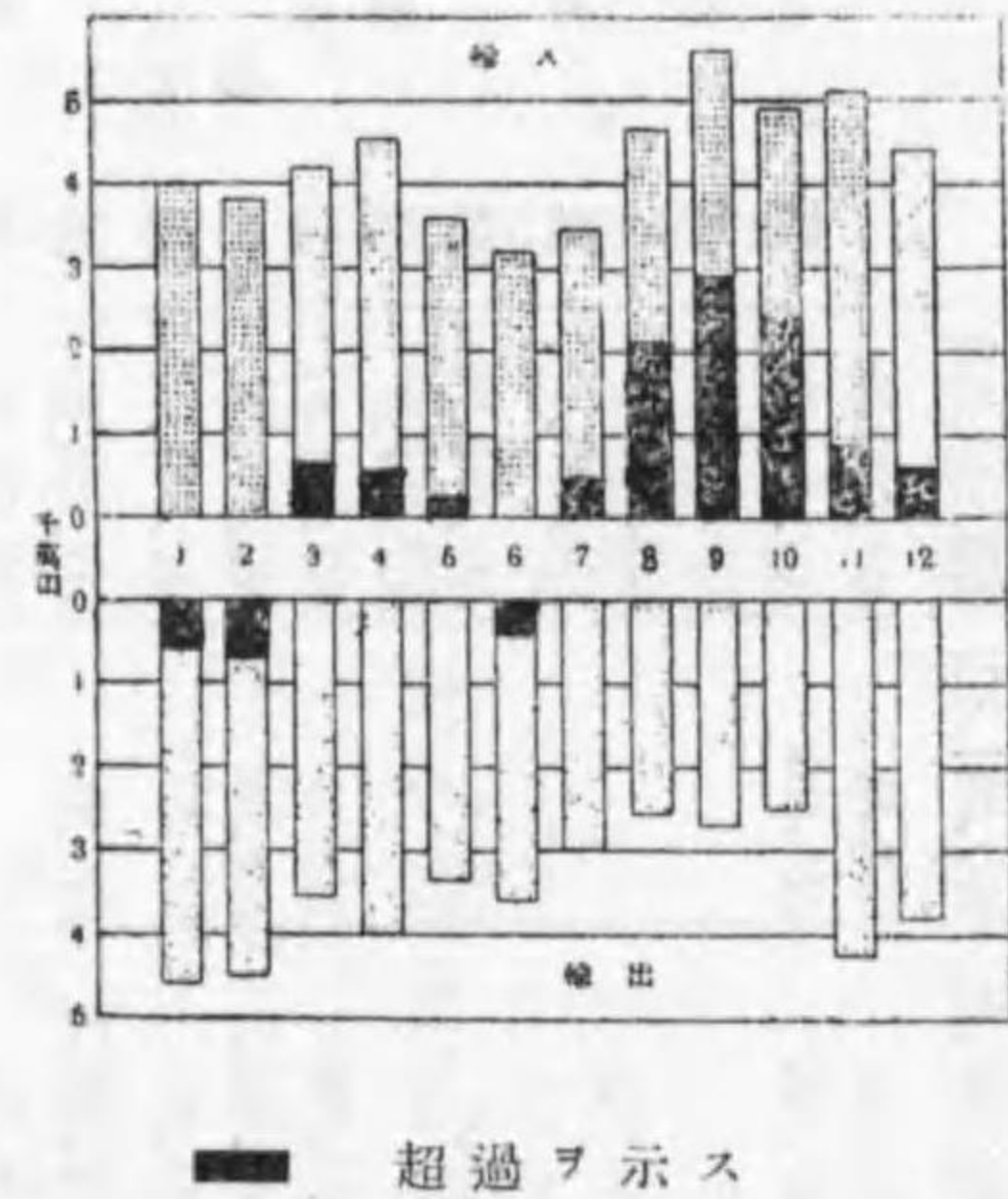
仕出地	葉煙草	揮發油	絹織物	毛織物	燈油	米及穀	茶	紙卷煙草
瑞西	六〇,七二,八〇〇	四,四七,五五六	二,九〇五	一,三六,九三五	四,三九,一五			四三,八〇〇
北米								
加奈								
埃及	八六七	四,六八〇						
澳洲								
其他								

更ニ之ヲ取扱稅關簡所別ニ觀レハ左ノ如シ。

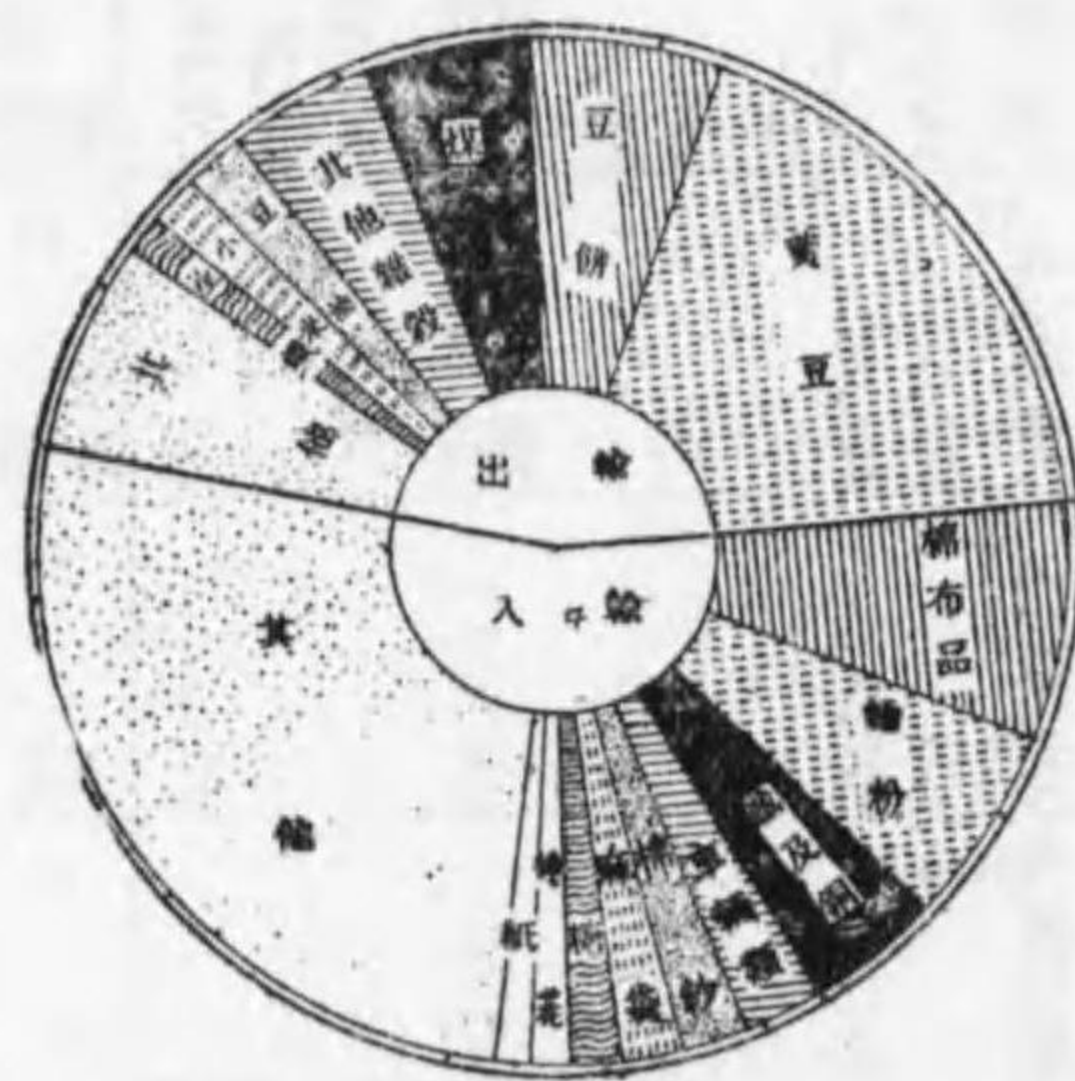
一、國別輸出額 (單位國幣圓)

國別	大連	安東	營口	山海關	哈爾濱	龍井村	圖們	承德	計
日本	一,四三,五八六	一,二八,八八〇	一,七,五〇〇,九三三	一,二,八〇,七〇〇	五,一〇〇	二,〇〇,〇〇〇	三,八,三九五	一,七三,九〇〇	一,七三,九〇〇
朝鮮	二,一六,一七三	三,三〇,四四九	七,七三,〇〇七	三,九四,六六三	二,五九五	二,三三,三四七	二,九	三,〇,三六〇	三,〇,三六〇
中國	一九,〇三,三五五	九,七六六,三五五	二,一八〇,七三三	三,九四,六六三	二,五九五	二,三三,三四七	二,九	五,三,七五二	五,三,七五二
蘇聯	三,四,九七三	二,一八〇,七三三	一,五,六〇〇	二,一八,八二四	三三	二,三三,三四七	二,九	二,九,七六九	二,九,七六九
香港	四,四九四,〇六五	一,七,九,五八五	一,七,九,五八五	一,七,九,五八五	三三	二,三三,三四七	二,九	六,二,三,六八二	六,二,三,六八二
英領印度	一,〇〇,〇〇〇	一,七,九,五八五	一,七,九,五八五	一,七,九,五八五	三三	二,三三,三四七	二,九	一,〇〇,〇〇〇	一,〇〇,〇〇〇
英領北婆羅洲	四,〇四,四六五	一,七,九,五八五	一,七,九,五八五	一,七,九,五八五	三三	二,三三,三四七	二,九	四,〇四,四六五	四,〇四,四六五
暹羅	八,七三,一五六	六二,五三六	六二,五三六	六二,五三六	四七	一,二,六	四七	八,七三,一五六	八,七三,一五六
佛領西貢	二,五四,九六六	五,五二〇	五,五二〇	五,五二〇	一,五,一三三	一,二,六	一,五,一三三	二,五四,九六六	二,五四,九六六
獨逸	六,六,三六,五三三	二,六〇,六二七	二,六〇,六二七	二,六〇,六二七	一,四	一,四	一,四	六,六,三六,五三三	六,六,三六,五三三
白蘭地	二,六〇,六二七	二,六〇,六二七	二,六〇,六二七	二,六〇,六二七	一,四	一,四	一,四	二,六〇,六二七	二,六〇,六二七

大同二年貿易額月別



輸出入貿易主要品名別



第三節 主要輸出入品

一 輸 出 品

大同二年ニ於ケル主要輸出品ニ就テ見ルニ、別表ノ如ク第一位ヲ占ムルモノハ大豆ニシテ、之ニ次クモノハ豆粕、石炭、豆油、粟、銑鐵、柞蠶絲、落花生ナリ。而シテ之ヲ前年ニ對比スレハ、大體何レモ其ノ數量價額ヲ減少シ、特ニ大豆、豆粕、豆油、粟等ノ減少著シキハ、特産出廻期ニ於テ其ノ價格下落シ、從テ出廻良好ナラサリシニ基因スルモノナリ。

今主要品目ニ就キ之ヲ摘記スレハ次ノ如シ

大豆 大同二年中ニ輸出セラレタル大豆ハ三千九百一十一萬擔、其ノ價額一億六千九百萬圓ニシテ、前年ニ比シ著シキ減少ヲ示セルモ、輸出品總價額中ニ占ムル割合ハ前年ノ三六・四%ヨリ三九・九%ニ却テ増加シ、之ニ大豆ヲ原料トスル豆粕及豆油ヲ加フルトキハ其ノ價額二億四千五百八萬圓ニ上リ輸出品總額ノ五七・九%ヲ占メ、大豆及其ノ製品カ我國經濟ノ原動力タルノ實情ヲ如實ニ示セリ。而シテ其ノ主ナル仕向國ハ日本、獨逸、蘇聯、中華民國、英吉利、蘭領印度、和蘭等ナリ。

豆粕 大同二年ノ輸出數量一千七百七十八萬擔、價額五千七百六十一萬圓ニシテ、數量價額共前年ニ比シ殆ト半減シ、輸出總額中ニ占ムル割合亦前年ノ一六・八%ヨリ一三・六%ニ低下シタリ。其ノ仕向國ハ日本半以上ヲ占メ、中華民國、北米合衆國、蘇聯、獨逸、和蘭、伊太利、英吉利等之ニ次ク主要ナルモノナリ。

石炭 大同二年ノ輸出數量四百五十三萬噸、價額四千七百二十萬圓ニシテ、前年ニ比シ價額ニ於テ多少減少シタルモ、數量ニ於テ約三〇%ノ増加ヲ示シ、全輸出額ニ對スル比率モ八・三〇%ヨリ一一・一%ニ増加シタリ。仕向國ハ日本及中華民國其ノ大部分ヲ占メ、其ノ他ハ香港、比律賓、英領海峽植民地、英吉利、和蘭等ニ若干ノ輸出ヲ見ルニ過キス。

粟 大同二年ノ輸出數量二百八十萬擔、價額、一千四百七十四萬圓ニシテ輸出總價額ノ三・五%ヲ占ム。前年ニ比シ數量價額及比率何レモ多少ノ減少ヲ示セリ。其ノ大部分ハ安東經由朝鮮仕向ニシテ、日本内地及中華民國之ニ踵キ、其ノ他ハ北米合衆國、獨逸、和蘭、英吉利等ニ少量ノ輸出ヲ見タルノミ。

銑鐵 大同二年ノ輸出數量八百十二萬擔、價額一千四百四萬圓ニシテ全輸出額中二・五%ヲ占ム。前年ニ比シ數量ニ於テ約二百萬擔ヲ増加シタルモ價額ニ於テ約五百萬圓ノ減少ヲ示セリ。其ノ八〇%以上ハ日本向ナリ。

今大同二年ニ於ケル主要輸出品ヲ示セハ次ノ如シ。

主要輸出品 (價額單位 國幣圓)

(大同二年)

品別	數量單位	數量	價	額	全輸出對二 對スル比率
大豆	擔	三九,一五一,五四九	一六九,〇九五,四八八	三九,九	三九%
石豆	噸	一七,七八八,四三九	五七,六一四,三三三	一三,六	一三,六
豆油	擔	四,五三七,七六九	四七,二〇一,七一〇	一一,一	一一,一
鐵	噸	一,三四二,二六六	一八,四七二,六〇九	四,三	四,三
生絲	斤	二,八〇三,八八二	一四,七四五,六九九	三,五	三,五
落花生	斤	八,一二四,九〇五	一〇,四四六,五四三	二,五	二,五
高麗	斤	二,六四七,二二二	九,五六五,二七八	二,三	二,三
胡麻	斤	九一七,八三七	八,八二六,三五〇	二,一	二,一
芝麻	斤	二,五六五,八六七	七,二一五,三八九	一,七	一,七
大玉	斤	九三,二四八	六,九九九,四六七	一,六	一,六
蘇木	斤	三四三,五六九	四,六六四,一七六	一,一	一,一
材	斤	三,九〇四,九一〇	三,五八二,三一五	〇,八	〇,八
豚毛	斤	一,一八〇,二四八	三,三一九,四九〇	〇,八	〇,八
毛	斤	五四二,六〇一	三,〇五二,六六六	〇,七	〇,七
酸	斤	四三九,八七〇	三,〇五一,三二二	〇,七	〇,七
紙	斤	二六,六九三	二,八五〇,一〇七	〇,七	〇,七
人參	斤	二,一八〇,〇〇三	一,三八〇,四五五	〇,三	〇,三
シエール	噸	五〇,四二二	一,二九五,七一八	〇,三	〇,三
皮	斤	三,四一八,二八八	一,一八九,八一	〇,三	〇,三
羊	斤	二八二,六九二	一,一七〇,四六四	〇,三	〇,三
蠟	斤	二四〇,三三四	九六二,六四七	〇,二	〇,二
草	斤	二,一八三	三七六,五九〇	〇,一	〇,一
同	同	同	二一八,一〇二	〇,一	〇,一

品目	數量單位	大同二年	大同元年	比較 (△印減)
大豆	擔	三九,一五一,五四九	三三,三六八	△
石豆	噸	一七,七八八,四三九	一〇,〇〇〇	△
豆油	擔	四,五三七,七六九	五,七〇〇	△
鐵	噸	一,三四二,二六六	七,七三三	△
生絲	斤	二,八〇三,八八二	七,八二二	△
落花生	斤	八,一二四,九〇五	一〇,〇〇〇	△
高麗	斤	二,六四七,二二二	三,五〇〇	△
胡麻	斤	九一七,八三七	一,〇〇〇	△
芝麻	斤	二,五六五,八六七	一,〇〇〇	△
大玉	斤	九三,二四八	一,〇〇〇	△
蘇木	斤	三四三,五六九	一,〇〇〇	△
材	斤	三,九〇四,九一〇	一,〇〇〇	△
豚毛	斤	一,一八〇,二四八	一,〇〇〇	△
毛	斤	五四二,六〇一	一,〇〇〇	△
酸	斤	四三九,八七〇	一,〇〇〇	△
紙	斤	二六,六九三	一,〇〇〇	△
人參	斤	二,一八〇,〇〇三	一,〇〇〇	△
シエール	噸	五〇,四二二	一,〇〇〇	△
皮	斤	三,四一八,二八八	一,〇〇〇	△
羊	斤	二八二,六九二	一,〇〇〇	△
蠟	斤	二四〇,三三四	一,〇〇〇	△
草	斤	二,一八三	一,〇〇〇	△
同	同	同	一,〇〇〇	△

主要輸出品前年對比 (價額單位 國幣圓)

品目	數量單位	大同二年	大同元年	比較 (△印減)
大豆	擔	三九,一五一,五四九	三三,三六八	△
石豆	噸	一七,七八八,四三九	一〇,〇〇〇	△
豆油	擔	四,五三七,七六九	五,七〇〇	△
鐵	噸	一,三四二,二六六	七,七三三	△
生絲	斤	二,八〇三,八八二	七,八二二	△
落花生	斤	八,一二四,九〇五	一〇,〇〇〇	△
高麗	斤	二,六四七,二二二	三,五〇〇	△
胡麻	斤	九一七,八三七	一,〇〇〇	△
芝麻	斤	二,五六五,八六七	一,〇〇〇	△
大玉	斤	九三,二四八	一,〇〇〇	△
蘇木	斤	三四三,五六九	一,〇〇〇	△
材	斤	三,九〇四,九一〇	一,〇〇〇	△
豚毛	斤	一,一八〇,二四八	一,〇〇〇	△
毛	斤	五四二,六〇一	一,〇〇〇	△
酸	斤	四三九,八七〇	一,〇〇〇	△
紙	斤	二六,六九三	一,〇〇〇	△
人參	斤	二,一八〇,〇〇三	一,〇〇〇	△
シエール	噸	五〇,四二二	一,〇〇〇	△
皮	斤	三,四一八,二八八	一,〇〇〇	△
羊	斤	二八二,六九二	一,〇〇〇	△
蠟	斤	二四〇,三三四	一,〇〇〇	△
草	斤	二,一八三	一,〇〇〇	△
同	同	同	一,〇〇〇	△

第五編 商業、金融 第三章 貿易

品目	主要輸出品價額國別 (單位 國幣千圓)									
	日本	朝鮮	中華民國	蘇聯	香港	英領印度	蘭領印度	英吉利	其他	計
大豆	三,九八六	三,六二二	七,八〇六	二,一七三	一,六九二	一,一〇〇	三,六五四	五,九六二	三九,一三一	五九,六二二
高粱	七,七五四	四,三三三	三,七二七	一,一〇〇	一,六九二	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇
其他	六,六六六	一,三六五	四,九六九	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一,一〇〇
玉蜀黍	三,三三三	一,六六六	三,八二二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一,一〇〇
其他穀	一,二二二	六六六	一,四八八	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一,一〇〇
落花生	五〇九	九三	三九三	〇	九〇五	〇	〇	〇	〇	一,一〇〇
其他	二,七四三	一,一九三	五四	〇	四	〇	〇	〇	〇	一,一〇〇
大麻	四四六	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一,一〇〇
蘇麻子	二,九七四	八	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一,一〇〇
大麻子	二,八二八	一	一,五七	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一,一〇〇
紙煙	二,二四	一	三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一,一〇〇
紙草	二,二四	一	三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一,一〇〇
豚草	二,二四	一	三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一,一〇〇
皮草	一,〇三五	一〇	一〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一,一〇〇
豆油	一,三九三	〇	一〇,五七二	〇	一〇	〇	〇	〇	〇	一,一〇〇
頁油	九六三	〇	一,八二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一,一〇〇
粗岩	〇	〇	一,八二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一,一〇〇
人參	九六三	〇	一,八二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一,一〇〇
安	九六三	〇	一,八二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一,一〇〇

主要輸出品價額國別 (單位 國幣千圓)

備考 單位以下切捨タルニヨリ計ト符合セス

品目	主要輸出品價額國別 (單位 國幣千圓)									
	佛蘭西	獨逸	白耳義	和蘭	伊太利	北米合衆國	其他	計		
大豆	〇	一,一〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	一,一〇〇		
高粱	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
其他	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
玉蜀黍	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
其他穀	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
落花生	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
其他	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
大麻	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
蘇麻子	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
大麻子	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
紙煙	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
紙草	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
豚草	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
皮草	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
豆油	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
頁油	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
粗岩	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
人參	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
安	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		

大同二年中輸入品ノ首位ヲ占ムルモノハ綿織物ニシテ、之ニ次クハ小麥粉、鐵及鋼、車輛類ノ綿織絲、麻袋、砂糖、棉

第五編 産業、金融 第三章 貿易

七三

二 輸 入 品

備考 單位以下切捨タルニヨリ合計符合セズ

品目	佛蘭西	獨逸	白耳義	和蘭	伊太利	北米合衆國	其他	計
鹽								三、六三
紙								三、三八
豚皮								二、九七
毛皮								二、八八
豆								二、四〇
頁								一、八〇
粗								一、七〇
人								一、六〇
硫								一、五〇
作								一、四〇
綿								一、三〇
緬								一、二〇
石								一、一〇
洋								一、〇〇
鐵								九、九〇
木								九、八〇
豆								九、七〇
卷								九、六〇
煙								九、五〇
岩								九、四〇
蠶								九、三〇
油								九、二〇
油								九、一〇
皮								九、〇〇
草								八、九〇
毛								八、八〇
草								八、七〇
草								八、六〇
草								八、五〇
草								八、四〇
草								八、三〇
草								八、二〇
草								八、一〇
草								八、〇〇
草								七、九〇
草								七、八〇
草								七、七〇
草								七、六〇
草								七、五〇
草								七、四〇
草								七、三〇
草								七、二〇
草								七、一〇
草								七、〇〇
草								六、九〇
草								六、八〇
草								六、七〇
草								六、六〇
草								六、五〇
草								六、四〇
草								六、三〇
草								六、二〇
草								六、一〇
草								六、〇〇
草								五、九〇
草								五、八〇
草								五、七〇
草								五、六〇
草								五、五〇
草								五、四〇
草								五、三〇
草								五、二〇
草								五、一〇
草								五、〇〇
草								四、九〇
草								四、八〇
草								四、七〇
草								四、六〇
草								四、五〇
草								四、四〇
草								四、三〇
草								四、二〇
草								四、一〇
草								四、〇〇
草								三、九〇
草								三、八〇
草								三、七〇
草								三、六〇
草								三、五〇
草								三、四〇
草								三、三〇
草								三、二〇
草								三、一〇
草								三、〇〇
草								二、九〇
草								二、八〇
草								二、七〇
草								二、六〇
草								二、五〇
草								二、四〇
草								二、三〇
草								二、二〇
草								二、一〇
草								二、〇〇
草								一、九〇
草								一、八〇
草								一、七〇
草								一、六〇
草								一、五〇
草								一、四〇
草								一、三〇
草								一、二〇
草								一、一〇
草								一、〇〇
草								九、九〇
草								九、八〇
草								九、七〇
草								九、六〇
草								九、五〇
草								九、四〇
草								九、三〇
草								九、二〇
草								九、一〇
草								九、〇〇
草								八、九〇
草								八、八〇
草								八、七〇
草								八、六〇
草								八、五〇
草								八、四〇
草								八、三〇
草								八、二〇
草								八、一〇
草								八、〇〇
草								七、九〇
草								七、八〇
草								七、七〇
草								七、六〇
草								七、五〇
草								七、四〇
草								七、三〇
草								七、二〇
草								七、一〇
草								七、〇〇
草								六、九〇
草								六、八〇
草								六、七〇
草								六、六〇
草								六、五〇
草								六、四〇
草								六、三〇
草								六、二〇
草								六、一〇
草								六、〇〇
草								五、九〇
草								五、八〇
草								五、七〇
草								五、六〇
草								五、五〇
草								五、四〇
草								五、三〇
草								五、二〇
草								五、一〇
草								五、〇〇
草								四、九〇
草								四、八〇
草								四、七〇
草								四、六〇
草								四、五〇
草								四、四〇
草								四、三〇
草								四、二〇
草								四、一〇
草								四、〇〇
草								三、九〇
草								三、八〇
草								三、七〇
草								三、六〇
草								三、五〇
草								三、四〇
草								三、三〇
草								三、二〇
草								三、一〇
草								三、〇〇
草								二、九〇
草								二、八〇
草								二、七〇
草								二、六〇
草								二、五〇
草								二、四〇
草								二、三〇
草								二、二〇
草								二、一〇
草								二、〇〇
草								一、九〇
草								一、八〇
草								一、七〇
草								一、六〇
草								一、五〇
草								一、四〇
草								一、三〇
草								一、二〇
草								一、一〇
草								一、〇〇
草								九、九〇
草								九、八〇
草								九、七〇
草								九、六〇
草								九、五〇
草								

花、紙、木材、機械及工具等ナリ。前年ニ比シテ何レモ大體ニ於テ其ノ數量價額ヲ増加シタルハ、滿洲事變ニ基キ前年一時的沈衰ノ狀態ヲ示セル經濟界カ治安ノ回復ト共ニ徐々安定ノ狀態ニ歸復シツツアルヲ示スモノナリ。而シテ大同二年ニ於ケル特ニ顯著ナル現象ハ鐵及鋼、車輛類、木材、機械及工具等ノ建設材料カ經濟工作ノ發展ニ伴ヒ著シキ増加ヲ來セルコトナリ。

今主要品目ヲ摘記シ其ノ概況ヲ述フレハ次ノ如シ。

綿織物 本品ハ輸入品中最モ重要ナルモノニシテ、輸入額六千九百三十萬圓ニ上リ、輸入總額ノ一三・四％ニ達シ、前年ニ比シテ約二千萬圓ノ激増ヲ示セリ。而シテ其ノ大部分ハ日本ヨリ輸入セラルルモノナリ。

小麥粉 輸入數量八百三十六萬擔、價額五千八百六十七萬圓ニシテ、輸入總額ノ一一・四％ヲ占メ、之ヲ前年ニ比スルニ數量ニ於テ約五百萬擔、價額ニ於テ約二千萬圓ノ飛躍的增加ヲ示セリ、其ノ主要仕出國ハ日本、中華民國、北米合衆國、加奈陀ナリ。

鐵及鋼 輸入額三千九百九十萬圓ニシテ、前年ニ比シテ約倍加シ、全輸入額ニ對スル割合亦六・六％ヨリ七・八％ニ増加セリ。其ノ仕出國ハ日本大部分ヲ占メ、他ニ獨逸、北米合衆國、白耳義、英吉利等ヨリ少量ノ輸入ヲ見タリ。

車輛類 國內交通機關ノ整備擴充ニ伴ヒ其ノ輸入量著シク増加シ、大同元年ノ五百二十五萬圓ニ比シ其ノ四倍強ニ達シ、二千二百六十九萬圓ノ數ヲ示セリ。輸入總額ニ對スル割合亦一・六％ヨリ四・四％トナリ、輸入價額ノ順位ハ綿織絲、麻袋、砂糖等ヲ凌駕シ、前年ノ第十二位ヨリ一躍シテ第四位ニ達セリ。其ノ主ナル仕出國ハ日本、北米合衆國、獨逸、白耳義等ナリ。

綿織絲 本品ハ其ノ殆ント全部中華民國及日本ヨリ輸入セラルルモノニシテ、輸入數量二十八萬擔、價額二千萬圓、前

年ニ比シ數量、價額何レモ略倍加シタリ。而シテ輸入總額ニ對スル割合ハ四・二％ヲ占ム。

麻袋 大豆其ノ他農産物包装用トシテ麻袋ノ需要著シク、輸入數量八十二萬擔、價額一千六百九十萬圓ニ達ス。前年ニ比シ多少ノ減少ヲ示スモ尙全輸入額ノ三・一％ヲ占ムル狀態ナリ。主ナル仕出地ハ英領印度、日本、香港、中華民國、蘭領印度等ナリ。

砂糖 輸入數量二百萬擔、價額一千六百萬圓ニシテ、前年ニ比シ多少増加シタルモ、全輸入額ニ對スル割合ハ前年四五％ヨリ三・一％ニ低下シタリ。仕出國ハ日本其ノ大部分ヲ占メ香港、蘭領印度、英吉利等之ニ次ク。

棉花 輸入數量二十三萬擔、價額一千一百萬圓ニシテ、前年ニ比シ稍減少ヲ示シ、輸入總額ニ對スル比率亦五・〇％ヨリ二・一％ニ低下シタリ。主要仕出國ハ日本、英領印度、北米合衆國、中華民國等ナリ。

紙 主トシテ日本及中華民國ヨリ輸入セラレ、輸入額ハ一千萬圓ナリ。

木材 輸入額九百六十三萬圓ニシテ、輸入總額ノ一・九％ヲ占メ、前年ノ百七十萬圓ニ比シ著シキ増加ヲ示セリ。主要仕出國ハ日本、蘇聯、北米合衆國、中華民國等ナリ。

機械及工具 輸入額九百五十萬圓ニシテ、前年ニ比シ約四百萬圓ノ増加ヲ示セリ。輸入總額中一・八％ヲ占ム。主要仕出國ハ日本、中華民國、獨逸ナリ。

大同二年ニ於ケル主要輸入品ヲ觀ルニ次ノ如シ。

主要輸入品 (價額單位 國幣圓)
(大同二年)

品目	數量單位	數	量	價	額	對全輸入比額率%
小綿織物	擔	八、三六九	八七九	六九、三〇四	七五五	一三・四
鐵鋼類	擔	二八七	九〇五	五八、六七八	九四六	一一・四
綿絲類	擔	二二〇	二八三	三九、九九六	七三四	七・八
砂糖	擔	二二〇	一、二二四	二二、六九八	七八四	四・四
棉花	擔	二、〇〇一	二、二八三	二〇、九二七	二五七	四・一
紙材	擔	二、〇〇一	二、二八三	一六、九九一	七七二	三・一
木及工	擔	二、〇〇一	二、二八三	一六、〇二八	七六八	三・一
揮發油	擔	二、〇〇一	二、二八三	一一、〇四六	〇二八	二・一
葉草	擔	二、〇〇一	二、二八三	一〇、〇一二	六七七	一・九
煙草	擔	二、〇〇一	二、二八三	九、六三七	六四三	一・九
米	擔	二、〇〇一	二、二八三	九、五四三	六一一	一・八
燈油	擔	二、〇〇一	二、二八三	九、五〇二	八五四	一・八
毛織物	擔	二、〇〇一	二、二八三	九、〇〇九	四二八	一・七
絹織物	擔	二、〇〇一	二、二八三	八、一二八	〇〇七	一・五
茶	擔	二、〇〇一	二、二八三	七、八三一	四四一	一・五
紙卷	擔	二、〇〇一	二、二八三	七、五八二	四七八	一・五
米	擔	二、〇〇一	二、二八三	四、〇七九	八一九	〇・八
燈油	擔	二、〇〇一	二、二八三	三、三一二	四〇四	〇・六
紙卷	擔	二、〇〇一	二、二八三	一、七三三	七二八	〇・三

主要輸入品前年對比 (價額單位 國幣千圓)

品目	數量單位	大同二年		大同元年		比較 (△印減)
		數	額	數	額	
小綿織物	千擔	八、三六九	八七九	六九、三〇四	七五五	△
鐵鋼類	千擔	二八七	九〇五	五八、六七八	九四六	△
綿絲類	千擔	二二〇	二八三	三九、九九六	七三四	△
砂糖	千擔	二二〇	一、二二四	二二、六九八	七八四	△
棉花	千擔	二、〇〇一	二、二八三	二〇、九二七	二五七	△
紙材	千擔	二、〇〇一	二、二八三	一六、九九一	七七二	△
木及工	千擔	二、〇〇一	二、二八三	一六、〇二八	七六八	△
揮發油	千擔	二、〇〇一	二、二八三	一一、〇四六	〇二八	△
葉草	千擔	二、〇〇一	二、二八三	一〇、〇一二	六七七	△
煙草	千擔	二、〇〇一	二、二八三	九、六三七	六四三	△
米	千擔	二、〇〇一	二、二八三	九、五四三	六一一	△
燈油	千擔	二、〇〇一	二、二八三	九、五〇二	八五四	△
毛織物	千擔	二、〇〇一	二、二八三	九、〇〇九	四二八	△
絹織物	千擔	二、〇〇一	二、二八三	八、一二八	〇〇七	△
茶	千擔	二、〇〇一	二、二八三	七、八三一	四四一	△
紙卷	千擔	二、〇〇一	二、二八三	七、五八二	四七八	△
米	千擔	二、〇〇一	二、二八三	四、〇七九	八一九	△
燈油	千擔	二、〇〇一	二、二八三	三、三一二	四〇四	△
紙卷	千擔	二、〇〇一	二、二八三	一、七三三	七二八	△

更ニ之ヲ取扱フ稅關箇所別並對手國別ニ觀ルニ次ノ如シ。
主要輸入品數量稅關別 (大同二年)

品目	單位	大連	安東	營口	山海關	哈爾濱	龍井村	圖們	承德	計
米	擔	三九、四七七	一八、五五五	一、四〇四	八六	一、八八九	一、五八三	二、四七七	五、五九九	

品名	單位	日本	朝鮮	中華民國	蘇聯	香港	英領印度	關領印度	英吉利
米及粉	千擔	5,213	3,377	100	100	0	0	0	0
茶	"	1,288	1,288	0	0	0	0	0	0
紙	"	1,188	1,188	0	0	0	0	0	0
葉	"	66	66	0	0	0	0	0	0
燈	"	1,770	1,770	0	0	0	0	0	0

主要輸入品數量國別 (大同二年) 其ノ一

品名	單位	大連	安東	營口	山海關	哈爾濱	龍井村	圖們	承德	計
揮發油	千擔	7,157	7,157	1,277	1,277	4,744	1,384	4,744	1,384	20,944
棉花	擔	10,310	10,310	5,077	5,077	1,311	1,311	109	109	22,100
繅絲	擔	4,000	4,000	1,111	1,111	3,333	3,333	3,333	3,333	10,111
絹織物	擔	3,799	3,799	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	10,111
毛織物	擔	7,000	7,000	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	10,111
麻織物	擔	7,000	7,000	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	10,111
鐵器	擔	3,799	3,799	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	10,111
機車	擔	3,799	3,799	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	10,111
木料	擔	3,799	3,799	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	10,111

主要輸入品價額稅關別 (大同二年) (單位 國幣圓)

品名	單位	大連	安東	營口	山海關	哈爾濱	龍井村	圖們	承德	計
揮發油	千擔	50,319	4,551	9,000	9,000	9,000	1,311	6,257	3,547	75,984
棉花	擔	81,376	6,703	13,300	13,300	1,311	1,311	109	109	100,111
繅絲	擔	12,222	2,222	3,333	3,333	3,333	3,333	3,333	3,333	30,111
絹織物	擔	12,222	2,222	3,333	3,333	3,333	3,333	3,333	3,333	30,111
毛織物	擔	12,222	2,222	3,333	3,333	3,333	3,333	3,333	3,333	30,111
麻織物	擔	12,222	2,222	3,333	3,333	3,333	3,333	3,333	3,333	30,111
鐵器	擔	12,222	2,222	3,333	3,333	3,333	3,333	3,333	3,333	30,111
機車	擔	12,222	2,222	3,333	3,333	3,333	3,333	3,333	3,333	30,111
木料	擔	12,222	2,222	3,333	3,333	3,333	3,333	3,333	3,333	30,111

品名	單位	大連	安東	營口	山海關	哈爾濱	龍井村	圖們	承德	計
麥及粉	千擔	4,000	4,000	1,111	1,111	3,333	3,333	3,333	3,333	10,111
茶	"	1,288	1,288	0	0	0	0	0	0	1,288
紙	"	1,188	1,188	0	0	0	0	0	0	1,188
葉	"	66	66	0	0	0	0	0	0	66
燈	"	1,770	1,770	0	0	0	0	0	0	1,770

品目	日本	朝鮮	中華民國	蘇	聯	香	港	英領印度	蘭領印度	英吉利
小米	千圓 六二八	千圓 一七三	千圓 一八〇	千圓 六四七	千圓 一四二	千圓 一四二	千圓 一四二	千圓 一四二	千圓 一四二	千圓 一四二
茶及麥	千圓 三三三	千圓 一三三	千圓 一三三	千圓 一三三	千圓 一三三	千圓 一三三	千圓 一三三	千圓 一三三	千圓 一三三	千圓 一三三
紙砂	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一
葉煙	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一
燈油	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一
揮發油	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一
綿織物	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一
絹織物	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一
毛織物	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一
紙袋	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一
鐵工	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一
機器	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一
車輛	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一
木器	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一
材料	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一	千圓 一〇一

(大同二年) 其ノ一

主要輸入品價額國別 (單位 國幣千圓)

備考 單位以下切棄テタルニヨリ計ト符合セズ

品目	佛	蘭	西	獨	逸	白	耳	義	和	蘭	伊	太	利	北	米	合	衆	國	其	他	計
小米																					
茶及麥																					
紙砂																					
葉煙																					
燈油																					
揮發油																					
綿織物																					
絹織物																					
毛織物																					
紙袋																					
鐵工																					
機器																					
車輛																					
木器																					
材料																					

其ノ二

品目	日本	朝鮮	中華民國	蘇	聯	香	港	英領印度	蘭領印度	英吉利
小米	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇
茶及麥	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇
紙砂	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇
葉煙	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇
燈油	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇
揮發油	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇
綿織物	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇
絹織物	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇
毛織物	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇
紙袋	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇
鐵工	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇
機器	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇
車輛	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇
木器	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇
材料	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇	千圓 一〇〇

品目	佛蘭西	獨逸	白耳義	和蘭	伊太利	北米合衆國	其他	計
米及粉	千圓	千圓	千圓	千圓	千圓	千圓	千圓	千圓
小麥								
茶								
砂糖								
紙卷								
煙草								
燈油								
揮發油								
棉織物								
絹織物								
毛織物								
麻織物								
紙及網								
鐘錶及工具								
機器及工								
車輛								
木料								
其他								
計	千圓	千圓	千圓	千圓	千圓	千圓	千圓	千圓

備考 單位以下切捨タルニヨリ計ト符合セズ

第四節 港別(稅關別)貿易

大同二年ニ於ケル貿易狀況ヲ港別(稅關別)ニ觀ルニ、大連港ノ輸出入貿易ハ總額七億二千六百七十七萬六千圓(再輸出ヲ含ム)ニシテ、總貿易額ノ七五・四%ヲ占メ、安東之ニ次キ一億七百八十四萬一千圓、以下營口ノ八千三十七萬七千圓、哈爾濱ノ二千一百二十萬三千圓、龍井村ノ九百六十二萬圓、山海關ノ九百十二萬圓、圖們六百二十九萬六千圓、承德三百十四萬六千圓ノ順序ナリ。

由來我國ノ輸出入ハ大連、安東及營口ノ南滿三港ヲ經由スルモノ常ニ總貿易額ノ九割内外ヲ占メ、我對外貿易ノ大勢ハ全ク南滿三港ノ消長ニ依リテ決セララルル感アリ。大同二年ニ於テモ輸出輸入共ニ總貿易額ノ九六%ニ達スル狀況ニシテ、哈爾濱、龍井村、圖們、承德ノ所謂北滿、東滿及西滿貿易ハ合シテ僅カニ爾餘ノ四%ヲ占ムルニ過キス。然レトモ南滿三港ノ各輸出入ヲ前年ニ比較スルトキ、從來常ニ出超ヲ持續シタル大連及安東カ大同二年ニ至リ一變シテ入超ニ轉シ、之ニ反シ從來入超港タリシ營口カ前年ニ引續キ大同二年ニ於テモ出超ヲ示シタルハ注目ニ値ス。

今各港(稅關)ノ貿易狀況ヲ概述スレハ次ノ如シ。

大連 大連港ノ貿易ハ一九三〇年ニ於テ減退ノ趨勢ヲ示シタリシカ、翌事變年ニ於テモ引續キ崩落ノ途ヲ辿レル銀價カ前年ノ安値ヨリ一層ノ低落ヲ示シ、且滿洲貿易ヲ阻害スル幾多原因派生ノ爲上半期ハ平穩ノ中ニモ危險ヲ孕ミ、下半期ニ至リテハ滿洲事變勃發ニ因リ貿易額ニ多大ノ影響ヲ及ホスモノトシテ憂慮セラレタルニ拘ラス、結果ニ於テ總貿易額稍増加ヲ示セリ。續イテ大同二年ニ於テハ建國後漸次治安ノ回復成リ一般經濟界回復シ、加フルニ銀價ノ昂騰ニ因ル購買力ノ

増進及接收以後ニ於ケル税關ノ整備ニ依リ、前年ニ比シ頗ル好況ヲ示スニ至レリ。即チ輸出三億一千四百萬圓、輸入三億八千九百萬圓、合計七億四百萬圓（他ニ再輸出二千二百六十五萬圓、再輸入十五萬圓）ニシテ、之ヲ前年ニ比較スルニ輸出ニ於テ約一億萬圓ノ減少ヲ示シタルニ反シ、輸入ニ於テ約一億五千萬圓ヲ増加シ總額五千萬圓ノ増加ヲ來セリ。

次ニ本港ヲ經由スル輸出入貨物品目ニ就キテ之ヲ觀ルニ、輸出ニ於テハ大豆ノ一億四千四百萬圓（大豆總輸出額ニ對シ八五%）ヲ首位トシ、石炭ノ三千八百萬圓、豆油ノ一千五百萬圓等之ニ次キ、輸出ニアリテハ綿織物ノ四千四百萬圓、小麥粉ノ三千九百萬圓、鐵及鋼ノ三千七百萬圓、車輛類ノ二千百萬圓等其ノ主ナルモノトス。

安東 本港ハ海陸兩路ノ接合地點ニ位シ、國境都市トシテ貿易旺盛ヲ極メタルモ、滿洲事變ノ勃發ニ因リ著シキ激減振リヲ示シタリシカ、大同二年ニ至リ總額ニ於テ前年ニ比シ約一千五百萬圓ノ増加ヲ示シタリ。即チ輸出四千五百萬圓、輸入六千一百萬圓、合計一億七百萬圓ニ達ス。而シテ全國總貿易額ニ占ムル割合ハ一一・二%ニシテ大連ニ亞キ第二位トス。次ニ之ヲ品目別ニ觀ルニ、輸出ニ於テハ粟ノ一千二百五十萬圓、柞蠶絲ノ九百四十萬圓（柞蠶總輸出額ニ對シ八九%）、豆粕七百二十萬圓等ノ順次之ニ踵キ、輸入ニアリテハ綿織物二千三百三十萬圓、小麥粉五百四十萬圓、綿織絲五百十萬圓等ヲ以テ主ナルモノトス。

營口 本港ハ開港以來七十餘年ノ歴史ヲ有スルモ、冬期ノ結氷、河口淺瀬ノ障害竝大連港トノ競争等ノタメ充分ノ發達ヲ爲シ得ス、僅カニ滿洲貿易進展ノ大勢ニ追從シテ貿易額ノ増加ヲ見ル狀態ニ置カレタリ。而シテ近年世界恐慌ノ餘波、銀價ノ暴落、殊ニ滿洲事變ハ營口貿易ニ多大ノ影響ヲ與ヘタリト雖モ、今後我國ノ重要港トシテ遼河ヲ控ヘ、マタ背後地市場ニ對シテハ、運輸機關ノ發達ト共ニ滿蒙物資吞吐港タルニ有利ナル天恵ノ地位ヲ利シ、益々發達スルモノト觀ラル。大同二年ニ於ケル輸出額ハ四千二百六萬圓、輸入額三千七百萬圓ニシテ、總額七千九百萬圓ナリ。之ニ大同二年八月營口税

關ヨリ獨立シ本關トナリタル、山海關稅關ノ貿易額ヲ加算シ之ヲ前年ト比較スルニ、輸入ニ於テ約二千萬圓ノ増加ヲ示シタルモ、輸出ニ於テ約四千三百萬圓ノ激減ヲ來シ、總額ニ於テ約二千三百萬圓ノ減少ヲ示セリ。全滿貿易額中ニ占ムル割合又大同元年ノ一二・一%ヨリ九・四%ニ低下セリ、之滿支貿易ノ衰退ヲ語ルモノト謂フヘシ。而シテ本港輸出入ノ品目ニ就キテ見ルニ豆粕（一千三百萬圓）大豆（八百萬圓）等ノ特産品ヲ輸出シ、輸入ニアリテハ小麥粉（一千二百萬圓）等ノ食料品ソノ主ナルモノナリ。

哈爾濱 哈爾濱管區ハ極メテ廣範圍ニシテ其ノ輸出入貿易ノ運路ハ鐵道、水路、陸路ノ三方面ニ亘ル。鐵道ニ依ルモノニハ西滿洲里、東綏芬河、南新京ニ至ル各線及洮昂線經由ノモノ等アリ、水路ハ松花江ニ依ルモノニシテ、其ノ他陸路方面アリ。此等各通路ニ依ル北滿ノ貿易額ハ年々増加シツツアルモ、大同元年以降例年ニ比シテ其ノ趣ヲ異ニシ、減少ノ傾向ニアリ。大同二年ニ於ケル輸出額ハ一千二百八十萬圓、輸入七百六十萬圓、總額二千五百萬圓ニシテ、前年ニ比シ約五五%ノ大減少ヲ示セリ。之レ大同二年ニ於ケル北滿鐵路封鎖問題ノ紛糾ニ基ク滿洲里及綏芬河經由對蘇聯貿易ノ減退ニ由來スルモノト看ラル。

龍井村 東部滿洲ニ於ケル貿易ハ龍井村、琿春ヲ中心トシ、輸出入相手國トシテハ日本（朝鮮）殆ト其ノ大部分ヲ占ム。大同二年ニ於ケル總貿易額ハ九百五十九萬圓ニシテ、前年ニ比シ三百萬圓ノ増加ナリ。之ヲ品目別ニ觀レハ輸出ニアリテハ大豆（二百萬圓）其ノ他ノ穀類ニシテ、輸入品ハ小麥粉（九十萬圓）、綿織物（八十萬圓）、鐵及鋼（七十萬圓）、木材、車輛類ナリ。

今大同二年ニ於ケル各稅關別貿易額ヲ示セハ次ノ如シ。

税關別貿易額(其一) (單位 國幣圓)

税關別	輸	出	比率	輸	入	比率	計	比率
大連	三,四九,九二六	四,五七,二六四	七五%	三,九〇,六六六	六,四八,三九九	二一九	七,三九,七五五	七四%
營口	四,〇九,九三〇	三,六四,六六二	九〇	三,七〇,九七九	三,七〇,九七九	七二	七,四一,九五八	一一
山海關	三,六四,六六二	三,六四,六六二	〇	五,四三,二五七	五,四三,二五七	七二	一〇,八七,五二四	八四
哈爾濱	二,三九,八一七	二,三九,八一七	〇	八,二四,五〇六	八,二四,五〇六	一六	一〇,六四,三二三	一〇
龍井村	二,三九,八一七	二,三九,八一七	〇	七,二四,三二九	七,二四,三二九	一四	九,六三,六五八	一〇
圖們	一,五二,七三三	一,五二,七三三	〇	四,八四三,五五三	四,八四三,五五三	〇	六,三七一,二八六	〇
承德	八〇九,九七七	八〇九,九七七	〇	三,三六,一〇〇	三,三六,一〇〇	〇	三,七〇,〇〇〇	〇
計	四三,六九,二四三	四三,六九,二四三	一〇〇	五五,六六,七〇八	五五,六六,七〇八	一〇〇	一〇〇,〇〇,〇〇〇	一〇〇

再輸出入ヲ含マズ 税關別貿易額(其二) (單位 國幣圓)

輸出入別	大連	營口	山海關	哈爾濱	龍井村	圖們	承德	計
輸出	三,四九,九二六	四,五七,二六四	三,六四,六六二	二,三九,八一七	二,三九,八一七	一,五二,七三三	八〇九,九七七	一〇,〇〇,〇〇〇
再輸出	三,三六,五五〇	六,二三,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	〇	三,三六,五五〇	〇	〇	一〇,〇〇,〇〇〇
輸出計	三,七〇,四七六	五,一九,二六四	四,六四,六六二	二,三九,八一七	五,七六,三六七	一,五二,七三三	八〇九,九七七	一〇,〇〇,〇〇〇
輸入	三,九〇,六六六	六,四八,三九九	五,四三,二五七	八,二四,五〇六	七,二四,三二九	四,八四三,五五三	三,三六,一〇〇	三〇,〇〇,〇〇〇
再輸入	一,四四,三四七	一,四四,三四七	一,四四,三四七	一,四四,三四七	一,四四,三四七	一,四四,三四七	一,四四,三四七	一,四四,三四七
輸入計	五,三五,〇一三	七,九二,七四六	六,八七,六〇四	九,六八,八五三	八,六八,六七六	六,二八七,八九〇	四,八〇,八三七	三〇,〇〇,〇〇〇

輸出入合計	輸出超過	輸入超過
七六,七三,五五九	一,〇〇,〇〇〇	五,二六,六六三
一〇〇,〇〇,〇〇〇	六,一三,〇〇〇	一,七六,六六三
九三,八三,五五九	六,一三,〇〇〇	一,七六,六六三

第五節 出入船舶

各港ノ出入船舶狀況ヲ觀ルニ、大同二年中大連、安東、營口ノ各港ニ入港セルモノ五千三百九十四隻、其ノ登簿噸數八百四十六萬噸、出港隻數五千五百六十九隻、其ノ噸數八百五十九萬噸ニ達ス。之ヲ前年ト比較スレハ出入隻數ニ於テ二百五十隻ヲ減シタルモ、噸數ニ於テ七十七萬噸ヲ増加シ、大型船舶ノ出入漸ク増加セルコトヲ示セリ。更ニ之ヲ置籍國別ニ觀レハ、日本最モ多ク中華民國、關東州、英吉利、滿洲國、米國等順次之ニ踵ケリ。又之等船舶ノ出入ハ大連最モ多ク、出入合計七千九百六十隻ニシテ總出入船舶ノ七三・四%ヲ占メ、營口、安東之ニ亞ク、之ヲ各港別ニ示セハ次ノ如シ。

置籍國別	三港		大連		營口		安東	
	入	出	入	出	入	出	入	出
合	五,三三〇	五,三三〇	一,二〇〇	一,二〇〇	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一
滿洲國	一,二二一	一,二二一	一,二二一	一,二二一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一
關東州	一,一〇九	一,一〇九	一,一〇九	一,一〇九	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一

夜克帆船ヲ除ク

置籍國別	三港		大連		營口		安東	
	入港	出港	入港	出港	入港	出港	入港	出港
日本	1,945	1,945	1,635	1,071	2,915	2,871	1,635	1,635
中國	1,443	1,443	794	741	503	503	1,545	1,545
蘇聯	9	9	8	7	1	1	1	1
英國	400	374	288	277	1	1	4	4
獨逸	37	36	37	37	1	1	1	1
和蘭	33	33	33	33	1	1	1	1
丁抹	33	33	33	33	1	1	1	1
瑞典	23	22	23	22	1	1	1	1
諸利	22	22	22	22	1	1	1	1
伊太	22	22	22	22	1	1	1	1
希臘	22	22	22	22	1	1	1	1
希利	22	22	22	22	1	1	1	1
亞米	22	22	22	22	1	1	1	1
亞利	22	22	22	22	1	1	1	1
巴馬	22	22	22	22	1	1	1	1

第四章 通貨及金融

第一節 概 說

建國後草創ノ時ニ當リテ、紊亂ト複雑ヲ極メタル内治外交ノ調整、殊ニ内治ニ於ケル治安ノ回復ト幣制ノ統一ハ政府ノ最モ急務トシタル所ニシテ、大同二年度ニ於ケル爲政ノ主眼亦茲ニ在ルハ敢テ言フ俟タス。斯クテ治安ノ回復ハ延イテ産業ノ勃興ヲ刺戟シ、殊ニ地方治安ニ禍サレタル産業ニ對スル資金ノ需要ヲ喚起スルハ蓋シ必然ナリ。

而シテ一國産業ノ興亡ハ金融ニ關係スルコト極メテ大ナルモノアルヲ以テ、政府ハ貨幣ノ統一、金融機關ノ整備、改善ヲ徹底セシムル爲、大同二年度ニ入り銀行法ノ施行、金融組合ノ増設、其ノ他庶民金融機關ノ改善ニ當ルト共ニ、中央銀行ノ内容ヲ充實シテ以テ國民ノ信賴ヲ保持シ、産金買上法、金輸出禁止法ヲ制定シテ不當ナル金流出ノ防止ニ努メ、或ハ引續キ金利ノ引下ヲ斷行シテ産業資金ノ圓滑ヲ圖リ、更ニ春耕資金ノ貸出ヲ實施シテ以テ農耕資金ノ潤澤ヲ期セリ。

斯クノ如キ國家ノ機宜ヲ得タル政策ト、官民ノ理解アル協力トニ依リテ舊紙幣ノ回收、地方的舊貨幣（馬大洋票、熱河票、過爐銀）及私帖ノ整理ハ極メテ好成績ヲ擧ケタルノミナラス、更ニ金融政策ノ鞏化ハ國幣ノ價值ヲ安定セシメ、國幣ノ全國的普及ヲ促進セリ。

斯クノ如クシテ金利ノ調整、金融機關ノ整備改善ノ結果ハ國內金融ノ圓滑ヲ招來シ、殊ニ金融組合ノ増設ト春耕資金ノ貸出トハ梗塞セル地方金融ヲ打開シ、中小農工商ノ金融ヲ極メテ圓滑ナラシムルヲ得タリ。

第二節 通貨

一 通貨制度

幣制 我國ノ幣制ニ關シテハ、建國ノ初メ貨幣法及滿洲中央銀行法ヲ制定スルニ當リ、銀本位制ヲ採用シ、貨幣ノ製造及發行ノ權ハ政府ニ屬シ、滿洲中央銀行ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ定メタリ。之ニ依リテ、滿洲中央銀行發行ノ紙幣ハ其ノ額ニ制限ナク、又鑄貨ハ其ノ額面百倍迄ヲ法貨トシテ通用セシムルコトト爲シ、紙幣ニ對シテハ兌換ノ定メナキモ、發行準備トシテ、所定ノ正貨及保證準備ヲ保有スルコトヲ定メ、以テ紙幣ニ對スル信用ヲ得セシムルコトト爲セリ。而シテ國內ニ於テハ通貨ノ發行統制ト必要ニ應スル銀ノ賣買トニ依リ、通貨價值ノ安定ヲ保持シ、外國ニ對シテハ爲替ノ賣買ニ依リテ國際的通貨價值ヲ維持スル獨特ノ貨幣制度ニシテ、銀本位管理通貨制度ト稱スヘキモノヲ採用セリ。

貨幣ノ單位及計算 貨幣法第二條ハ「純銀ノ量目二三・九一公分(グラム)ヲ以テ價格ノ單位トシ之レヲ圓ト稱ス」ト規定シ、以テ貨幣ノ單位ヲ定メ、同第三條ニ於テ貨幣ノ計算ヲ十進トシ、十分ノ一ヲ角、百分ノ一ヲ一分、千分ノ一ヲ厘ト爲ス旨ヲ定メタリ。

單位ヲ純銀二三・九一グラムトセシハ、從來ノ標準通貨タリシ現大洋ノ純分量目ト略同一ニシ、國民ノ習慣ニ適合セシムルヲ以テ適當且至便ナリト思惟セルニ依ルモノナリ。

貨幣ノ種類及鑄貨ノ品位 貨幣ノ種類ハ之ヲ九種トシ、紙幣ニ在リテハ百圓、十圓、五圓、一圓、及五角ノ五種、白銅貨幣ニ在リテハ一角及五分ノ二種、青銅貨幣ニ在リテハ一分及五厘ノ二種ト爲シ、且鑄貨ノ品位ニ關シテハ大同二年四

月十九日敕令第二十二號ヲ以テ貨幣法第六條ヲ左ノ如ク改メタリ。

- 一、一角白銅貨幣 總量 五公分(ニツケル二五、參和銅七五ノ割合)
- 二、五分白銅貨幣 總量 三・五公分(ニツケル二五、參和銅七五ノ割合)
- 三、一分青銅貨幣 總量 五公分(銅九五、錫四、亞鉛一ノ割合)
- 四、五厘青銅貨幣 總量 三・五公分(銅九五、錫四、亞鉛一ノ割合)

發行準備 正貨準備ニ該當スルモノトシテハ紙幣發行高ニ對シ三割以上ニ相當スル銀塊、金塊、確實ナル外國通貨又ハ外國銀行ニ對スル金銀預ケ金ヲ保有スルコトヲ要シ、又保證準備ニ該當スルモノトシテハ、此ノ準備額ヲ控除シタル殘餘ノ發行高ニ對シ公債證書、政府ノ發行又ハ保證セル手形、其他確實ナル證券若クハ商業手形ヲ保有スルコトヲ要スヘキモノトセリ。滿洲中央銀行カ開業以來發行準備ノ充實ヲ計リタルコトハ、其ノ正貨準備カ常ニ五割以上ヲ保有セルコトヲ示スハ次表ニ依リテ見ルモ明カナル所ナリ。

滿洲中央銀行正貨準備額並準備率表

月次	準備額	發行ニ對スル比率
大同元年七月一日	八〇,四九〇,一八三	五六・六%
七月末	七九,一五八,一四二	五六・九
八月末	六六,五三二,七一九	五四・〇
九月末	六五,四四六,七四九	五四・二
十月末	六三,九二九,五四〇	五二・二
十一月末	七〇,七九五,〇八〇	五三・四

月次	準備額	發行ニ對スル比率
大同元年十二月末	七七,八四九,〇九七	五一・三%
大同二年一月末	八七,八五九,四三八	五六・七
二月末	八三,〇三三,〇九七	五六・七
三月末	七九,〇六五,六七六	五八・〇
四月末	七三,六二一,五〇九	五六・六
五月末	七三,二五七,七五六	五九・〇
六月末	七六,〇五九,五六五	六七・八
七月末	七五,三五六,五五〇	六八・三
八月末	七一,九三三,三五二	六六・九
九月末	六九,一四二,六一〇	六三・八
十月末	六二,九〇四,六〇一	五六・二
十一月末	六三,〇三三,九四三	五五・五
十二月末	六七,五六七,八二〇	五二・三
大同三年一月末	六八,五二九,二三七	五二・八
二月末	六八,六八七,四三九	五一・二
三月末	六八,〇五〇,八五五	五四・二
四月末	六四,八〇七,八九一	五五・九
五月末	五八,四〇九,四六五	五五・〇
六月末	五九,九六一,六五一	五九・六

整理セラルヘキ舊紙幣及國幣ニ對スル換算率
 一、東三省官銀號發行兌換券(天津券ヲ含マズ) 一圓
 新貨幣壹圓ニ付

- 二、邊業銀行發行兌換券 (天津券ヲ含マズ) 一圓
- 三、遼寧四行號聯合發行準備庫發行兌換券 一圓
- 四、東三省官銀號發行匯兌券 五〇圓
- 五、公濟平市錢號發行銅元票 六〇圓
- 六、東三省官銀號發行哈爾濱大洋票(有監理官印) 一・二五圓
- 七、吉林永衡官銀號發行哈爾濱大洋票(有監理官印) 一・二五圓
- 八、黑龍江官銀號發行哈爾濱大洋票(有監理官印) 一・二五圓
- 九、邊業銀行發行哈爾濱大洋票(有監理官印) 一・二五圓
- 一〇、吉林永衡官銀號發行官帖 五〇〇吊
- 一一、吉林永衡官銀號發行小洋票 五〇圓
- 一二、吉林永衡官銀號發行大洋票 一・三〇圓
- 一三、黑龍江省官銀號發行官帖 一・六八〇吊
- 一四、黑龍江省官銀號發行四釐債券 一四圓
- 一五、黑龍江省官銀號發行大洋票 一・四〇圓

備考 大同元年六月二十七日敕令第三十八號、舊貨幣整理辦法
 大同元年七月一日財政部々令第三十五號
 新貨幣ニ對スル舊貨幣ノ換算率ニ關スル部令

尙舊紙幣ヲ幣種及券種別ニ見ルニ次ノ如シ。

第五編 商業金融 第四章 通貨及金融

東三省官銀號紙幣
 邊業銀行紙幣
 吉林永衡官銀號紙幣
 黑龍江省官銀號紙幣

計

更ニ之ヲ金額ニ付見レハ左ノ如シ。

種類	原幣額	國幣換算額
現大洋票	四三、六五七、二八〇圓	四三、六五七、二八〇圓
哈大洋票	三九、一九二、三六九圓	三九、一九二、三六九圓
奉大洋票	九四九、六七三、一三五圓	一八、九九三、四六二
銅元	六八、七七〇、九六八圓	一、一四六、一八二
吉林官帖	一〇、三二〇、二五一、三三一吊	二〇、六二〇、五〇二
吉林大洋票	九、〇六五、四八八圓	六、九七三、四五二
吉林小洋票	一、八四九、二八六圓	二、三六、九八五
江省官帖	八、一七六、五七四、八九五吊	四、八六七、〇〇八
江省大洋票	一六、六八〇、四八五圓	一一、九一四、六三二
江省大洋票	三四、六〇〇、六七三圓	二、四七一、四七六
計		一四二、二三四、八七四

滿洲中央銀行舊紙幣回收額

(大同二年十二月末現在)

(圓以下切棄)

行號名	承繼發行額	自大同元年七月一日至同二年十二月末回收額	回收率	舊紙幣現在發行額
東三省官銀號	六八、一〇二、五六一圓	四九、五八二、二二一圓	七二・八%	一八、五二〇、三四九圓
邊業銀行	一六、八二二、三六〇	一一、四七二、五七三	六八・二	五、三四九、七八六
吉林永衡官銀號	三一、六九三、四七七	二五、〇九一、二〇二	七九・二	六、六〇二、二七五
黑龍江省官銀號	二五、六一六、四八一	一九、七五七、七〇九	七七・一	五、八五八、七七一
計	一四二、二三四、八八一	一〇五、九〇三、六九六	七四・五	三六、三三一、一八四

幣種別舊貨幣回收額

(康德元年五月末現在)

幣種別	承繼額	回收額	未回收額	回收率
現大洋票	四三、六五七、二八〇圓	四〇、〇七二、九七二圓	三、五八四、三〇七圓	九一・八%
哈大洋票	三九、三三三、八九五	二六、一六〇、〇八五	一三、一七三、八〇九	八三・四
奉大洋票	一八、九九三、四六二	一七、七九五、九一六	一一、九七七、五四六	九三・七
銅元	一、一四六、一八二	四二一、六六一	七二四、五二一	三六・八
吉林官帖	二〇、六二〇、五〇二	一八、〇〇二、二〇四	二、六一八、二九八	八七・三
吉林大洋票	六、九七三、四五二	六、七七一、二八八	二五六、一六四	九六・三
吉林小洋票	一、三三六、九八五	一一四、三五六	一二二、六二九	四八・二
江省官帖	四、八六七、〇〇八	四、二七四、〇三七	五九二、九七一	八七・八
江省大洋票	一一、九一四、六三一	一一、一九一、二五九	七二三、三七三	九三・九
江省大洋票	二、四七一、四七六	二、一八三、四八〇	二八七、九九六	八八・三
計	一四二、二三四、八八一	一三六、九三三、二六二	一五、三〇一、六一八	八九・二

貨幣ノ製造及發行 貨幣ノ製造及發行權ハ政府之ヲ有シ、滿洲中央銀行ヲシテ之ヲ行ハシム。

惟フニ舊政權時代ニ於テ幣制紊亂シ通貨複雜セル原因ノ一半ハ之ヲ貨幣ノ製造及發行ヲ數機關ニ分屬セシメタルニ歸スヘク、茲ニ深く鑑ミル所アリ政府カ滿洲中央銀行ヲシテ專ラ製造及發行ニ當ラシムルニ至リタルハ蓋シ當然ト言フヘシ。右ノ外政府ハ更ニ大同元年七月二日教令第四十六號ヲ以テ「滿洲中央銀行ノ發行スル貨幣ノ様式並製造發行損幣引換及銷却ニ關スル件」ヲ公布シ、貨幣ノ様式若クハ様式ノ變更ニ就キ滿洲中央銀行ヲシテ政府ノ認可ヲ受ケシメ、其ノ認可ヲ得タル後ニ於テ更ニ「發行期日ヨリ少クトモ一ヶ月前ニ公告」スヘキコトヲ要求シ、貨幣ノ製造及發行ニ關シ完璧ヲ期シタリ。

而シテ新紙幣ノ製造ニ關シテハ大同元年九月十日ニ五角紙幣、同十一月十日ニ十圓紙幣、同十二月二十日ニ一圓紙幣、大同二年四月一日ニ百圓紙幣、同六月一日ニ五圓紙幣ノ製造ヲ夫々日本内閣印刷局ニ之ヲ依頼シタリ。

尙鑄貨ノ製造ニ就テハ滿洲中央銀行ハ舊奉天省造幣廠ノ土地建物機械一切ヲ政府ヨリ讓受ケテ白銅貨幣及青銅貨幣鑄造ノ計畫ヲ樹テ、工場ノ應急修理、機械ノ増設、技術員ノ招聘ヲ行ヒ大同二年五月一日ヨリ作業ヲ開始シ、同五月二十日ヨリ白銅貨幣、八月一日ヨリ青銅貨幣ノ發行ヲ見ルヲ得タリ。

貨幣發行高ノ公告及監督 政府ハ滿洲中央銀行ニ於ケル貨幣ノ製造及發行ニ對シテハ特ニ同銀行ノ監理官ヲシテ之ヲ監督セシムルト共ニ、滿洲中央銀行ヲシテ紙幣及鑄貨ノ發行高並準備ノ増減ニ關スル出納日表及毎週平均高表ヲ作製シテ政府ニ進達セシメ且毎週平均高ヲ公告セシム。

二 通貨ノ整理統一

舊紙幣ノ整理 紊亂錯綜極マリ無カリシ舊政權時代ニ於ケル幣制ヲ統一スルコトハ、我國建國後最モ急務トセル所ニシテ、爾來政府ハ貨幣法、中央銀行法其ノ他ノ諸法令ヲ制定シテ、幣制ノ確立ニ努ムルト共ニ舊貨幣整理辦法ヲ公布シ一意舊紙幣ノ整理ニ力ヲ注キ來リタルカ、此努力能ク報イラレテ其ノ第一期事業タル舊紙幣ノ回收刻々順調ニ運ヒテ豫想以上ノ成績ヲ示シ、滿洲中央銀行設立當時ノ承繼額一億四千二百二十三萬四千八百八十一圓中大同二年末迄ノ回收額ハ一億五百九十萬三千六百九十六圓ニシテ總額ノ七・五%ヲ示シ、爾來更ニ増加シテ康德元年五月末日ニ於テハ回收額一億二千六百九十三萬三千二百六十二圓ニ達シ、未回收額僅カニ一千五百三十萬一千六百十八圓ニ減シタリ。

而シテ此ノ狀態ヲ以テスレハ、舊紙幣ハ其ノ流通期限タル康德元年六月三十日迄ニ全部ノ回收ヲ完了シ得ヘシト豫想セラレタルモ、國民中ニハ兌換ノ期ヲ失スルモノアルコトヲ慮リ、特ニ康德元年七月一日ヨリ向フ一箇年ヲ限り、滿洲中央銀行ニ於テ從前ノ換算率ニ據リ新貨幣トノ交換ニ應シ、且此ノ期間内ニ於テハ租稅其ノ他官公署ノ納入金ハ舊貨幣ヲ以テスルコトヲ得ルコトトセリ。

馬大洋票及熱河票ノ整理 北滿ニ於ケル馬大洋票ハ馬占山ノ發行ニ係ルモノニシテ、黑龍江畔黑河ヲ中心ニ散在シ、金額約二百萬圓、專ラ軍資ニ當テタルモノナリ。

從ツテ圓銀兌換ヲ標榜セルモ、全ク發行準備ナキ不換紙幣ニシテ、且強制的ニ授受セシメタルモノナリシカハ、政府ハ馬占山敗退後滿洲中央銀行ヲシテ其ノ整理ニ當ラシメ、馬大洋票四圓ニ對シ國幣一圓ノ割合ヲ以テ當時民間流通額約一六〇萬圓ヲ月餘ニシテ回收シ、民衆ヲ不當ナル損失ヨリ救済セリ。

熱河票ハ舊熱河省政府ノ機關銀行タリシ熱河興業銀行ノ發行セル紙幣ナルモ、地方民衆ノ信用全クナク、市價亦慘落シテ額面ノ七十分ノ一内外ニ及ヒ、地方金融並産業ヲ攪亂セシコト大ナリシカハ、政府ハ大同二年春滿日軍ニヨル熱河平定

後直ニ滿洲中央銀行ヲシテ熱河興業銀行ヲ監理セシメ、熱河票額面五十圓ニ對シ國幣一圓ノ換算率ニ依リ三月二十日ヨリ一個月間ノ法定期間ヲ定メテ回收ニ着手セシメ極メテ好成績ニ整理ヲ完了スルヲ得タリ。

私帖ノ整理 私帖ハ貨幣法第一條及大同二年七月五日公布ノ敕令第五十三號ニ依リ發行流通ヲ禁止セラレタルカ、地方ノ特殊事情ニ依リ急激ナル整理ハ極メテ困難トセラレタリ。然レトモ之ヲ長ク放置スルコトハ幣制統一上又地方經濟上惡結果ヲ齎ス虞アルニ鑑ミ、政府ハ先ツ私帖禁止ノ趣旨徹底ヲ計ルト共ニ地方政治工作ノ進捗ト相俟テ大同三年一月ヨリ財政部ニ於テ積極的回收整理ニ着手シ巴彥、富錦、密山地方ヲ始メ、私帖發行ノ全國六十餘縣ノ殆ト全部ニ亘リテ其整理ヲ決行セリ。

建國當時ニ於ケル全國私帖發行高ヲ見ルニ、千二百萬餘圓ニ上リタルカ、政府ハ或ハ資金ヲ貸與シテ自力ニ依リ整理セシメ、或ハ中央銀行ヲシテ直接之カ整理ニ當ラシメタルヲ以テ、其ノ整理對策ノ宜シキト、官民ノ協力ニ依リ好成績ヲ以テ整理ヲ完了シ殆ト市場ニ私帖ノ流通ナキニ至レリ。

過爐銀ノ整理 過去七十年ノ歴史ヲ有シ營口地方獨特ノ通貨タリシ過爐銀ハ、其ノ後銀爐中破産者簇出スルト共ニ相場落シ信用全ク失墜セリ。政府ハ幣制統一ノ見地ヨリ大同二年十一月三日過爐銀ノ發行及流通ヲ禁止シ、過爐銀四兩ニ付國幣一圓ノ換算率ヲ以テ回收ニ當リタリ。而シテ政府ハ其ノ整理ニ當リ銀爐ニ代ヘルヘキ金融機關營口商業銀行ヲ特設シ營口經濟界ノ安定、取引ノ利便ヲ計リタル爲、長キ歴史ト根強キ地盤トヲ以テ流通シ來リシ過爐銀モ、何等經濟界ニ動搖ヲ與ヘスシテ整理セララルヲ得タリ。

鎮平銀ノ整理 過爐銀ニ對應シテ地方金融界ニ重キヲナセシハ安東ニ於ケル鎮平銀ニシテ、安東ヲ中心トスル地方金融ノ便ニ供セラレ來リシカ、各種ノ事情ヲ考慮シ、市面ノ動搖ヲ防ク爲、康德元年四月二十日財政部佈告ヲ以テ、同年九月三

十日限り鎮平銀建ノ取引ヲ禁止スルコトトシ、一意整理ニ努メタリ。

三 國幣ノ發行

幣制ノ統一ニ伴ヒ舊紙幣ハ漸次回收セラレ、之ニ代リテ新紙幣ハ續々發行セララルルニ至リタリ。而シテ國幣發行高カ年末ヨリ翌年一、二月頃ニ於テ増加シ、夏期ニ於テ減少ヲ示セルハ國內農産物ノ出廻リ季節カ毎年十月ノ頃ヨリ翌年一、二月ノ頃ニ亘リ、夏期八、九月カ端境期タルニ依ルモノナルカ、茲ニ看過スヘカラサル事實ハ、國家ノ基礎固マルト共ニ滿日軍ニ依ル治安工作ノ進展ハ産業ノ開發、地方土木事業ノ發展就中各地ノ都市計畫事業ヲ刺戟シテ資金ノ需要ヲ喚起セシメ、他方政府ノ幣制統一、通貨制度ノ確立竝ニ通貨政策ノ機宜ニ適セルトハ、人民ノ新貨幣ニ對スル信用ヲ増大シ益々其ノ需要ヲ増シタルコトニシテ、此ノ事實ハ次ニ掲クル國幣ノ發行額及流通額ニ就テ見ルモ明ナリ。

滿洲中央銀行紙幣發行額及流通額

(單位千圓)

月次	紙幣發行額	庫存額	流通額
大同元年七月末	一三九、〇五五	一八、九〇〇	一一〇、一五五
同 八 月 末	一一三、一七三	一〇、八五四	一一二、三一八
同 九 月 末	一一〇、六九九	八、〇〇六	一一二、六九三
同 十 月 末	一一二、五〇九	七、八一七	一一四、六九一
同 十一 月 末	一一三、六八八	六、九〇四	一一五、七八三

月次	紙幣發行額	庫存額	流通額
大同十二年十二月末	一五、八六五	八、七三三	一四三、一三一
大同十二年一月末	一五四、八五一	六、五二〇	一四八、三三一
同 同 二月末	一四六、四四一	七、〇八四	一三九、三五六
同 同 三月末	一三六、三五三	九、六七二	一二六、六八〇
同 同 四月末	一三〇、〇八一	一四、九三八	一一五、一四二
同 同 五月末	一二四、一九三	一三、三六二	一一〇、八三一
同 同 六月末	一一二、二六三	七、六八七	一〇四、五七六
同 同 七月末	一一〇、三六五	一〇、一六六	一〇〇、一九八
同 同 八月末	一〇七、四九〇	八、六一三	九九、八七六
同 同 九月末	一〇八、四一〇	八、九四四	九九、四一六
同 同 十月末	一一一、八六九	六、三八三	一〇五、四八六
同 同 十一月末	一一三、六五三	三、八七三	一〇九、七八〇
同 同 十二月末	一二九、三二三	三、三六二	一二五、八六一
大同三年一月末	一二九、八〇九	四、〇二〇	一二五、七八九
同 同 二月末	一三四、〇二七	二、二〇〇	一三一、八二七

尙參考ノ爲滿洲中央銀行紙幣發行回收額、同發行額新舊紙幣割合並同紙幣發行額每月最高最低平均ヲ示セハ次ノ如シ。

滿洲中央銀行紙幣發行額 (單位圓)

承繼額	月別		月末發行額
	發行額	回收額	
一四二、三三四、八八一			

月次	紙幣發行額	回收額	月末發行額
大同元年七月	七、三三三、六〇〇	一〇、五〇二、六〇四	一三九、〇五五、八七七
大同二年一月	五、一五一、〇三五	二一、〇三三、八一九	一二三、一七三、〇九三
大同二年二月	五、二七八、一二七	七、七五一、三八四	一二〇、六九九、八三九
大同二年三月	八、二八八、五六〇	六、四七八、九二五	一二二、五〇九、四七一
大同二年四月	一三、九五二、七二六	三、七七三、八六二	一三二、六八八、三三四
大同二年五月	一九、一七七、〇六一		一五一、八六五、三九五
大同二年六月	五、二七七、九〇一	二、二九一、六九三	一五四、八五一、六〇三
大同二年七月		八、四一〇、四四一	一四六、四四一、一六一
大同二年八月		一〇、〇八七、八一四	一三六、三五三、三四七
大同二年九月		八、〇六六、三九〇	一三〇、〇八一、〇四一
大同二年十月	一、七九四、〇八四	八、六〇二、六〇九	一二四、一九三、三九〇
大同二年十一月	二、七一九、九五八	一一、九二九、八七一	一二二、二六三、五一九
大同二年十二月		三、二一四、〇七〇	一一〇、三六五、二六七
大同三年一月	一、一四五、八一九	四、〇一九、四八二	一〇七、四九〇、四四一
大同三年二月	一、一四四、六五六	三、一三六、九六八	一〇八、四一〇、六四七
大同三年三月	四、〇五七、一七四	三、八七二、一九〇	一一一、八六九、五六八
大同三年四月	七、三三一、一一一	三、七七四、一七五	一一三、六五三、七二九
大同三年五月	五、五五八、三三六	二、三七一、九九九	一二九、二二三、六三七
大同三年六月	一七、九四一、九〇八	二、九一〇、五八四	一二九、八〇九、八六八
大同三年七月	三、四九六、八一四	一、八二一、四三八	一三四、〇二七、五七四
大同三年八月	六、〇三九、一四四		

滿洲中央銀行紙幣發行額新舊紙幣割合 (單位圓)

月別	國幣	舊紙幣	計	百分比	
				計	國幣
大同二年一月末	六三、四五五、四八一	九一、三九六、一三三	一五四、八五一、六〇三	100	四二
二月末	五七、七三三、六七四	八八、七二五、四七七	一四六、四四一、二六一	100	三九
三月末	五三、四三六、一〇三	八三、九一七、四四五	一三六、三五三、三三七	100	三八
四月末	五四、二二二、一八七	七五、八五〇、八五四	一二〇、〇七一、〇三四	100	三三
五月末	五六、九四四、一四五	六七、三四八、四五五	一二四、二九三、三〇〇	100	三三
六月末	五五、五〇四、四四七	五六、七三〇、〇七三	一一二、二三三、五二〇	100	三三
七月末	五六、八九九、二六六	五三、五〇六、〇〇〇	一一〇、三六五、二六六	100	三三
八月末	五六、〇〇三、九三三	四九、四八六、五二七	一〇七、四九〇、四四〇	100	三三
九月末	六二、〇六二、〇九八	四六、三四九、五四九	一〇八、四一〇、六四七	100	三三
十月末	六九、三九三、〇九	四三、四七七、三九九	一一二、八七一、五九九	100	三三
十一月末	七四、九五〇、五四五	三八、七〇三、一八四	一一三、六五三、七三九	100	三三
十二月末	九二、八九三、四五三	三六、三三一、八四	一二九、二二五、五九三	100	三三

滿洲中央銀行紙幣發行額每月最高最低平均

(單位圓)

月別	最高	最低	平均
大同元年七月	一四五、〇七〇、五六九	一三九、〇五五、八七七	一四二、〇九七、〇二五
八月	一三九、三二六、三四八	一二三、一七三、〇九三	一三〇、六八二、五八七
九月	一二三、四六八、七七五	一一〇、二七一、三九四	一一二、〇七一、四一一
十月	一一二、五〇九、四七一	一一八、八七二、四二四	一一〇、四三七、二七四
十一月	一一三、一八〇、六一〇	一一二、九六〇、四五二	一一二、〇七〇、九八一

月別	最高	最低	平均
大同二年十二月	一五一、八六五、三九五	一三三、四三九、三三六	一四一、三〇八、五八八
十一月	一五五、三六三、四六一	一五一、六〇四、六〇一	一五三、四三五、三四四
十月	一五四、一七〇、八一二	一四四、五二五、七五六	一四八、三八四、五〇四
九月	一四六、四四一、一六一	一三六、三五三、三四七	一四〇、七二二、二九〇
八月	一三六、〇五八、八二二	一二九、二〇一、四九五	一三一、六〇四、一八二
七月	一二九、一九七、六〇四	一二〇、八八七、七七七	一二三、五三四、一〇五
六月	一二三、七八七、六八三	一一二、二六三、五一九	一一七、七六三、三七四
五月	一一二、一三二、七九五	一〇九、二七二、〇九八	一一〇、二六二、九二七
四月	一〇、五五五、〇九〇	一〇六、四四八、三一六	一〇八、二二八、七三九
三月	一〇八、四一〇、六四七	一〇三、九四三、四〇三	一〇五、六九一、五三二
二月	一一一、八六九、五六八	一〇八、一四三、三七二	一〇九、三五三、六一六
一月	一一三、六五三、七二九	一一〇、九二四、三四九	一一二、〇八九、一〇八
大同二年十二月	一一九、二二三、六三七	一一三、二七五、一五七	一一八、九五九、一八六
十一月	一二九、八〇九、八六八	一二三、六八九、五六三	一二六、二六三、八五一
十月	一三五、二三八、五六八	一二九、六七三、九二二	一三二、九一七、三八七
九月	一三四、〇二七、五七四	一二五、五九六、六九三	一二九、四七一、一一〇
八月	一二五、五九六、六九三	一一五、八五七、九三三	一一八、九二二、三三六
七月	一一五、六七四、一二七	一〇五、一二二、九一七	一〇八、五五四、三八九
六月	一〇五、七五五、七三五	一〇〇、五四〇、九五六	一〇三、二四二、四四九

更ニ小額取引ニ充ツヘキ通貨ニ關シテモ其ノ需要ハ舊貨幣ノ整理ニ伴ヒ益々増大シ、大同二年五月二十日ニ於ケル一角及五分白銅貨幣並同年八月一日ニ於ケル一分及五厘青銅貨幣ノ發行以來其ノ數ヲ増シ、大同二年末ニ於テ五百四十九萬一千四百四十圓ヲ算シタリ。

コレヲ以テ見ルモ新補助貨幣ヘノ信望ト舊小額紙幣回收ノ順調ニ進ミツツアル現状ノ一端ヲ知ルヲ得ヘシ。
以下滿洲中央銀行ノ鑄貨發行額ヲ示セハ次ノ如シ。

滿洲中央銀行鑄貨發行額

月 別	白銅貨幣		青銅貨幣		計
	一 角	五 分	一 分	五 厘	
大同二年五月末	七、〇〇〇圓	二、九五〇圓			九、九五〇圓
〃 六 月 末	一二五、〇〇〇	一九、四五〇			一四四、四五〇
〃 七 月 末	二四二、六〇〇	二八、六〇〇			二七一、二〇〇
〃 八 月 末	二四八、七〇〇	二九、〇五〇	八、二〇〇		二八八、〇七〇
〃 九 月 末	四二八、八〇〇	三〇、二〇〇	一四、三二〇		四七五、四八〇
〃 十 月 末	七三三、八〇〇	三六、五〇〇	一四、五一〇		七八六、九八〇
〃 十一 月 末	一二五〇、八〇〇	七九、〇〇〇	一四、五一〇		一、三四六、四八〇
〃 十二 月 末	一九九九、八〇〇	一五一、五〇〇	一五、二一〇		二、一六八、八三〇
大同三年一月末	二、二二二、二〇〇	一八〇、七〇〇	九三、四六〇		二、五〇八、六八〇
〃 二 月 末	三、七〇八、二〇〇	二二七、八五〇	一一三、五六〇		四、〇五一、九三〇
〃 三 月 末	四、五五〇、二〇〇	五二二、九〇〇	二二五、四六〇		五、二九一、八八〇
〃 四 月 末	五、七六八、二〇〇	七二〇、九〇〇	三二五、五六〇		六、八六七、六三〇
〃 五 月 末	九、〇八六、二〇〇	七二〇、九〇〇	三二五、五六〇		一〇、一八五、六三〇
〃 六 月 末	九、三四一、二〇〇	七二〇、九〇〇	五六七、一六〇		一〇、七三〇、四八〇

備考 白銅貨幣、大同二年五月二十日ヨリ、青銅貨幣、同年八月ヨリ發行ス

四 外 國 貨 幣

現ニ我國ニ於テ流通スル外國貨幣トシテハ日本貨幣最モ多クヲ占ム。

橫濱正金銀行券

橫濱正金銀行券ハ日露戰後ニ於ケル軍票ノ整理回收ヲ目的トシテ光緒三十二年勅令第二四七號ヲ以テ橫濱正金銀行ノ關東州及清國ニ於ケル銀行券ノ發行ニ關スル件ヲ公布シ、鈔票ヲ以テ公私一場ノ取引ニ無限ノ通用力ヲ有スル法貨トシタルニ初マリ、民國六年十二月其ノ發行ヲ廢止セラルル迄全滿ニ於ケル取引ノ便ニ供セラレタリシカ、法貨タルノ資格ヲ喪失シタル後モ、鈔票カ銀本位ナルノ故ヲ以テ一般本邦人ノ習慣ニ適シテ信用厚ク、大連ヲ首メ滿鐵沿線ニ廣ク流通セラレタリ。

然レトモ建國後國幣ノ普及ト共ニ特產通貨トシテノ鈔票ノ地位ハ漸次國幣ニヨリ代位セラレ、今ヤ僅カニ國幣ノ未タ流通ヲ許サレサル關東州ニ於ケル特產物ノ建値並ニ爲替通貨トシテ使用サルルニ過キス。其發行額亦漸次收縮シツツアルハ次表ノ示スカ如シ。

橫濱正金銀行券(鈔票) 滿洲發行額

(單位千圓)

大同元年	發行額	大同二年	發行額	大同三年	發行額
一 月 末	一五、三〇六	一 月 末	五、三九二	一 月 末	三、一四一
二 月 末	一五、五四三	二 月 末	五、八八五	二 月 末	三、一三一

大同元年	發行額	大同二年	發行額	大同三年	發行額
三月末	一六、〇五四	三月末	五、〇二〇		
四月末	一六、〇八五	四月末	五、〇九四		
五月末	一三、一五三	五月末	四、四九七		
六月末	一一、九九八	六月末	四、〇四九		
七月末	一一、六三〇	七月末	三、六六〇		
八月末	五、八五五	八月末	三、六八九		
九月末	五、一〇七	九月末	三、四六七		
十月末	五、六四二	十月末	三、三三四		
十一月末	五、二五九	十一月末	三、三三二		
十二月末	五、六一七	十二月末	三、〇三七		

朝鮮銀行券 朝鮮銀行券ハ宣統三年三月發布ノ朝鮮銀行法ニ依リ發行セラレ金票ト稱セラルルモノナリ、而シテ鈔票廢止後ハ專ラ日本側法貨トシテ全滿ニ於ケル公私ノ取引ニ無制限ニ通用スルモノニシテ、諸官廳ノ收支、滿鐵運貨ヲ初メ日本人相互間ノ取引ハ凡テ金票ニ依ルニ至リ、其ノ額亦相當巨額ニ及ヒ、殊ニ我國ト日本トノ親交ハ日本側ニ於ケル商業並經濟界ヲ刺戟シ、治安維持ニ伴フ日本人口ノ増加ト共ニ其ノ流通額ハ漸次増加ノ傾向ヲ示シツツアリ。而シテ其在滿流通額ハ正確ニハ之ヲ捕捉シ得サレトモ朝鮮總督府ノ朝鮮內流通見込高並滿鐵經濟調查會ノ在滿流通推算額ヨリ鮮内七、滿洲三ノ割合ヲ出テサルモノノ如シ。

朝鮮銀行券在滿流通推定額

(滿鐵經濟調查會調) (單位千圓)

月次	鮮銀券發行高	在滿流通推算額
大同元年一月末	九一、九五五	二七、四五七
二月末	八一、三三一	二四、四八九
三月末	七九、〇三五	二三、八二一
四月末	七六、〇四七	二三、一五六
五月末	六九、四一〇	二一、九八二
六月末	七五、一五九	二三、五三二
七月末	七一、三九七	二一、八五五
八月末	七六、七九六	二五、二二〇
九月末	八二、二五三	二六、九二九
十月末	八九、七七三	三〇、五四九
十一月末	一〇九、九〇八	三六、七三一
十二月末	一二四、六二二	三四、六六四
大同二年一月末	一〇九、三六八	四一、一九九
二月末	一〇八、七九一	四〇、九八一
三月末	一〇七、二一四	三九、七七七
四月末	一〇八、〇四三	三九、九八七
五月末	一〇三、七〇五	三八、五七八
六月末	一〇九、五九七	四〇、六三九
七月末	一〇三、一一三	三八、九二五
八月末	一〇七、〇六六	四〇、三六四
九月末	一一五、六九一	四一、四二九
十月末	一一九、一八八	四二、四三一

月	次	鮮銀券發行高	在滿流通推算額
十一月末	〃	一三四、七五一	四六、一五二
十二月末	〃	一四八、一七六	四七、二九八

日本銀行券及日本補助貨 日本銀行券ハ主トシテ日本ヨリノ旅客ニヨリテ携帶セララルモノニシテ、朝鮮銀行金票ノ流通範圍ニ於テ流通スルモ、一度銀行ノ手ヲ通スルヤ直ニ引上ケラルルモノニシテ市場ニ之ヲ見ルコト少ナシ。
 日本補助貨タル五十錢銀貨、十錢、五錢白銅貨及一錢銅貨ハ尙廣ク日常取引ニ用イラル。
 其ノ他ノ貨幣 其ノ他北滿ニ於テ蘇聯紙幣ノ流通スルモノアルモ、國幣ノ普及ニヨリ現在ニ於テハ論スルニ足ラサルニ至レリ、又關東州及南滿一帶ニ小洋銀流通シ居ルモ之等モ漸次國幣ニ統一サルヘク期待サル。

第三節 金 融

一 概 況

建國第一年ニアリテハ諸般整頓ヘノ過程ニアリ、滿洲中央銀行ノ設立セラレタルハ建國ニ遅ルル三ヶ月、シカモ通貨ノ統一安定ヲ圖ルコト緊急ヲ要セシ爲ニ同年中ニ於テハ金融整備ナホ充分ナラサル憾ナキヲ得サリシカ、當局ノ努力ニヨリ大同二年ニ入りテハ通貨回收、金融機關整備ニヨリ金融概ネ圓滑トナリ、中央銀行トシテノ機能ヲ良ク發揮シタリ。

滿洲中央銀行ハマタ自ラノ資産ヲ整理シテ一層内容ヲ堅實ニスヘク、組織辦法第十一條ニ基キ政府ハ同行ノ合併繼承セル舊行號ノ資産負債ノ内容ヲ精査セル結果、資産總額四三三、三九六、六六七圓ノ中銷却ヲ要スルモノ一九八、三四五、三七四圓ニ上レルヲ認メ、右銷却ヲ要スル資産ニツキテハ大同二年二月二十三日繼承資産審定委員會ノ決議ヲ經テ、資本金諸積立金及舊政權預金等合計一六五、三四二、七九一圓餘ヲ以テ銷却補填シ、銷却不足額三三、〇〇二、五八三圓餘ニツキテハ大同二年四月二十六日敕令第二七號滿洲中央銀行繼承虧損補償公債條例ニ基キ五分利公債三三、〇〇〇、〇〇〇圓ヲ交附シ、資産内容ノ整理ヲ完了シ、名實共ニ中央銀行トシテノ實力ヲ具備スルニ至レリ。

中央銀行ハ合併繼承セルカ爲メ以前ヨリノ關係ニテ設立當初ハ銀行本來ノ業務ニアラサルモノモ附屬セルコト止ムナカリシカ、大同二年六月當舖、酒造、製油、雜貨賣買等ノ諸事業ハ、學ケテ新設ノ大興公司ニ移讓シ、特産物商ハコレヲ廢止シ、業務形態ニ於テモ完全ナル銀行トナルコトヲ得タリ。

政府ハ大同二年十一月銀行法ヲ公布シテ普通銀行ヲ指導スルト共ニ適當ノ取締ヲナシ健全ナル發達ヲナサシメントシ、法令發布ト共ニ其ノ名稱ノ如何ニ拘ラス、銀行營業ノ範疇ニ入ルヘキモノハ新ニ營業許可ヲ申請セシメ詮衡ノ上コレヲ許可シ、一面コレカ營業ヲ監督シテ過誤ナカラシメント期シタリ。コレニヨリ錢莊中ノ大ナルモノハ組織ヲ改メテ銀行トナシ、然ラサルモノハ兩替商ノ程度ニ踏ミ止マルコトトナリタリ。

但兩替業ハ國內通貨ノ統一及金融組織ノ整備ニヨリ著シク營業範圍狹小トナリタルヲ以テ、過度的存在トシテ經營セラレヘク、其反面銀行法ニヨル普通銀行ハ金融市場必須ノ機關トシテ政府ノ監督、中央銀行ノ援助ノ下ニ面目ヲ一新スルニ至レリ。

銀行以外ノ機關ニツキテモ政府ハ留意スルトコロアリ。金融梗塞ヲ打開スル目的ヲ以テ前年度ニ奉天省内ニ二個ノ金融

組合ヲ設立セシニ好成績ナリシニヨリ、大同二年度ニ於テハ奉天、吉林、黑龍江各省ニ合計十一組合ヲ設立、康徳元年六月末ニ於テ此等金融合作社ハ總數十三トナレリ、次年度ニ於テハ更ニ多數増設セラレヘシ。
 國內金利ハ成ルヘク低率ニ誘導スル爲中央銀行ハ元年七月金利ノ引下ヲ行ヒタルカ、二年七月更ニ各預金貸出共大幅ノ引下ヲ斷行シ、金融改善ノ成果ヲ得ツツアリ。
 特産物作附ニハ農家ハ相當ノ資金ヲ要スルニツキ、大同二年四月中央銀行ヲシテ農民春耕資金トシテ約一千九百萬圓ヲ限度トスル月息八厘ノ低利資金ヲ融通セシムルコトトシ、各省春耕貸款監理委員會援助ノ下ニ貸下ヲナシ農業經營ヲ妥順ナラシメタリ。
 一般資金ノ需要ハ原則トシテ農産物ノ出廻期間ニ於テノミ極メテ繁忙ニ春夏期ハ平靜トナリ其強弱ノ度大ナルヲ例トシタリシカ、建國以來諸事業勃興シ來リ其建設資金ノ需要ニヨリ、春夏期ニ於テモ繁忙トナリ高低ノ度ヲ減シタリ、シカモ其融資繁忙ノ中ニモ諸機關ノ整備ニヨリ金融市場圓滑ナルヲ得タリ。

二 金融機關

滿洲中央銀行 滿洲中央銀行ハ大同元年六月十一日敕令第二十六號滿洲中央銀行法及同日附敕令第二十七號滿洲中央銀行組織辦法ニ基キ政府ノ特設セル滿洲國通貨及金融ノ中樞機關ニシテ、其使命トスル所ハ（一）幣制ヲ統一シ、通貨ヲ安定セシメ、（二）中央銀行トシテノ機能ヲ盡スト同時ニ一般ノ銀行業務ニ任シ、（三）金融ノ統制、各種金融機關ノ整備、信用制度ノ達ヲ發圖ルニ在リ。大同元年三月十八日創立委員ノ任命ヲ見テヨリ三箇月ニシテ諸般ノ準備ヲ了リ、六月十五日創立總會ヲ開キ、七月一日開業シタリ。

一、資本及株式 其ノ資本金ハ三千萬圓トシ之ヲ三十萬株ニ分チ一株ヲ百圓トス（中央銀行法 第四條）株式ハ總テ記名式ニシテ株主ハ特ニ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ限ラレ、且政府ハ五萬株以上ノ引受義務アルト共ニ其ノ引受ケタル株式ハ之ヲ讓渡又ハ處分スルコトヲ得ス（中央銀行法 第六條、第八條）而シテ株式ノ募集ハ之ヲ分割シテ行ヒ、第一回ノ拂込金額ハ株金ノ二分ノ一以上トナセリ（中央銀行法 第五條、第七條）

二、積立金 每營業期ニ於テ資本ノ缺損ヲ補フ爲缺損補填準備積立金トシテ純益ノ百分ノ八以上ヲ、又利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲、配當平均積立金トシテ純益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツルト共ニ更ニ純益ノ百分ノ二十以上ヲ積立テ、金塊、外國金貨又ハ金勘定ノ預ケ金トシテ保有スルコトヲ要ス（中央銀行法 第三十六條）

三、政府納付金制度及株主配當保證 滿洲中央銀行法第三十七條ハ配當利益金カ年一割ヲ超ユル場合ノ政府ヘノ納付金制度ヲ規定スルト共ニ之レニ對應シテ同法第三十八條ハ政府以外ノ株主ニ對シ配當金ノ保證ヲ確立シ以テ利益ノ平衡ヲ期セリ。即チ滿洲中央銀行ノ株主配當金額ニシテ拂込資本ニ對シ年一割ヲ超過セルトキハ、其ノ超過額ノ四分ノ三ヲ政府ニ納付セシメ以テ中央銀行トシテノ特殊利益ノ獨占ヲ防止セリ。之ト共ニ配當シ得ヘキ利益金額カ政府持株以外ノ株式ノ拂込金額ニ對シ每營業期ニ於テ一年百分ノ六ノ割合ニ達セサルトキハ政府ハ創立年度ヨリ五年ヲ限リ六分ニ達スル金額ヲ補給シテ株主ノ配當ヲ保證ス（中央銀行法 第三十九條）

四、營業期及存立期間 一年ヲ二期ニ分チテ一月一日ヨリ六月三十日迄ト、七月一日ヨリ十二月三十一日迄トヲ各々一期ト爲ス。存立期間ハ設立認可ノ日ヨリ滿三十年トス、但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ得テ延長スルコトヲ得（中央銀行法 第三條）

五、業務ノ種類

貨幣ノ製造發行(中央銀行法(第三十條))

一般業務及附隨業務(中央銀行法(第十四條、第十五條、第十六條、第十七條))

一、政府發行ノ手形、爲替手形其ノ他商業手形ノ割引又ハ買入

二、金銀塊、外國通貨ヲ擔保トスル貸付

三、金銀塊、外國通貨ノ賣買

四、諸預リ金及當座貸越

五、金銀塊、外國通貨、貴重品並諸證券類ノ保護預リ

六、公債證書、政府發行ノ手形其ノ他政府ノ保證ニ係ル各種ノ證券ヲ擔保トスル貸付

七、確實ナル擔保アル貸付

八、平常取引約定アル諸會社、銀行又ハ商人ノ爲ノ手形取立

九、爲替及荷爲替

十、營業ノ都合ニヨリ國債證券、地方債證券其ノ他政府ノ指定スル確實ナル有價證券ノ買入並ニ財政部大臣ノ認可

ヲ受ケ公共團體及金融合作社聯合會ニ對シ無擔保貸付ヲナスコト(以上中央銀行法(第十條) 定款(第二十五條、第二十六條))

十一、政府ノ許可ヲ得テ借入金ヲ爲シ又ハ他銀行ニ預ケ金ヲ爲スコト(中央銀行法(第十五條、第十六條) 定款(第三十二條、第三十三條))

十二、國庫金取扱事務及地方團體ノ公金取扱事務ノ代理(中央銀行法(第十七條) 定款(第三十三條))

而シテ滿洲中央銀行ハ滿洲中央銀行法ニ定ムル以外ノ業務ヲ營ムコトヲ得サルモノトス(中央銀行法(第十八條))

六、業務上ノ禁止規定 中央銀行ノ業務ニ關シテハ次ノ禁止事項アリ

一、營業上ノ必要ナル物件ノ買入又ハ債務辨濟ノ爲メ引受ケタル物件ノ取得以外ノ動産及不動産ノ買取(中央銀行法(第十一條) 定款(第二十條、第二十一條))

第二十條

二、自行ノ株券ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ受入ルルコト(中央銀行法(第十二條) 定款(第二十七條))

三、自行員又ハ使用人ニ對スル貸付(中央銀行法(第十三條) 定款(第二十八條))

七、附屬營業 滿洲中央銀行法第十八條ハ本法ニ定ムル以外ノ業務ヲ營ムコトヲ得スト規定シタルモ、同法ニ附則ヲ設ケ

爾來舊官銀號ノ經營シ來レル附帶事業ハ之レヲ中央銀行内ニ實業局ヲ設置シ一年ヲ限リテ經營シ來リシカ、法定期限大同

二年六月末ヲ以テ完了セルニヨリ、以後ハ大興公司ノ經營ニ屬シ全ク中央銀行ノ羈絆ヲ脱スルコトトナリタリ。

八、役員 正副總裁各一人、任期五年、理事五人以上任期四年、監事三人任期三年、(中央銀行法(第十九條)) ニシテ正副總裁ハ

政府之レヲ任命シ、理事ハ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ選舉シ政府ノ認可ヲ得テ就任シ、監事ハ五十株

以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會之ヲ選任ス、(中央銀行法(第二十條))

但シ設立初度ノ理事及監事ハ特ニ政府之ヲ任命セリ(中央銀行法(附則(第四十五條)))

九、決議機關 決議機關ハ理事會、役員總會及株主總會トス。理事會ハ總裁、副總裁及理事ヲ以テ組織シ重要ナル行務ニ

關シ決議ヲナシ、役員總會ハ正副總裁理事及監事ヲ以テ組織シ特ニ重要ナル事項ニ付キ決議ヲナス。

株主總會ハ凡テノ株主ヲ網羅スル株主總會ノ決議機關ナリ。(中央銀行法(第三十一條) 定款(第三十四條、第三十五條))

一〇、地方委員會制度 地方委員會ハ重要業務ノ方針ニ關シ理事會ニ意見ヲ具申セシムル爲ニ重要各分行ニ設ケラレタル

モノニシテ(中央銀行法(第三十二條)) 地方委員三名(當該地方實業、商業、銀行界ヨリ) 及分駐理事並分行經理ノ五名ヲ以テ組織シ分駐理事ヲ以テ

委員長トセリ(中央銀行定款第五十一條、第五十二條)而シテ前項以外ノ分行ニ地方委員會ヲ設クル必要ヲ認メタルトキハ理事會ノ決議ニヨリ之レヲ設置スルコトヲ得、分駐理事ナキトキハ分行經理其ノ委員長トナル。(中央銀行定款第五十三條)

一、株主總會 株主總會ハ通常及臨時ノ二種トシ通常總會ハ毎年二月及八月ノ兩期ニ之レヲ開キ、臨時總會ハ次ノ場合ニ之ヲ開ク、(中央銀行法(定款第六十條)第三十五條、第六十一條)

一、總裁ニ於テ必要ト認メタルトキ。

二、監事ノ全員ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ其ノ招集ヲ請求シタルトキ。

三、資本金ノ五分ノ一以上ニ相當スル株主ヨリ總會ノ目的タル事項及理由ヲ示シテ其ノ招集ヲ請求シタルトキ。

一、營業所 總行ヲ新京ニ置キ全國ノ分支行ヲ統轄スルト共ニ奉天、吉林、哈爾濱、齊齊哈爾ノ四都市ニハ特ニ分行ヲ設ケテ管内各都市ニ於ケル支行ヲ管理セシメ、國內各地ニハ其ノ地方ノ事情ニ應ジ、支行又ハ辦事處ヲ設ケテ便宜必要ナル業務ヲ辦理セシメタリ。

滿洲中央銀行各行現狀

(大同三年二月末日現在)

總分支行別	完全開業	開業セルモ爲替取組未開始ノモノ	特殊事務ヲ取扱フモノ	停業セルモノ	計
總行營業處	一				一
直轄行	四				四
安東支行管轄	三〇				三〇
奉天支行管轄	三				三
吉林分行管轄	二九				二九
吉林分行管轄	六				六
計	四一				四一

分支行増減一覽表

(大同三年二月末日現在)

行	哈爾濱分行管轄	齊齊哈爾分行管轄	直轄	奉天分行管轄	吉林分行管轄	辦事處	齊齊哈爾分行管轄	合計
一日行數	二〇	一一	九	一	五	一	二	一一三
第一期末	一一	一一	五	一	二	一	二	一一三
第二期末	一	五						五
第三期末								二
十八日現在行數	一一	一一	二	一	二	一	二	一一三
創立當時ヨリノ増減	一一	一一	一〇六	三	五	二	一	一一三

分支行別	大同元年七月一日行數	第一期末現在行數	第二期末現在行數	第三期末現在行數	大同三年二月二十八日現在行數	創立當時ヨリノ増減
總行營業處	四一	四一	四一	四一	四一	一
直轄行						
安東支行管轄						
奉天分行管轄	五六	四九	四五	二九	三〇	三〇
吉林分行管轄	二二	二二	一九	三	二七	二
哈爾濱分行管轄	三三	三二	二九	一一	二二	一一
齊齊哈爾分行管轄						
合計	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一

分支行別	大同元年七月		第一期末		第二期末		第三期末		大同三年二月二十八日現在行數		創立當時ヨリノ増、減	
	一日行數	現在行數	現在行數	現在行數	現在行數	現在行數	現在行數	現在行數	増	減	増	減
業字總支行管轄	一五	一一九	九	一〇五	一〇六	六九	一五	八八				
支行計	二二五	一一一	九	一〇五	一〇六	六九	一五	八八				
辦事處												
直轄												
奉天分行管轄	一	一										
吉林分行管轄	一	一										
齊々哈爾分行管轄	一	一										
辦事處計	二	二										
臨時辦事處	一三三	二二七	一	二一六	二一六	九	二一三	二一三	一五	九七	一〇七	二
合計	三三三	二二七	一	二一六	二一六	九	二一三	二一三	一五	九七	一〇七	二

一三、營業成績概況 滿洲中央銀行ハ大同元年七月一日開業以來幣制ノ統一並ニ通貨ノ安定ヲ圖リ、舊行號ヨリ承繼セル業務ノ整理ヲ行ヒ金融ノ圓滑ナル流通及産業ノ開發ニ盡力シ來リシカ、治安ノ恢復、支店網ノ擴大整備、業務ノ刷新ニヨリ營業ハ着實ニ其ノ基礎ヲ固メ、配當六分ヲ持續シ極メテ好成绩ヲ擧ケタリ。

以下各期ノ貸借對照表ヲ見ルモ着實ナル營業成績ノ跡ヲ知リ得ヘシ。

滿洲中央銀行第一期決算

(イ) 貸借對照表

(大同元年十二月末日現在)

資 産		負 債	
部	部	部	部
未收資本	三〇,〇〇〇,〇〇〇圓	紙幣發行額	一五,一八六,五三九,五八七
政府放款	二七,六五九,〇一四,一七	定期存款	三〇,二五八,五七八,六六
定期放款	四〇,三一,三五九,〇八	活期存款	一,四〇九,三九九,九八
活期放款	四六,〇五七,七二九,八一	特別活期存款	二,七六八,八〇三,四三
他項放款	九,八九九,四八一,一三	雜項存款	二,五八四,八〇〇,八九
存放同業	五四,九一七,〇九八,三四	借入金	三,二六九,四三六,七八
保證支付抵押件	三,七五六,三七六,二〇	爲替	二,二六六,三九二,二七
未決算項目	四〇,八三三,八三二,二二	保證支	一,三三五,五六一,一四
有價證券	一一,九〇九,九八九,七二	未決算項目	三,七五六,三七八,二〇
生利金	二四,二一四,三四五,五六	當期純益	五,一三七,五九〇,四〇
財產項目	二〇,二二一,九四二,三四	當期總損益	三,六二,八〇八,六二
現金	八,七三三,九七五,六七	當期總益	三三,〇〇〇,〇〇〇圓
合計	三三三,〇一五,一四六,二四	合計	三三三,〇一五,一四六,二四

(ロ) 損益計算

一、銀六百六十五萬七千七百五十五圓七角六分
 一、銀六百二十九萬四千九百四十七圓一角四分
 差引銀三十六萬二千八百八圓六角二分

當期純益分配
 一、銀三萬圓
 一、銀一萬圓
 一、銀八萬圓
 一、銀二十二萬五千圓

第五編 商業、金融 第四章 通貨及金融

當期總益 三三,〇〇〇,〇〇〇圓
 當期總損益 三,六二,八〇八,六二
 當期純益 五,一三七,五九〇,四〇
 未決算項目 三,七五六,三七八,二〇
 當期總損益 三,六二,八〇八,六二
 當期純益 五,一三七,五九〇,四〇

缺損填補準備積立金
 利益分配平均準備積立金
 特別積立金
 股東紅利(週年六厘) 株主配當年六分

資產部		負債部	
他項放款	一〇,九八六,六五三.〇三	活期存款	二四,五五九,六四〇.二六
存放同業	五八,一一八,九四八.四六	特別活期存款	三,〇三〇,四四九.三七
保證支付抵件	七五〇,二九八.〇八	通知存款	五,三三三,九三七.八九
未決算項目	一〇,〇六七,四一五.八五	雜項存款	一,一七五,六一.二三
有價證券	五〇,三三〇,二八六.四八	同業存款	九六,四〇六.九三
生金銀及外國貨幣	二七,九八五,七八八.六六	借入	一八,二六五,九九三.二〇
財產項目	二一,六一七,二五一.三六	匯證	二,〇三五,三三九.八五
現金	四,四七四,四八三.〇〇	未決算項目	七五〇,二九八.〇八
合計	二九二,二三三,一八二.五三	前期純益	三九,一六四,二〇一.六三
		本期純益	一〇六,〇三三.九八
		合計	二九二,二三三,一八二.五三

(口) 損益計算

- 一、國幣六百五拾七萬八千八百八拾八圓四分整
- 一、國幣五百七拾九萬壹千八百參拾四圓五角六分整
- 以上兩項相抵七拾七萬九千五百參拾四圓八角八分整
- 又 國幣壹拾萬六千參拾參圓九角八分整
- 共計 國幣八拾八萬五千八百七拾七圓四分六分整

第三期利益處分

- 一、國幣六萬四千圓整
- 一、國幣壹萬六千圓整

填補缺損準備積立金 分配紅利平均準備積立金

本期總益	金
本期總損	金
本期純益	金
前期純益	金
合計	金

- 一、國幣拾六萬圓整
- 一、國幣三萬五千圓整
- 一、國幣四拾五萬圓整
- 一、國幣拾六萬八拾七圓四分六分整

滿洲中央銀行第四期決算

(康德元年六月末日現在)

特別積立金 幹部賞與 股東紅利(週年六厘) (株主配當年六分)

資產部		負債部	
未收資本金	一五,〇〇〇,〇〇〇.〇〇	公積金	三〇,〇〇〇,〇〇〇.〇〇
政府貸款	一九,一〇〇,〇〇〇.〇〇	紙幣	五二五,〇〇〇.〇〇
定期放款	一九,八七三,五二一.〇〇	政府存款	一〇〇,五四〇,九五六.〇〇
定期抵押放款	一一,三三三,六五一.二三九.六一	定期存款	五四,八六七,一七四.四八
活期存款	二八,六五六,五五七.八一	特別活期存款	六,七一八,一八三.九七
他項放款	九,七三三,二五一.七九	通知存款	二八,一二六,九五二.五三
存放同業	六〇,五四六,六九一.九六	雜項存款	三,九五四,六一二.八八
保證支付抵件	五七六,五七六.九〇	同業存款	三一,七六四,〇一五.〇八
暫付款項	一四,九一五,〇一五.七八	借入	一,七四七,九一〇.七三
有價證券	五七,二八九,三六四.四九	匯證	八二,〇七七.〇三
生金銀及外國貨幣	三七,〇八〇,六八七.六一	保證存款	一八,三四八,六二三.八五
財產項目	一九,二二三,〇六三.七一	前期收支	二,〇八八,四〇五.五八
現金	七,九〇二,六九六.六三	前期純益	五七六,五七六.九〇
合計	三三二,五三八,五六八.〇〇	合計	三三二,五三八,五六八.〇〇

一般金融機關

普通銀行 政府ハ建國以來普通銀行ニ關シ各種ノ法規ヲ制定發布シタルカ、其ノ重要ナルモノヲ示セハ次ノ如シ。

- (一) 銀行法(大同二年十一月九日教令第八六號)
- (二) 銀行法施行細則(大同二年十一月九日財政部令第二九號)
- (三) 依據銀行法第一六條之規定關於銀行特例之件(大同二年十一月九日財政部令第三〇號)
- (四) 道勝銀行清理規程(康德元年三月二十六日財政部令第五號)

顧ミルニ銀行法施行當時ニ於テハ銀行ト稱スルモノモ其ノ實質ニ於テハ舊式錢莊ト何等異ラサルモノ多ク、又會社ト稱シタルモノモ殆ント凡テ法定ノ手續ヲナシ居ラス、ヨツテ政府ハ先ツ經營方針ヲ立テシメ指導シテ之ヲ刷新セシムルト共ニ銀行經營主體ノ合理化及資本ノ充實ヲ勸奨シタルカ、其ノ有力ナルモノハ何レモ政府ノ趣旨ヲ體シ株式會社ニ改組シ銳意業務ノ改善ヲ圖リ、又増資ヲ行ヒタルモノモ相當多數ニ上リ其ノ面目ヲ一新シタリ。舊式錢莊中ノ有力ナルモノモ亦漸ク四圍ノ新情勢ニ覺メ政府ノ勸奨ニ基キ新式銀行ニ轉向シ、又ハ合同シテ新式銀行ヲ設立シテ業務ヲ刷新スルニ至レリ。銀行法施行後注目スヘキ現象ハ從來中華民國内ニ本店ヲ有スル滿洲國內支店カ本店ヨリ分離シ獨立ノ銀行ニ轉向シタルモノ多キコトニシテ、右ハ我國ノ保護ノ下ニ將來ノ發展ヲ期セントセルモノニシテ金融業者カ我カ金融監督行政ニ深キ信賴ヲ寄セ來レル一證左ト見ルヘシ。

銀行法ハ從來ノ銀行ニ對シテモ凡テ新ニ營業許可ヲ要スルコトトシ、其ノ期限ヲ康德元年十二月末日トナシ之カ申請書ノ提出期限ハ同年六月末日トナシタルカ、右ノ規定ニ基キ同期日迄ニ財政部大臣宛營業繼續申請書ヲ提出セルモノハ、内國側ニ於テ其數百二十一行ニ達シ、從來ノ銀行名ノモノハ勿論錢莊貨莊等銀行業ニ該當スル業務ヲ營ムモノノ凡テヲ網羅

セリ、政府ノ銀行營業許可ノ詮議ニ就テハ從來ノ金融機構ニ急激ナル變革ヲ來サシメサル方針ノ下ニ比較的寛大ナル態度ヲ取リタルモ、一面其ノ公共的性質ニ鑑ミ實情明瞭ナラサルモノニ就テハ遂一實地検査ヲナシテ地方經濟界ノ狀況竝ニ當該銀行ノ資産内容ノ實態ヲ檢討スルコトトシタリ。

申請濟内國銀行業者ヲ示セハ左表ノ如シ。

内國普通銀行

(財政部理財司銀行科調査 康德元年五月末日現在)

銀行名	所在地	資本金	備考	銀行名	所在地	資本金	備考
奉天商業銀行	奉天	一、〇〇〇、〇〇〇		錦泉	奉天	三〇〇、〇〇〇	
奉天匯華銀行	奉天	七八六、八一二		淵泉	奉天	三三、四六〇	
奉天林業銀行	奉天	一、〇〇〇、〇〇〇		萬源	奉天	二七、〇〇〇	
奉天世合公銀行	奉天	一一五、〇〇〇		聚盛	奉天	一、〇〇〇	
奉天儲蓄會	奉天	二、二五〇、〇〇〇		億中	奉天	三、〇〇〇	
濟東銀行	濟東	三〇〇、〇〇〇		天昌	奉天	一〇〇、〇〇〇	
益和銀行	益和	一一一、二〇〇		安東實業銀行	安東	一、六〇〇、〇〇〇	
益增慶銀行	益增	二四、〇〇〇		安東地方儲蓄會	安東	四〇〇、〇〇〇	
永和久銀行	永和	五〇、〇〇〇		永利	奉天	一一、〇〇〇	
信誠永銀行	信誠	五〇、〇〇〇		元貞	奉天	一七、八〇六	
泰記	泰記	五〇、〇〇〇		天來	奉天	一六、八〇〇	
成元	成元	五〇、〇〇〇		義興	奉天	一〇、〇〇〇	
富森	富森	五〇、〇〇〇		福興	奉天	九、〇〇〇	
義泰	義泰	四五、〇〇〇		義興	奉天	六、五〇〇	
義泰	義泰	三〇、〇〇〇		營口商業銀行	營口	一、〇〇〇、〇〇〇	

銀行名	所在地	資本金	備考
營口地方儲蓄會	營口	一二五〇〇〇	
永泰恒錢莊	"	二二〇〇〇	
福順仁銀行	"	六〇〇〇〇	
福順義厚	撫順	五〇〇〇〇	
梨樹儲蓄銀行	梨樹	二〇〇〇〇	
永盛泉銀行	綏中	一八〇〇〇	
東順增記銀行	"	四、五〇〇	
同順成記銀行	"	一八〇〇〇	
成發源	復縣	五〇〇〇〇	
謙源興	新民縣	五〇〇〇	
公順合銀行	義縣	一〇、〇〇〇	
慶祜隆銀行	"	五〇〇〇〇	
聚隆號銀行	"	一〇、〇〇〇	
文瑞成銀行	"	五、一〇〇	
同聚源銀行	"	一〇、〇〇〇	
景星慶銀行	錦縣	一〇、〇〇〇	
永和盛銀行	"	三、〇〇〇	
信義成銀行	"	二、〇〇〇	
天成玉銀行	"	二、〇〇〇	
德昌永銀行	"	一、〇〇〇	
榮興銀行	"	二、〇〇〇	
祐德興銀行	"	一、〇〇〇	
惠華銀行	新東京	三〇〇、〇〇〇	
益發銀行	"	一〇〇、〇〇〇	
益通銀行	"	一〇〇、〇〇〇	
義合銀行	"	一〇〇、〇〇〇	
福成記銀行	吉林	六三、〇〇〇	
功成玉銀行	"	七、五〇〇	
會源記	"	五〇〇、〇〇〇	
益和順	"	二六、六七〇	
天和	"	一四、〇〇〇	
大同儲蓄會	哈爾濱	二〇〇、〇〇〇	
天和興銀行	"	一〇〇、〇〇〇	
中泰銀行	"	一四〇、〇〇〇	
恒聚銀行	"	二四〇、〇〇〇	
福順德銀行	"	二〇〇、〇〇〇	
增利泰	"	一、〇〇〇	
同聚利	"	一〇〇、〇〇〇	
恒豐	"	一、〇〇〇	
哈爾濱太國民銀行	"	一〇〇、〇〇〇	
環城銀行	"	二四、〇〇〇	
遠東銀行	"	五〇〇、〇〇〇	
廣聚祥	"	一、〇〇〇	

銀行名	所在地	資本金	備考
玉合成	哈爾濱	一、三七一	
天裕祥	"	一〇、〇〇〇	
恒裕隆	"	九、〇〇〇	
公和泰	"	五〇、〇〇〇	
雙興茂	"	一、〇〇〇	
泰興	"	二、七五四	
瑞興	"	五〇、〇〇〇	
哈爾濱房地業主公會	"	二二七、〇〇三	
儲蓄會	"	八〇〇	
福泰盛	"	四〇〇	
東順昌	"	八〇〇	
公順和	"	四〇〇	
公順祥	"	六〇〇	
東遠順	"	一、〇〇〇	
振發和	"	五〇〇	
萬興棧	"	?	不詳
普昌號	佳木斯	二四、〇〇〇	
福盛東	賓州縣	八、〇〇〇	
榮元亨	綏化	二五、四八〇	
福發合	滿洲里	二四、〇〇〇	
滿洲里商業銀行	"	四〇、〇〇〇	
東盛銀號	"	一一、〇〇〇	
東興銀號	"	一一、〇〇〇	
興盛銀號	海拉爾	三二、〇〇〇	
濟東銀號	"	三五、〇〇〇	
福源銀行	"	三〇、〇〇〇	
和盛	洮南	二〇、〇〇〇	本店ハ四平街ニアリ
人和	"	"	
和盛	"	"	
計	遼源	一〇五	
	遼源	一四、六二〇、九一九	
		(基金) 四、〇五四	

備考 本表中銀行法施行後新設シタルモノ一、銀行法第二十一條ノ規定ニ依リ營業繼續ノ許可ヲ與ヘタルモノ一、爾餘ノ各銀行ハ何レモ銀行法第二十一條ノ規定ニ依リ康德元年十二月末日迄ニ營業繼續ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ、爾後營業ヲ繼續スルコト能ハザルモノナルヲ以テ今直ニ銀行トハ言ヒ難キモ、銀行法第一條ニ掲ゲタル業務ヲ營ムモノハ凡テ之ヲ收メタリ。但シ内容ノ判然セザルモノハ之ヲ除ク。

內國普通銀行資産負債表

(財政部理財司銀行科調査) 康德元年五月末日現在

錢莊錢舖業態概況(其二)

地方別	營業項目						取引				從事員數	出資者國籍				
	預金	貸付	兌換	爲替	有	無	中央	正隆	滿洲	中國		交通	朝鮮	正金	國內	民國
大通	三	一八	三	七	三	一	九	七	一八	二	三	一	二	七	三	六
奉天	一三	一五	三	三	一六	四	五	一	四	三	二	四	三	一五	三	六
營口	一	一	四	二	四	一	三	四	一	三	一	四	二	二	三	六
撫順	一	一	四	二	四	一	三	四	一	三	一	四	二	二	三	六
遼陽	一	一	四	二	四	一	三	四	一	三	一	四	二	二	三	六
四平街	一	一	四	二	四	一	三	四	一	三	一	四	二	二	三	六
本溪湖	一	一	四	二	四	一	三	四	一	三	一	四	二	二	三	六
瓦房店	一	一	四	二	四	一	三	四	一	三	一	四	二	二	三	六
鐵嶺	一	一	四	二	四	一	三	四	一	三	一	四	二	二	三	六
海城	一	一	四	二	四	一	三	四	一	三	一	四	二	二	三	六
遼源	一	一	四	二	四	一	三	四	一	三	一	四	二	二	三	六
郭家店	一	一	四	二	四	一	三	四	一	三	一	四	二	二	三	六
新民	一	一	四	二	四	一	三	四	一	三	一	四	二	二	三	六
昌圖	一	一	四	二	四	一	三	四	一	三	一	四	二	二	三	六
新京	一	一	四	二	四	一	三	四	一	三	一	四	二	二	三	六

地方別	營業項目						取引				從事員數	出資者國籍				
	預金	貸付	兌換	爲替	有	無	中央	正隆	滿洲	中國		交通	朝鮮	正金	國內	民國
吉林	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
公主嶺	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
敦化	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
樺甸	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
哈爾濱	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
海倫	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
泰安	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一面坡	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
錦州	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
義縣	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
綏中	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
山海關	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
齊齊哈爾	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
洮南	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
拜泉	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
海拉爾	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
滿洲里	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
通遼	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
承德	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

